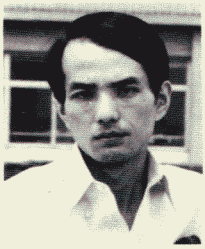
ジャガーバックス

太平洋戦争 日本の軍艦

■山梨 賢一

カラー版

編者のことば

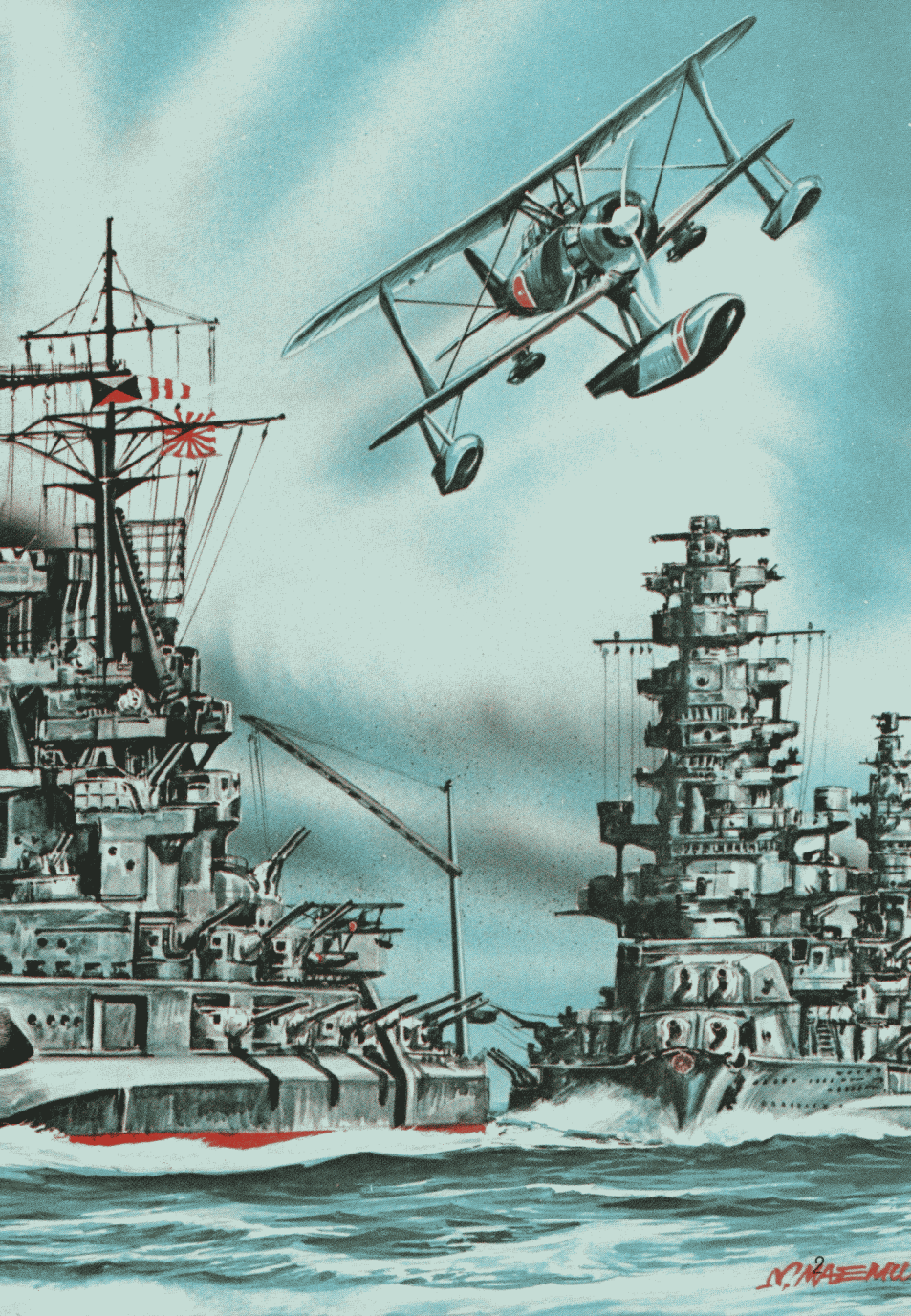


山梨賢一

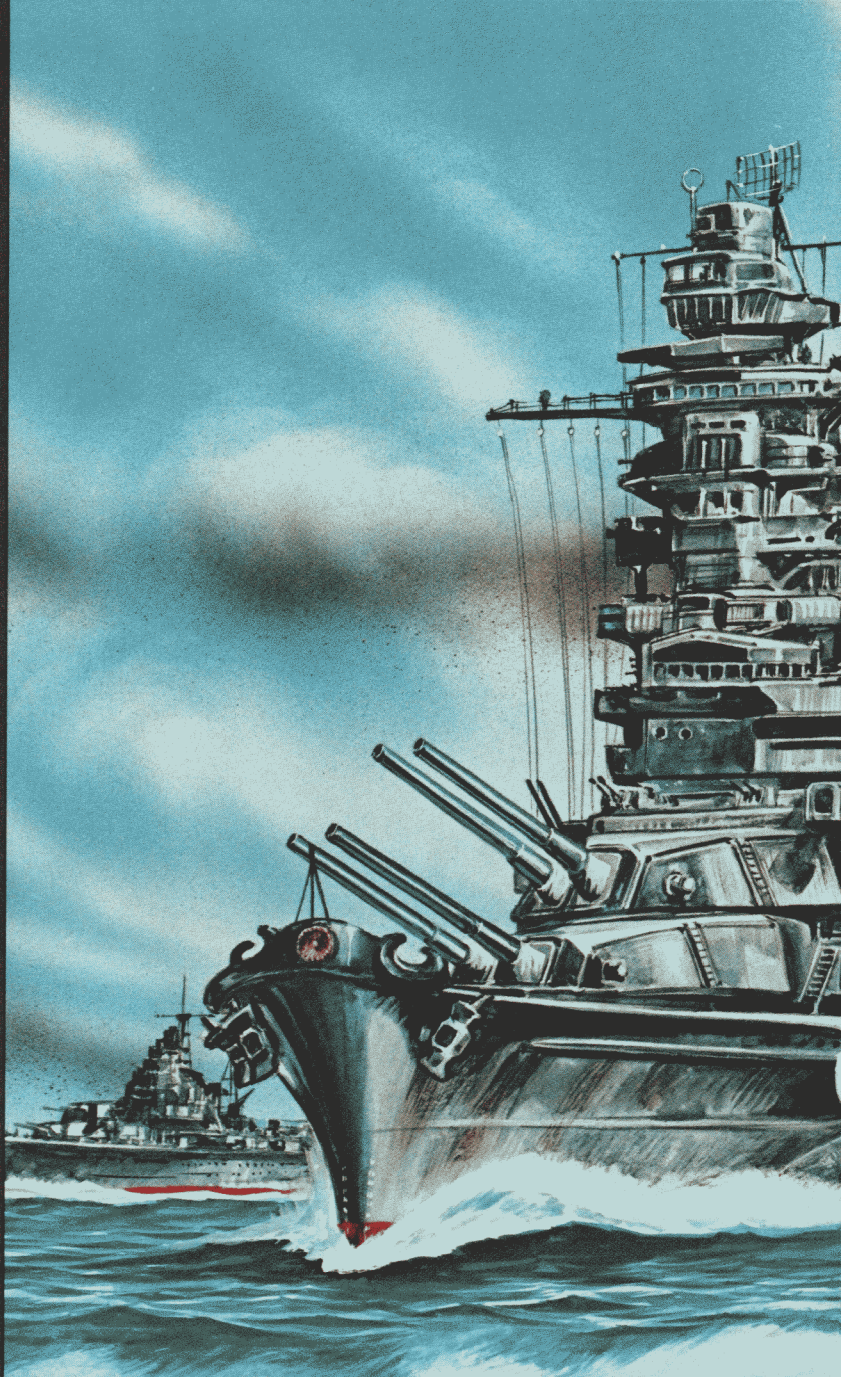
戦いのためにつくられた船・軍艦は、いつかは沈められるかもしれないという宿命を背おっています。それだけに、軍艦には、戦国時代の武将たちの姿にもにた、きびしく悲愴な美しさがあります。この本には、そのほとんどが海底の藻くずと消えさってしまった日本の主要軍艦の、ありし日の姿を紹介してあります。

太平洋戦争 日本の軍艦

発行・立風書房



●太平洋戦争と連合艦隊



▶開戦当時の連合艦隊主力艦。前より戦艦「長門」「山城」「金剛」。

●太平洋戦争と連合艦隊

連合艦隊が太平洋戦争に突入するとき立てていた基本的な作戦は、戦艦群を主力とする砲力戦によって、敵の艦隊と一大洋上決戦を行なおうというものであった。

もちろん、日本海軍が得意とする夜戦の構想も、お膳だてができていた。

そのころ、しだいに整備されてきた航空母艦や陸上基地の航空部隊は、主力艦部隊による巨砲戦を支援する、側面的な戦力ぐらいにしか考えられていなかった。

昭和十六年、いよいよ開戦がまぢかに迫ってきたころ、連合艦隊の編制は九つの艦隊によって成っていた。

第一、第二、第三、第四、第五、第六の艦隊、第一航空、第十一航空、南遣の九艦隊である。

そのうちで主力部隊と称していたのは「長門」「陸奥」「伊勢」「日向」「扶桑」「山城」を中心とする戦艦部隊であった。さらにその後参加する「大和」「武蔵」に、連合艦隊は大きな期待をかけていた。

ところが、ひとたび戦端が開かれると、作戦の様相はガラリと変わってしまった。

まず開戦日のハワイ奇襲作戦では、第一航空艦隊の「赤城」「加賀」「蒼竜」「飛竜」「翔鶴」「瑞鶴」の六空母から飛び立った飛行機が、アメリカの太平洋艦隊の主力である戦艦群をたたきつぶしてしまった。

さらに一日おいた十二月十日には、マレー沖でイギリスの誇る戦艦二隻を基地航空部隊

の飛行機が撃沈してしまった。

まだ戦艦群が一発も発砲していないのに、

◀連合艦隊司令長官・山本五十六

それまで主力部隊の補助兵力と考えていた航空機が、海上戦闘に革命を起こしてしまったのである。

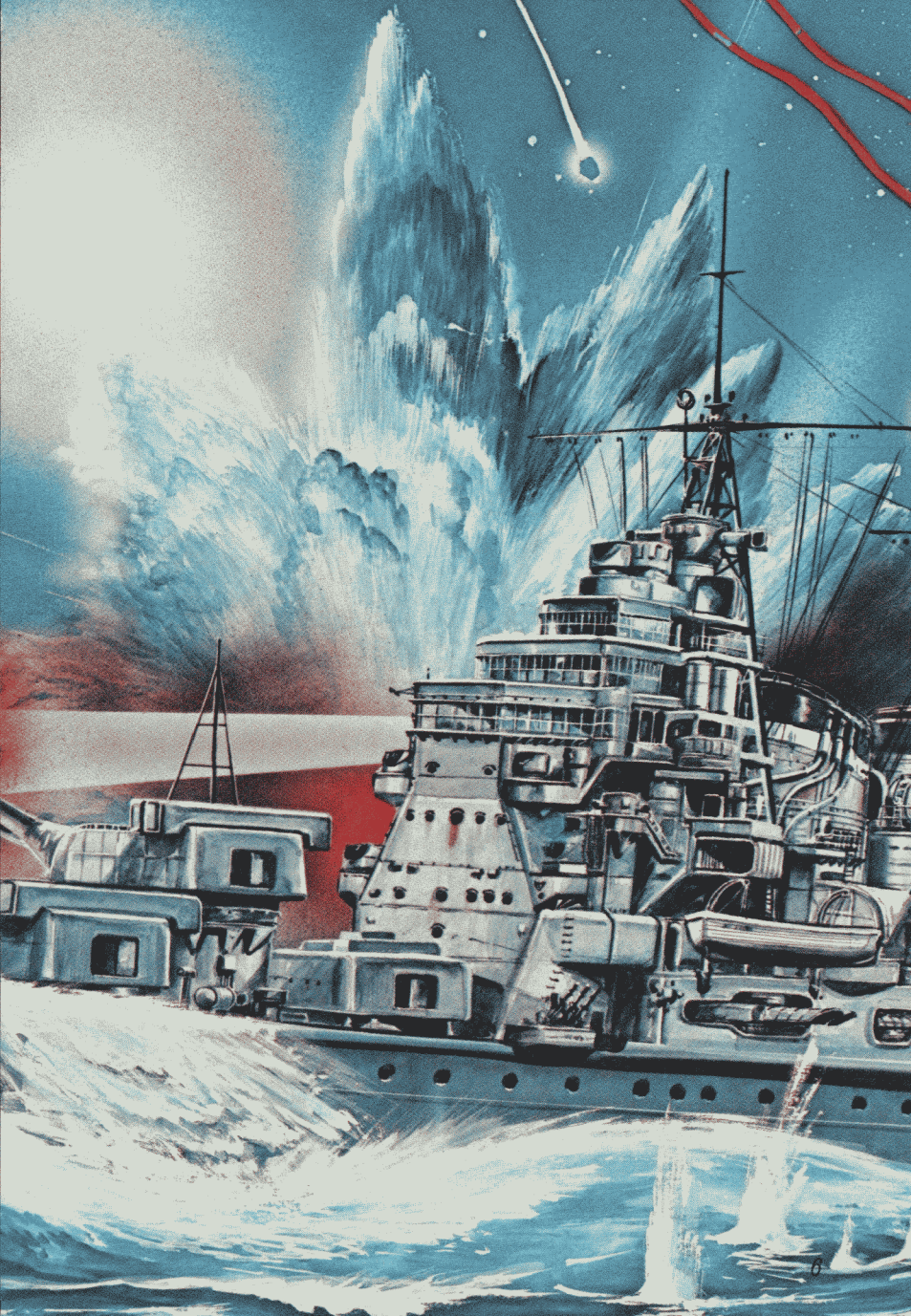
この新傾向は翌十七年六月五日、ミッドウエー海戦で、空母「赤城」「加賀」「蒼竜」「飛竜」の四艦を、敵艦上爆撃機によって一挙に失ったことで決定的となった。

もはや艦隊決戦の夢は破れたのである。戦艦の巨砲をもってしても、航空機攻撃にはかなわないことを、連合艦隊は悟らざるを得なかった。

だが、母艦兵力が海上作戦の主力であると気がついたときはすでにおそかった。

主力空母四隻を失った連合艦隊は、飛行機の傘のないまま、向こう三年間を、太平洋上で敵機相手に苦しい戦闘をつづけなければならなかった。

（解説・佐藤和正）



●夜戦とレーダー

▶ツラギ夜襲戦で奮戦する重巡洋艦「鳥海」。

●夜戦とレーダー

日本海軍は、伝統的に夜戦が強かった。夜戦訓練は、海軍における重要な訓練で、月のない、暗黒の洋上でも、敵艦を肉眼で先に発見できるよう、猛烈な訓練が行なわれた。

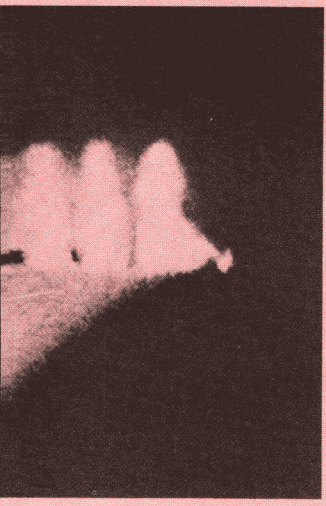
このために日本海軍は、鍛えあげた見張り術を基礎とする夜戦の技術は世界一で、どんな状況下であっても、夜戦になればかならず勝つという自信があった。

見張員は、どんな闇の夜でも、肉眼で距離五〇〇〇メートル先の敵艦を発見するほどだった。その成果をはっきり示したのが、昭和十七年八月九日の真夜中に行なった第一次ソロモン海戦のときであった。

敵重巡四隻撃沈、一隻大破、駆逐艦二隻大破、二隻小破という大戦果をあげた。日本軍は重巡五隻、軽巡二隻、駆逐艦一隻の計八隻で攻撃をかけ、損害はゼロであった。まさに夜戦の神髄を発揮した戦いであった。

ところが十七年十月十一日に、ソロモン海域のサボ島沖で、ふたたび夜戦を決行しようとしたわが艦隊は、こんどは敵の砲火でさんざんなめにあった。このとき敵艦には、はじめてレーダーが備えられたのである。

このレーダーはきわめて優秀なもので、方



向と距離を出すことができ、一万六〇〇〇メートルの位置から、日本の艦隊の動きを正確に読みとっていたという。

このとき以来、日本軍は敵のレーダーによって苦戦をつづけるのである。

日本でもレーダーの研究は行なわれていたが、アメリカよりはるかにおくれていた。はじめてできたレーダーは21号電探で、昭和十七年八月、「伊勢」「日向」「武蔵」にとりつけられた。だがこの21号は対空専用で、五十五キロから八十キロ先の敵機をとらえた。

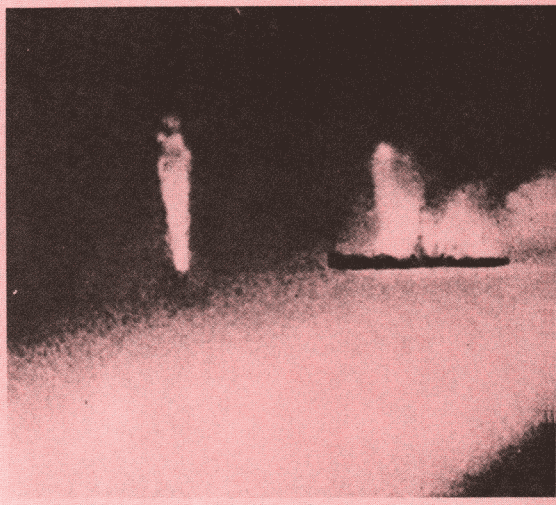
ついで十八年末に、22号電探ができた。これは対水上艦艇専用で、戦艦なら三十五キロ先まで探知できた。

さらに十九年の初めに簡単に移動できる簡易電探として13号電探ができたが、方向性はあるが距離の出ないレーダーだった。

このように、日本海軍もレーダーを採用したが、アメリカのように、レーダーだけを手がかりにして、正確に敵艦に集中砲撃できるほどの精度はなかった。

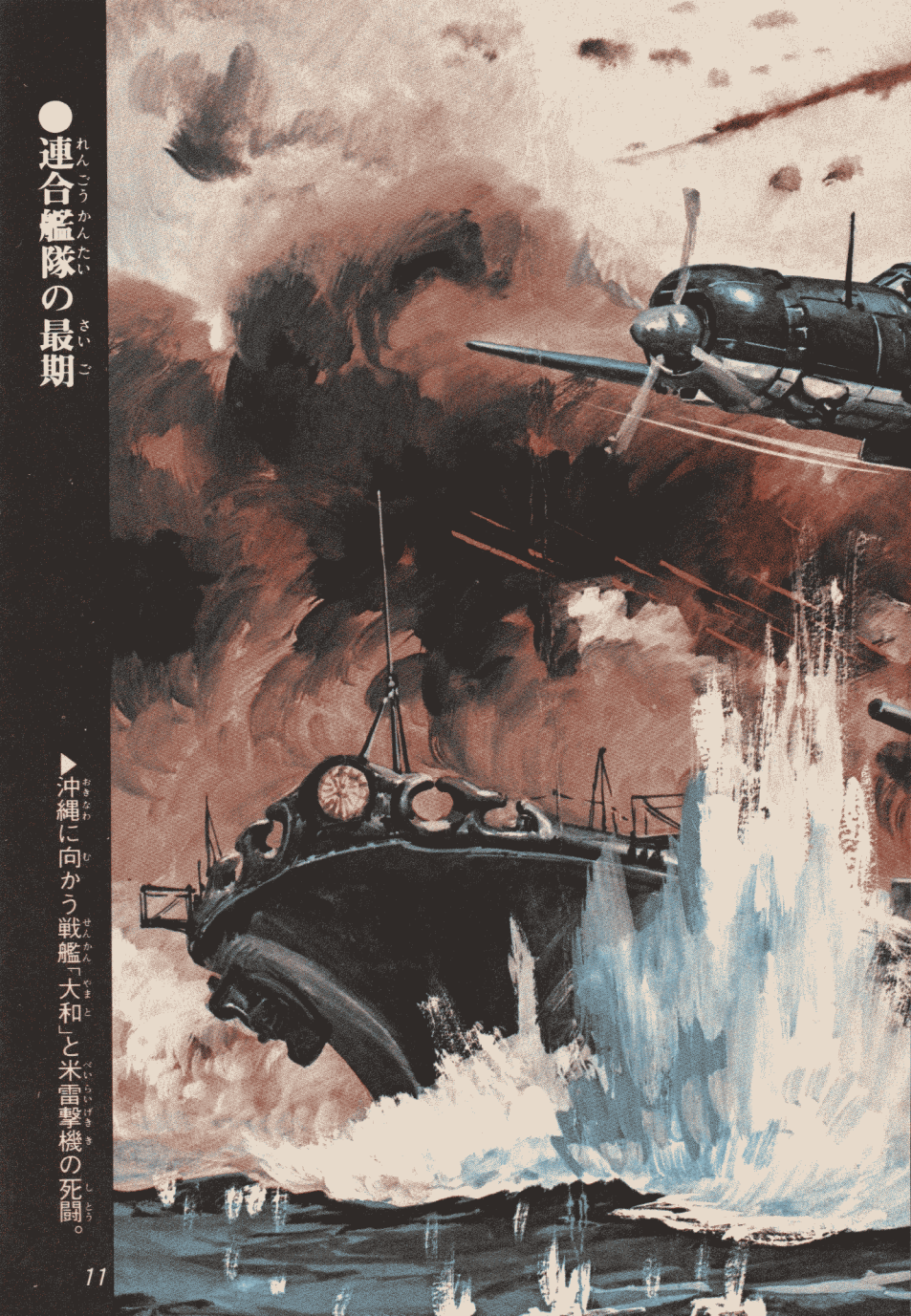
このために、太平洋戦争ではお家芸の夜戦が完全に封じこめられたのであった。

（解説・佐藤和正）



▶得意の夜戦・二隻の英巡洋艦に魚雷命中

114



●連合艦隊の最期

▶沖縄に向かう戦艦「大和」と米雷撃機の死闘。

●連合艦隊の最期

ミッドウェーの敗北以来、航空戦力が極端に減少した連合艦隊は、その後の戦いの天王山といわれたソロモン海域でもジリジリと押されつづけ、ついにガダルカナル島が敵手に落ちたときからガタガタとくずれだしたのであった。

最後の艦隊決戦を企図したマリアナ沖海戦では新鋭空母「大鳳」が敵潜の餌食となり、起死回生の大海戦をいどんだ捷一号作戦では世界最大の巨艦「武蔵」が、敵機によってシブヤン海の底深く撃沈された。

後退につぐ後退の中で、最後の決戦である沖縄の攻防がはじまり、戦艦「大和」が特攻として出撃、だが、坊の岬沖であえない最期をとげるに至った。

連合艦隊はついに、海軍の象徴をも失ったのであった。

太平洋戦争中の三年八か月にわたる長い激しい戦闘のあと、それまで連合艦隊が保有していた六三七隻の軍艦のうち、撃沈されたもの四一〇隻、大中破したもの五十九隻、かろうじて残った軍艦は一六八隻であった。

このうち、ただちに動ける作戦可能な軍艦は、次の四十三隻のみであった。

軽空母＝鳳翔（一隻）。

巡洋艦＝八雲　酒匂　鹿島（三隻）。

駆逐艦＝沢風　雪風　汐風　夕風　波風　神風　春風　冬月　涼月　春月　夏月　花月　宵月　柳　潮　響　初霜　竹　桐　杉　萩　樺　椿　榎　槇　樫

栗楠（二十八隻）。

潜水艦＝イ一四　イ三六　イ二〇一　イ二〇三　イ四〇〇　イ四〇一　イ四〇二　イ五〇一　イ五〇二（九隻）。

特務艦＝長鯨　箕面（二隻）。

戦艦、重巡洋艦は一隻もなく、かろうじて一万トン前後の軍艦が六隻あるといった状態であった。

これではもはや、戦力とはいえない連合艦隊である。この時点で日本は、敗戦を迎えたのであった。

その後、中破状態の戦艦「長門」と航空母艦「葛城」は修理され、軽巡「酒匂」とともにアメリカが接収し、この三隻を含めた数隻をビキニ環礁に引航し、原爆の実験に供したのであった。

さらに残った艦艇は、戦勝国のアメリカ、イギリス、ソビエト、中国の四か国が戦利艦として公平に分配したのである。

（解説・佐藤和正）

▶米機の攻撃を受け死闘をつづける「大和」艦隊

●潜水艦の活躍

日本は、太平洋戦争中、イ号・ロ号あわせて一九〇隻の潜水艦を保有していた。潜水艦隊は、海上偵察、通商破壊、物資輸送などの重要な任務に活躍したが、損害も大きく、終戦時には五九隻だけを残したすべてが失われていた。

▶ミッドウェー海戦において損傷をうけた米空母「ヨークタウン」にとどめの雷撃をくわえた「イ168潜水艦」。

目次

太平洋戦争と連合艦隊……2
夜戦とレーダー……6
連合艦隊の最期……10
潜水艦の活躍……14

●戦艦
武蔵……20
扶桑……30
長門……32
金剛……34
伊勢……36
大和……38

古鷹……118
最上……120
妙高……122
矢矧……124
球磨……126
川内……

巡洋艦について……

●駆逐艦
陽炎……130
狭霧……136
朧……138
秋月……140
朝雲……142
桃……

●駆逐艦について……145

劇画「激闘水雷戦隊」……

劇画「戦艦武蔵消ゆ」……41
●戦艦について……62
●航空母艦
飛竜……66
赤城……70
蒼竜……72
大鳳……74
海鷹　翔鶴……76
信濃……78
●空母について……80
劇画「空母飛竜の最期」……83
●巡洋艦
高雄……106
夕張……114
●潜水艦
イ号潜水艦……162
ロ号潜水艦……166
イ号四〇〇型潜水艦……170
特殊潜航艇……172
●潜水艦について……174
●海軍小事典
その他の艦艇……177
世界の軍艦……186
日本海軍の夜明け……192
日本軍艦の命名法……194
手旗信号とモールス信号……196
帝国海軍の階級章……200
太平洋戦争の主な海戦……202

日本の軍艦について

山梨賢一

第二次世界大戦のうち、ヨーロッパ戦争が陸軍の戦いであったのにたいして、太平洋戦争は海軍の戦いだったといわれます。

あの広い太平洋を舞台に、日、米、英の軍艦が、鋼鉄の巨体を激突させて、必死の闘いをくりひろげたのです。しかし栄光を誇った日本の「帝国海軍」も、大和とともに海底に消えていきました。今、海はただ、青い光を残してゆらめいているだけです。

戦う船〝軍艦〟は、造られたときから、すでに「いつかは沈められるかもしれない」という、悲壮な宿命をせおっています。それはつねに死の影をひきつれて生きねばならなかった、あの戦国の武将の姿にもにています。

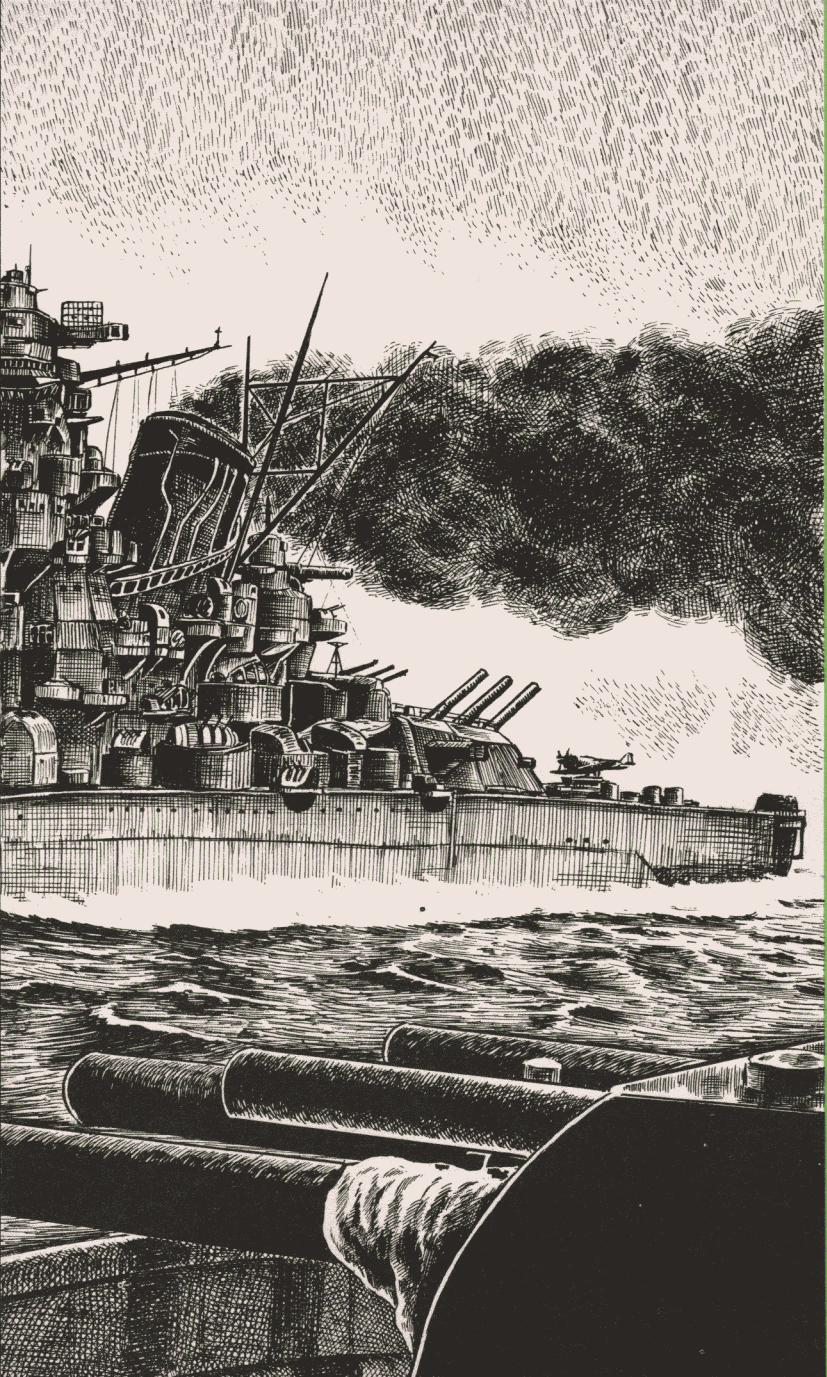
それだけに、軍艦の持つ異様なきびしさと美しさは、私たちの心を、今なおふしぎな力でとらえつづけるのでしょう。太平洋戦争に参加した数多い艦艇の中から、代表的な艦艇をとりあげてみました。

なお、主要艦の大半は、たび重なる改装をうけており、中には、初期の艦型とまったく異なる姿となった艦もあります。各艦のデータは、最終改装時の数値をかかげました。

各艦のデータ表示のうち、全長とは水線長であり、また数値は、小数点2位以下を四捨五入してあります。

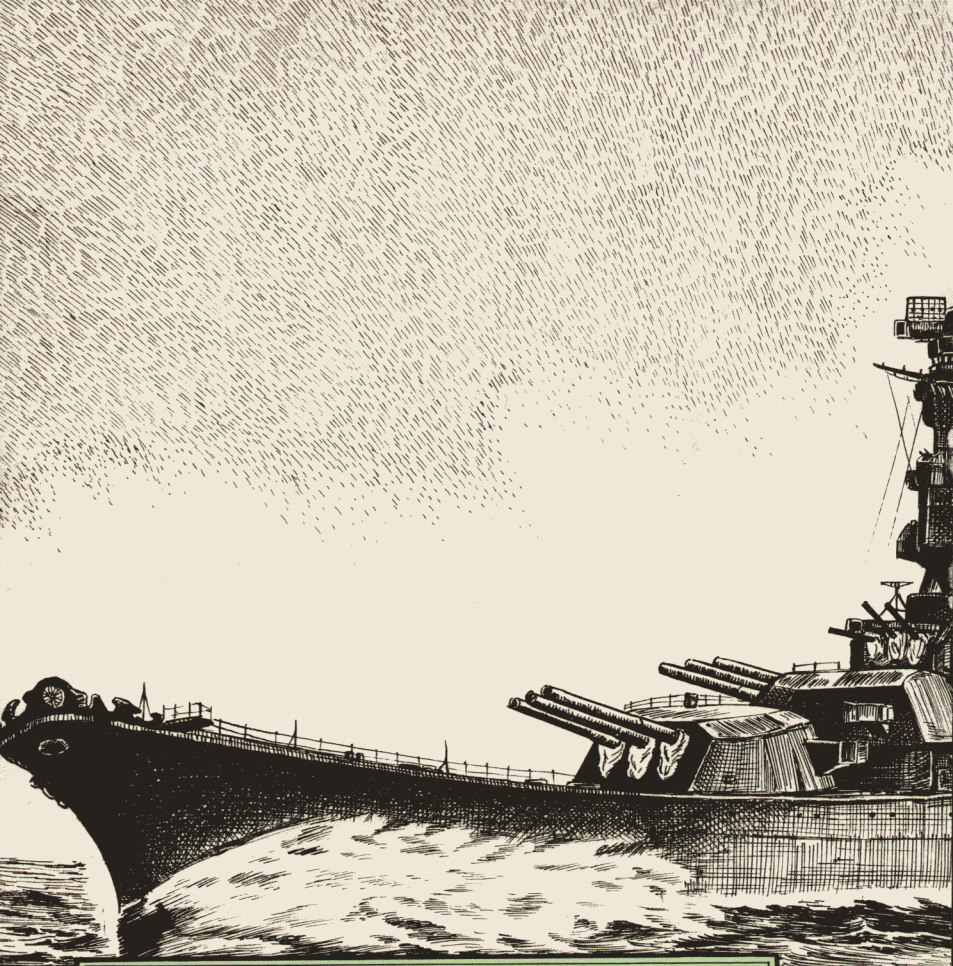
戦艦

すぐれた防御力とすさまじい砲撃力をもって敵艦隊に戦いをいどみ，これの息の根をとめる——これが“海の城”戦艦だ。英艦ドレッドノートに始まる世界の戦艦建造競争は，この第2次大戦にいたってピークにたっした。



戦艦 武蔵

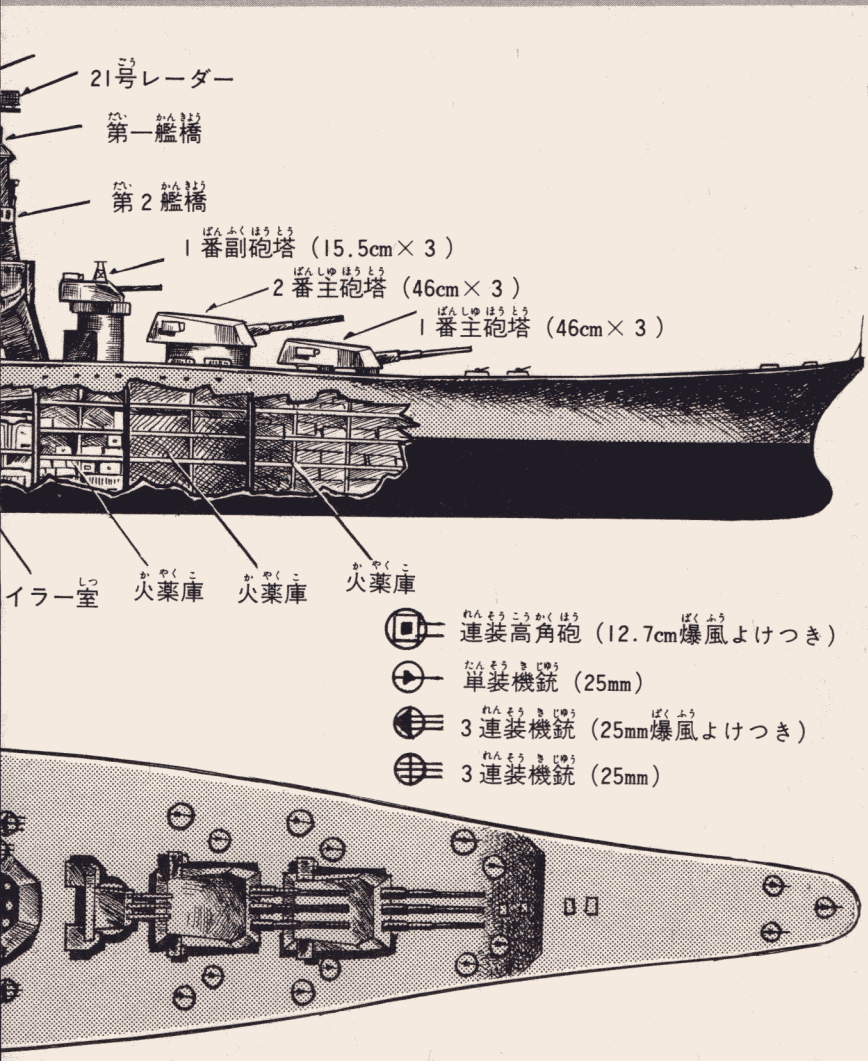
完成当時、「大和」とならび不沈をうたわれた世界最大の超ド級戦艦。

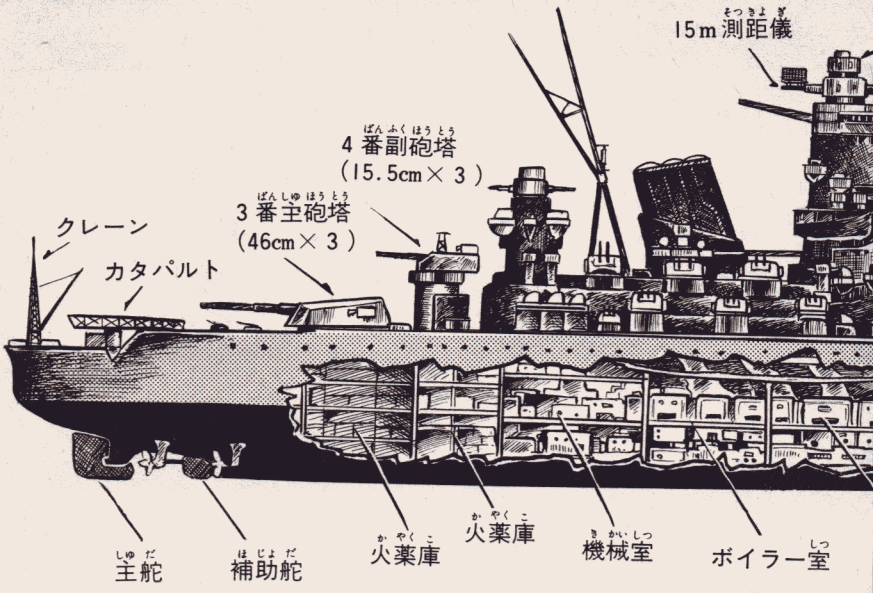


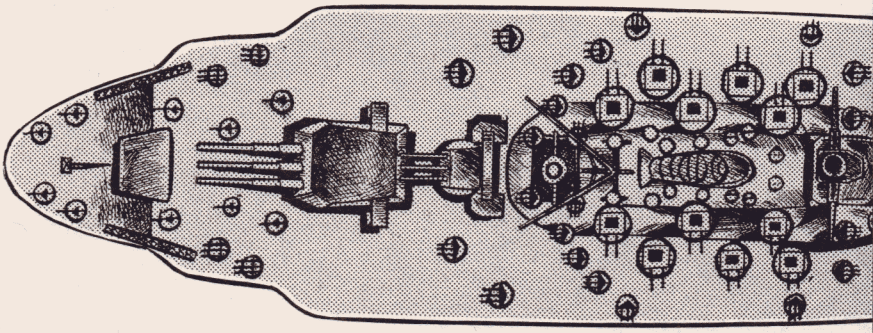
基準排水量	64,000トン	主砲	46センチ砲9門
公試排水量	69,100トン	副砲	15.5センチ砲12門
全長	263メートル	高角砲	12.7センチ砲12門
最大幅	38.9メートル	機銃	201丁
最大速力	27.0ノット	搭載飛行機	7機
航続距離	13,300キロ	内火艇	9隻

世界最大の排水量と主砲をもち，当時これを破れる戦艦は連合国のどこにもなく，不沈艦と考えられていた。

武蔵のしくみ


21号レーダー
第一艦橋
第2艦橋
1番副砲塔（15.5cm×3）
2番主砲塔（46cm×3）
1番主砲塔（46cm×3）
イラー室
火薬庫
火薬庫
火薬庫
連装高角砲（12.7cm爆風よけつき）
単装機銃（25mm）
3連装機銃（25mm爆風よけつき）
3連装機銃（25mm）

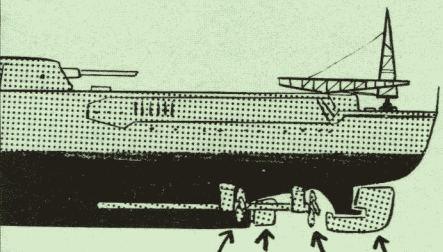

15m測距儀
4番副砲塔
(15.5cm×3)
3番主砲塔
(46cm×3)
クレーン
カタパルト
主舵
補助舵
火薬庫
火薬庫
機械室
ボイラー室

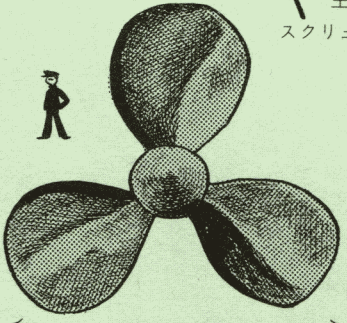


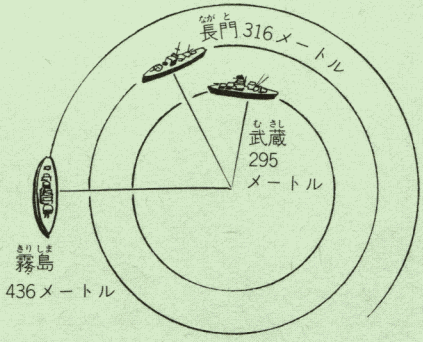
●武蔵の全長 263メートルは東京（丸の内）駅とほぼおなじ。また、その高さは55メートルで15～18階建てのビルとくらべられるほどだ。

●しかし、現在では40万トンのタンカーが海上を走り、70万トンのタンカーも計画されているので、武蔵の巨大さも、やや色あせた感じだ。

●武蔵は、巨体のわりに小まわりがきいた。その秘密は、2枚のカジにあったといわれている。



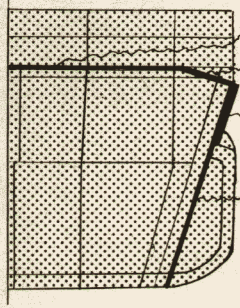




防御のしくみ

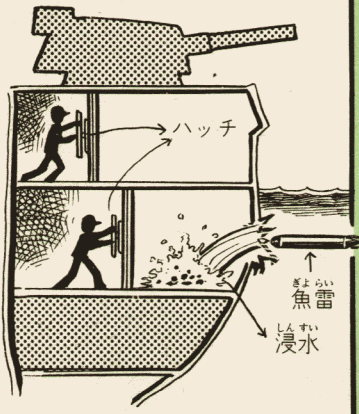
その防御力は、大和とならんで世界に比類のないものだった。

●防御甲板



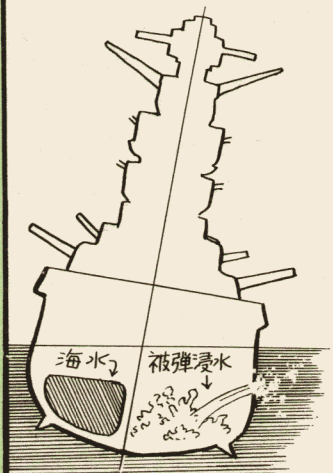
●二重、三重の防水区画

大和は弾火薬庫、砲塔、ボイラー室、機関室など重要部分を、厚い鋼板で防御し残りの部分を細い部屋に区切って防水区画とした。これによって艦がまんいち損傷を受けた場合も各室のハッチを閉じ、そこだけで浸水をくいとめることが出来た。この防水区画は一、一四七個もあった。



●船の平衡を保つ注排水装置

また、艦の一部が被弾し、海水が浸入したとき、艦は当然そちら側に傾き、戦闘力もおちてくる。そこで大和はもし、艦が傾いた場合、その反対側に海水を注入して均衡を保たせる装置を持っておりその海水量は3万8千トンにも達した。また、艦内の重油を前後左右に移動させて釣り合いを保つ装置を持っていた。

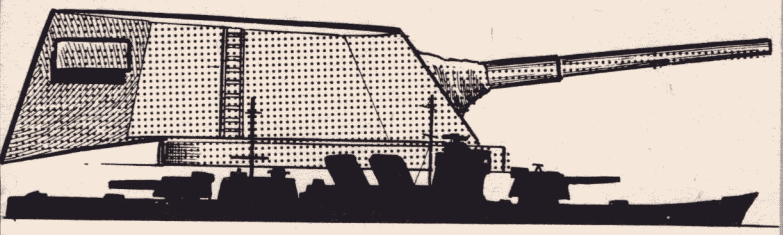


武蔵の火器

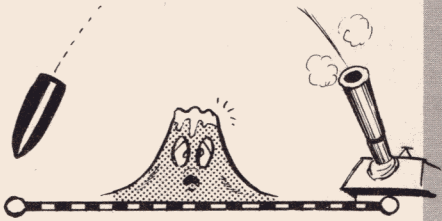
★「大和」とならび「武蔵」の火力は絶大で、世界のどの戦艦もおよばなかった。

●恐るべき3連装46センチ主砲

砲身の長さ21メートル。砲塔をふくめた重さ2.770トンで、これだけでも駆逐艦一隻分にそうとうした。



主砲の最大射程距離（砲を45度の仰角で射つ）は41キロで、富士山の約2倍の高さを飛んで30センチの鋼板をつらぬく力があった。これに耐えうる防御を持つ軍艦は「大和」だけだった。



武蔵の誕生

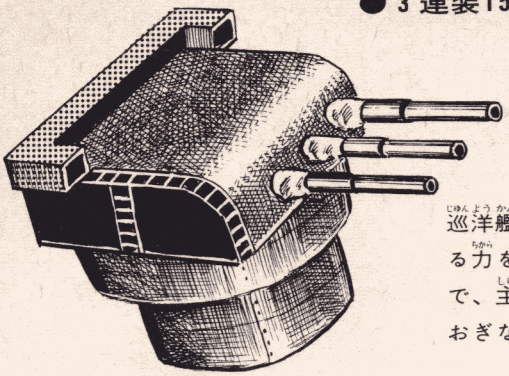
大正十年ワシントン軍縮条約は、米英日の主力艦比率を五・五・三に定めた。そして日本は昭和十二年、条約の期限ぎれとともに待望の大型戦艦の建造にとりかかった。これが呉工廠の大和である。

つづいて三菱重工長崎造船所で、二番艦武蔵に着工。

作業はまず、船台を網でおおいかくすことからはじまった。

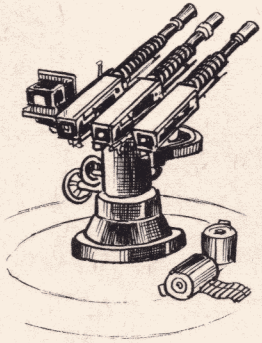
武蔵の建造は、その場所が丘の多い長崎だ

●3連装15.5センチ副砲



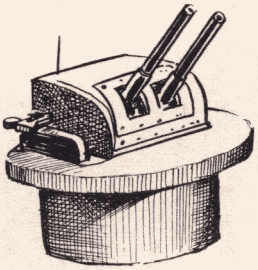
巡洋艦の主砲にそうとうする力を持ち、すばやい攻撃で、主砲の動きのにぶさをおぎなった。

●3連装25ミリ機銃



機銃は、このほかに連装十三ミリ機銃もあり、改装後は計二百一丁の機銃で、ハリネズミのように守っていた。

●連装12.7センチ高角砲



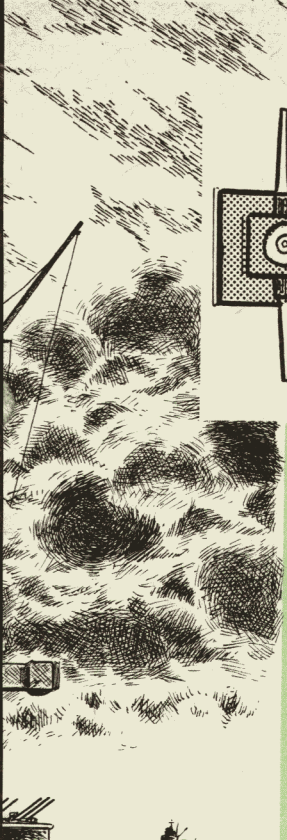
艦橋ふきんに多く装備され、対空射撃に使われた。

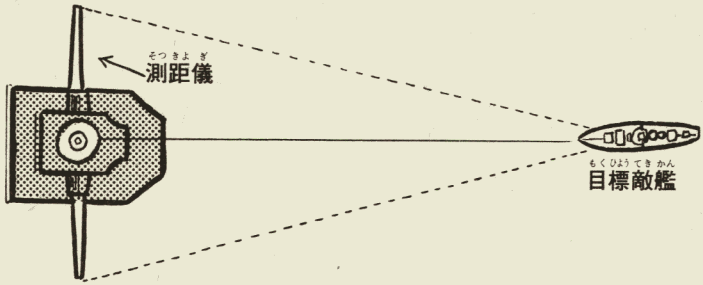
ったため、秘密の保持はたいへんだった。

そして、敵国のアメリカは、この艦のことを終戦まで知りえなかった。

武蔵は、十五年十一月一日朝、その巨体を水に浮かべたが、砲、その他の艤装が終わるまで、さらに一年半の歳月を要し、十七年八月に完成された姿をあらわした。

しかし、最初からたいした戦果があげられなかったため、「武蔵ホテル」というニックネームがつけられた。



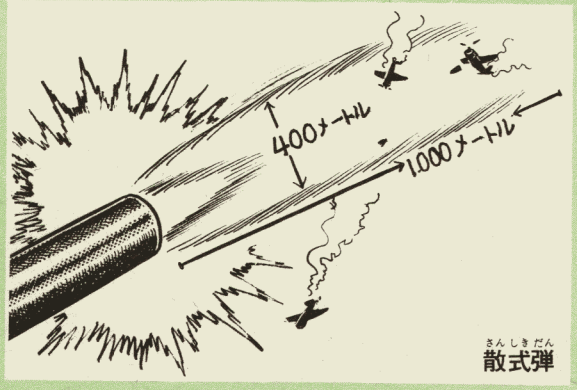


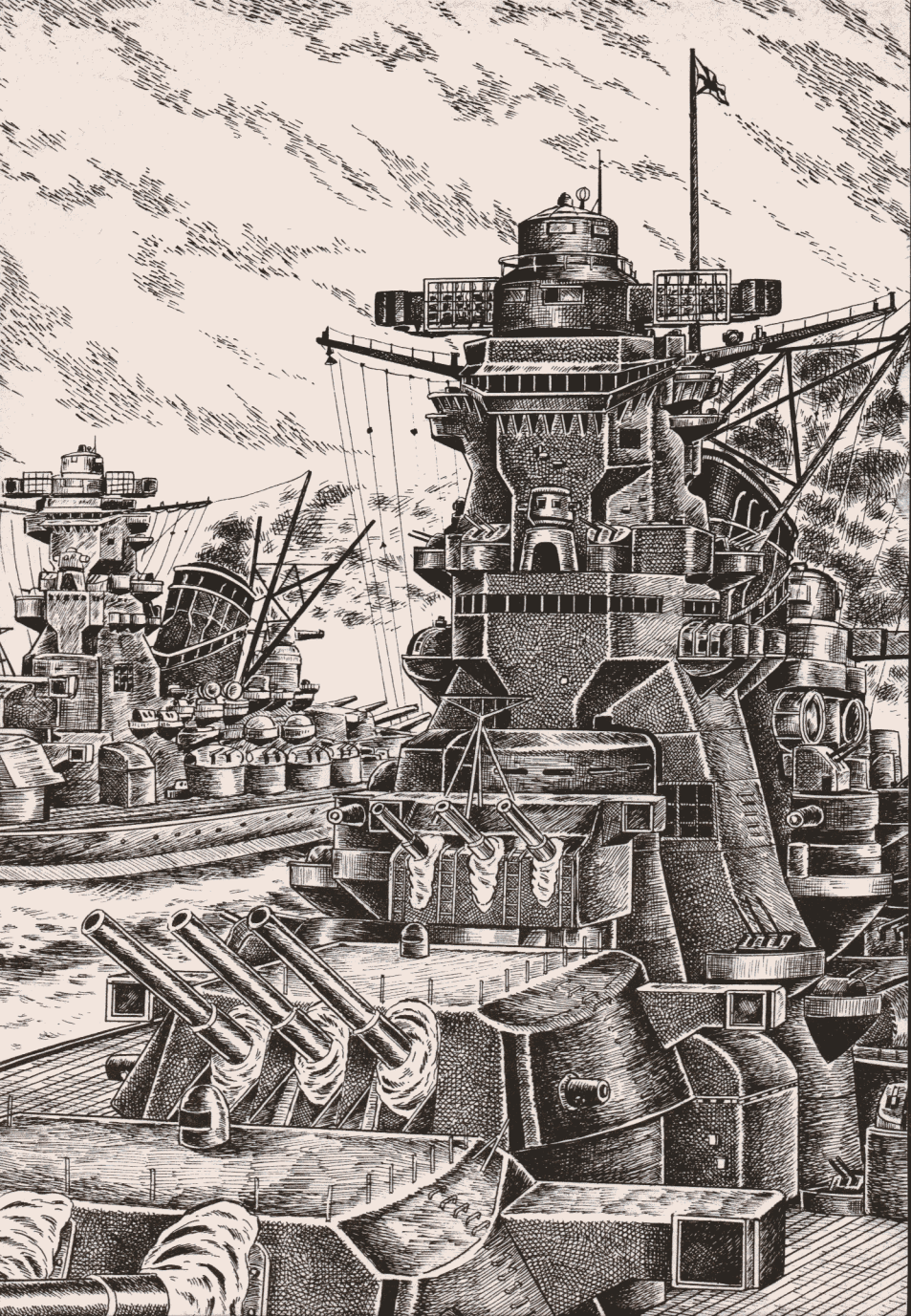
▲精巧な15メートル測距儀　三角法を応用して敵の位置を測るもので，夜間でも15キロ先の目標を，初弾で射とめることができるほどだった。

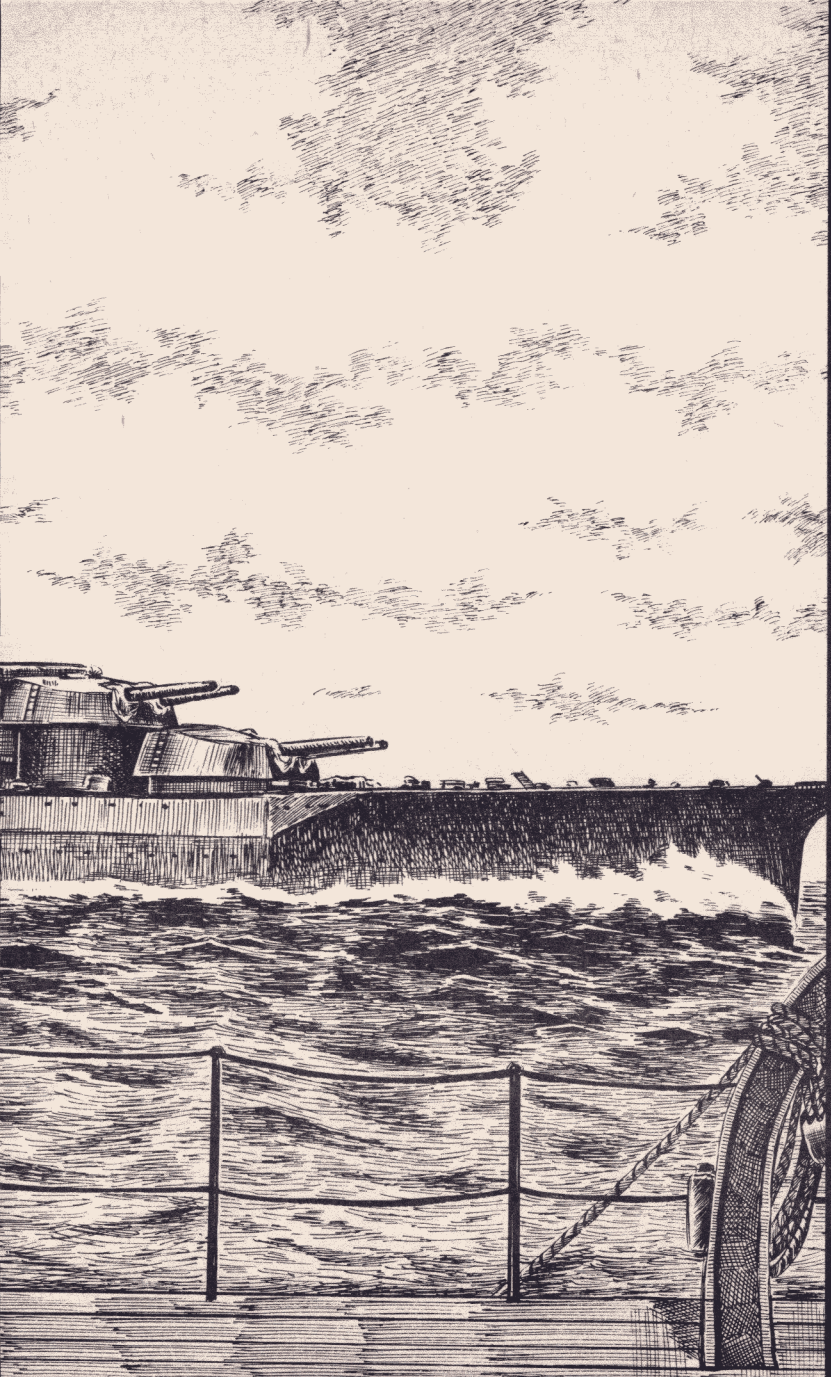
●主砲発射のとき、甲板にいると、爆風で即死する。ブザーが鳴ったら艦内に退避する。

●主砲弾の中に、六千発以上の焼夷弾をつめた散式弾は、一気に敵機群を焼きはらおうとしたものだ。

●日本海軍では、各艦の砲弾に染料をつめ、青・ピンクなどの色で、混戦時の弾着をたしかめた。

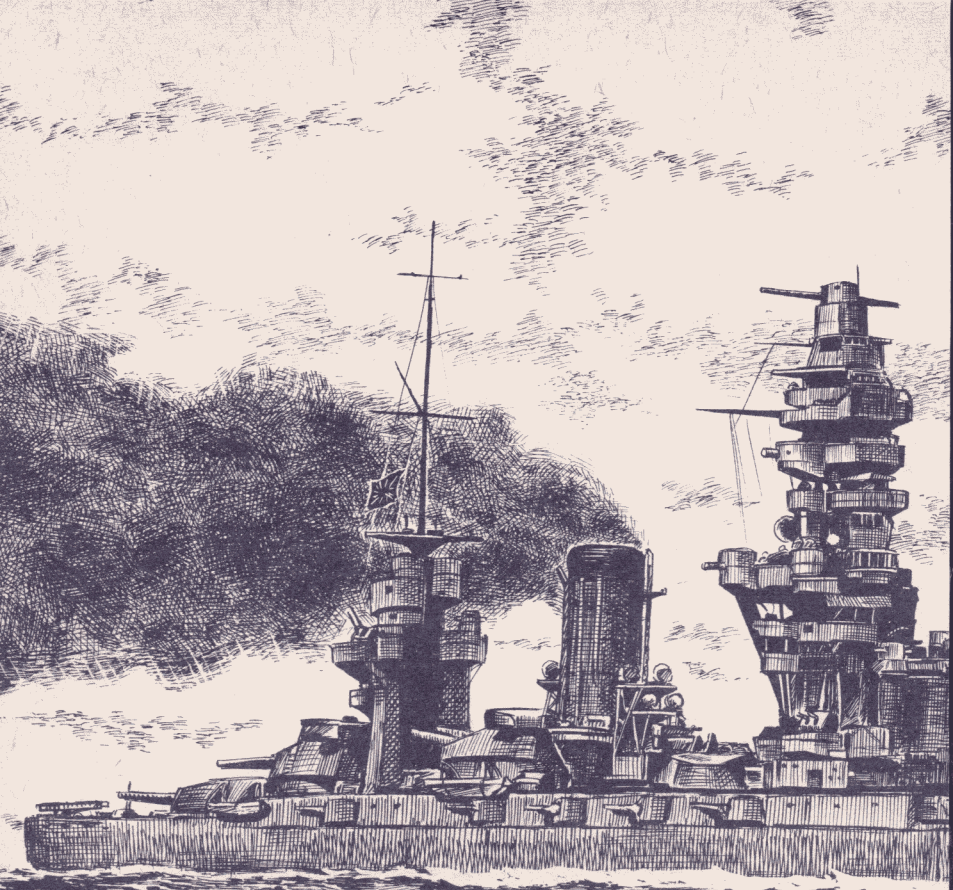






戦艦 扶桑

日本海軍初の真のド級艦で、世界最初の三万トン級戦艦。



基準排水量　34,700トン
全長　210メートル
最大幅　33.1メートル
速力　24.7ノット

主砲　36センチ砲12門
副砲　15センチ砲14門
高角砲　12.7センチ砲８門
搭載飛行機　３機

大正４年の建造で，金剛・比叡・榛名・霧島についで古い戦艦。そそりたつ櫓楼はこの艦型独特のものだが，主砲を射つと爆風をもろにかぶったという。昭和19年10月25日のスガリオ海峡で米艦隊の十字砲火をうけ壮烈な最期をとげた。

戦艦 長門

連合艦隊のシンボルとして栄光と屈辱の運命を背おった歴史的戦艦。

基準排水量　39,130トン
全長　221.1メートル
最大幅　34.6メートル
速力　25ノット

主砲　40センチ砲8門
副砲　14センチ砲18門
高角砲　12.7センチ砲8門
搭載飛行機　3機

40センチ主砲をのせた世界最初の戦艦。終戦まで生きのこり，のちにビキニ環礁の原爆実験に使われて沈んだといわれているが，その最期はだれにも目撃されていない。先年瀬戸内海からひきあげられた「陸奥」は姉妹艦である。

戦艦 金剛

イギリスに発注してつくられた実戦的な高速戦艦。

基準排水量　31,720トン	主砲　36センチ砲8門
全長　219.6メートル	副砲　15センチ砲14門
最大幅　31メートル	高角砲　12.7センチ砲8門
速力　30.3ノット	搭載飛行機　3機

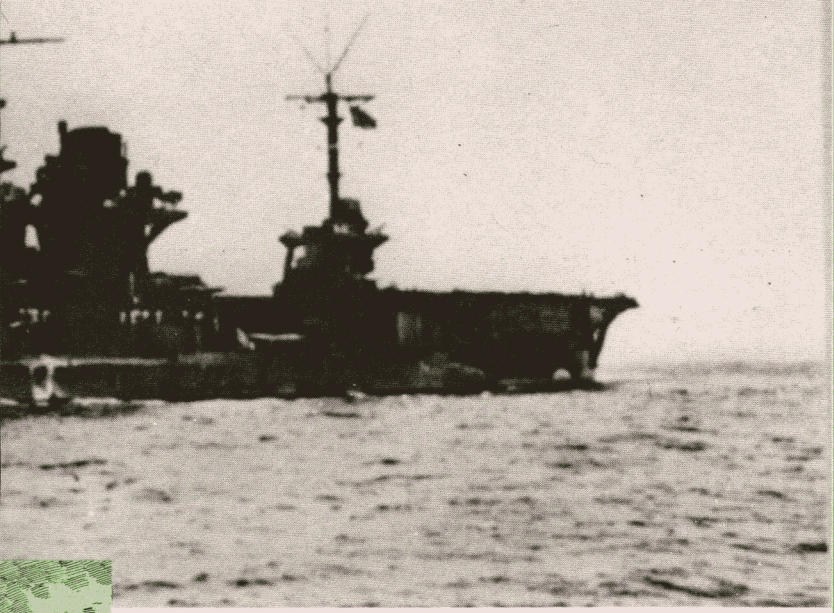
大正2年イギリスのビッカース社で造られた巡洋戦艦で，のちに高速戦艦に改装。ガダルカナル島砲撃，サマール沖海戦などで大活躍をし，“鬼の金剛”と呼ばれた。昭和19年11月21日，台湾沖で米潜シーライオンの魚雷をうけて沈没。

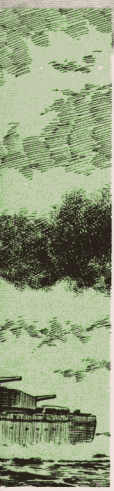
戦艦 伊勢

小型空母の能力と戦艦の破壊力をかねそなえた画期的な航空戦艦。

基準排水量　35,400トン
全長　213.4メートル
最大幅　33.8メートル
速力　25.3ノット

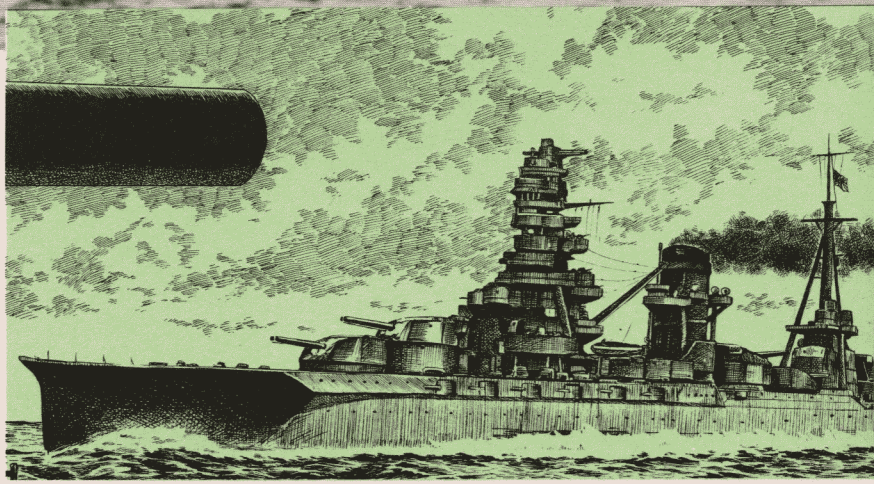
主砲　36センチ砲8門
高角砲　12.7センチ砲16門
搭載飛行機　22機





大正六年につくられた古い艦だが、ミッドウェー海戦後は、空母の増強計画と並行して航空戦艦に改造された異色艦。後部二砲塔をとりはらってつくった甲板より二十二機の艦上爆撃機を発進させることができた。

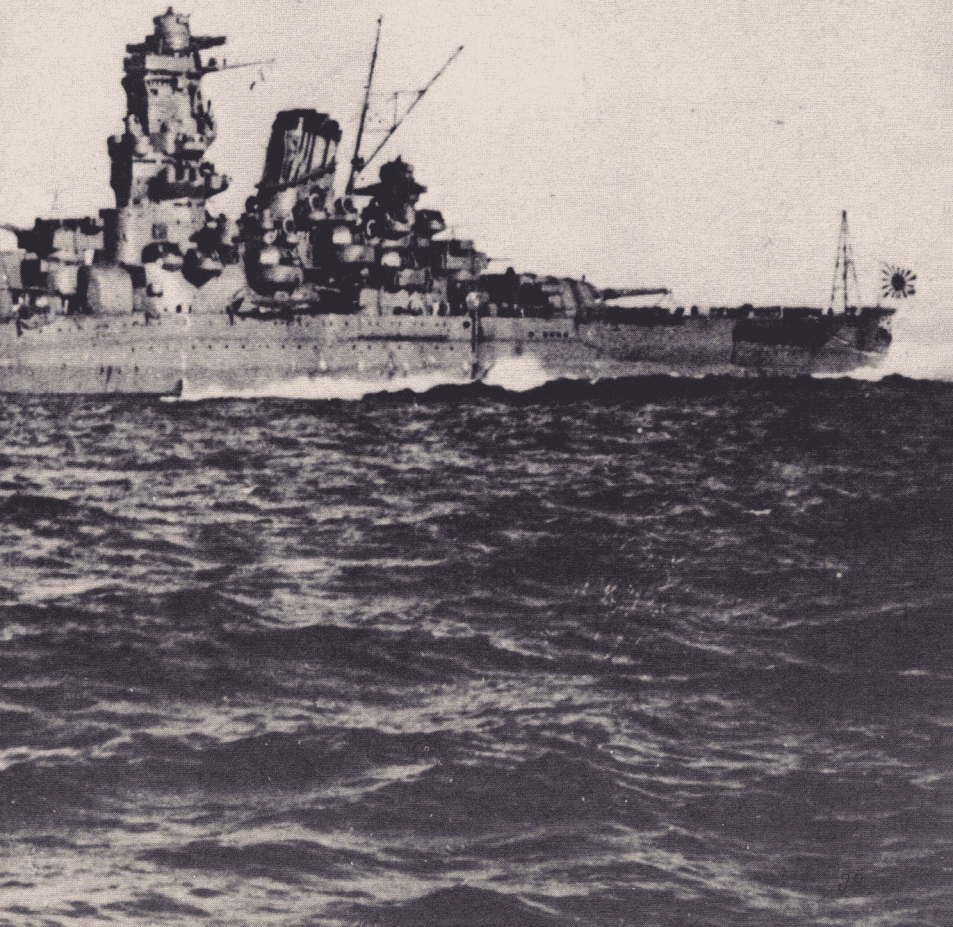
戦歴は豊富で、エンガノ岬沖海戦では姉妹艦「日向」とともに、敵の猛空襲をかいくぐって生きのびている。最期は昭和二十年で、呉港に停泊中、三月と七月の二回にわたって空襲をうけ、「日向」とともに沈座した。もし飛行機と搭乗員が不足していなかったら、もっと活躍しただろうといわれる艦のひとつだ。

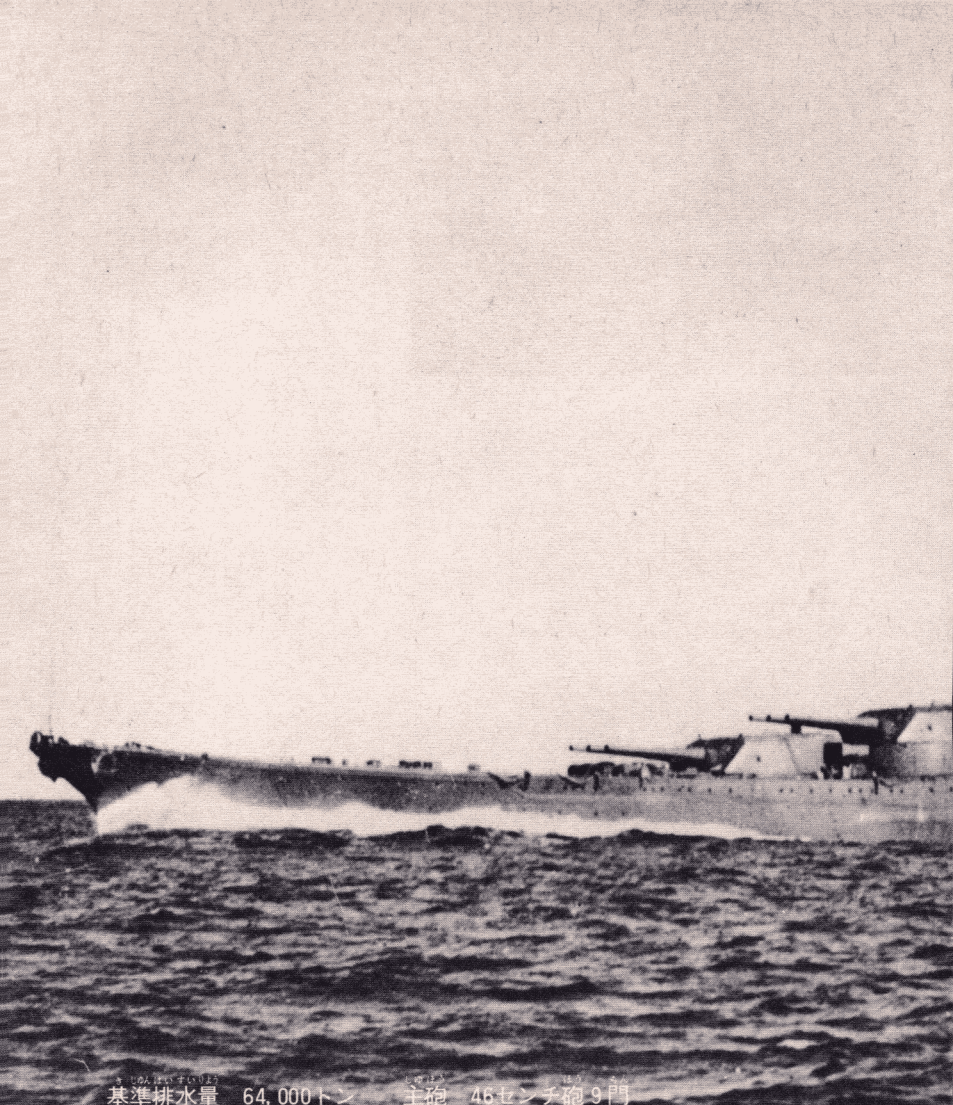


▲航空戦艦に改装される前の「伊勢」の姿

戦艦 大和

あらゆる常識をやぶった超ド級戦艦
まさにこれこそ海に浮かぶ鉄の城だ



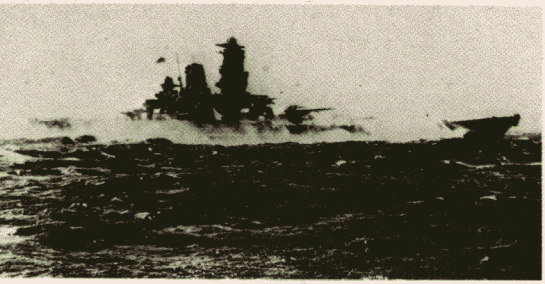


基準排水量　64,000トン
公試排水量　69,100トン
全長　263メートル
最大幅　38.9メートル
最大速力　27.5ノット
航続距離　13300キロ

主砲　46センチ砲9門
副砲　15.5センチ砲6門
高角砲　12.7センチ砲24門
機銃　201丁
搭載飛行機　6機
内火艇　9隻

水上特攻・大和の最期

昭和二十年四月、米軍が沖縄本土に上陸するのをみた作戦本部は、ついに『菊水一号作戦』を発動した。「大和」を先頭に米軍陣地になぐりこみをかけ、そのまま海岸にのりあげて陸上砲台となって戦いぬこうという作戦である。もとより生還を期さない死の特攻だ。

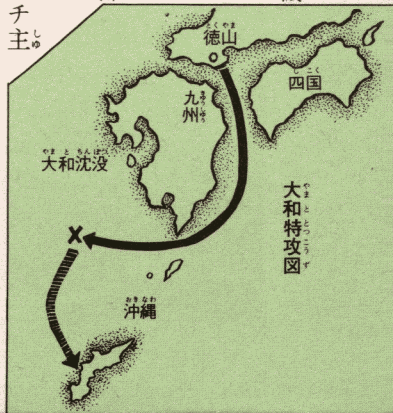


▲全力航行する「大和」の勇姿

四月六日「大和」は、「矢矧」以下駆逐艦八隻をひきいて徳山沖を出港、夜のうちに九州南端をぬけて沖縄への進路をとった。

翌七日、「午前中はどうやらぶじにすんだな」という伊藤司令長官の言葉が終わるか終わらないうちに、敵機の襲来がつげられた。「大和」を〝自分の獲物〟だとねらっていたミッチャー中将の大空襲部隊である。

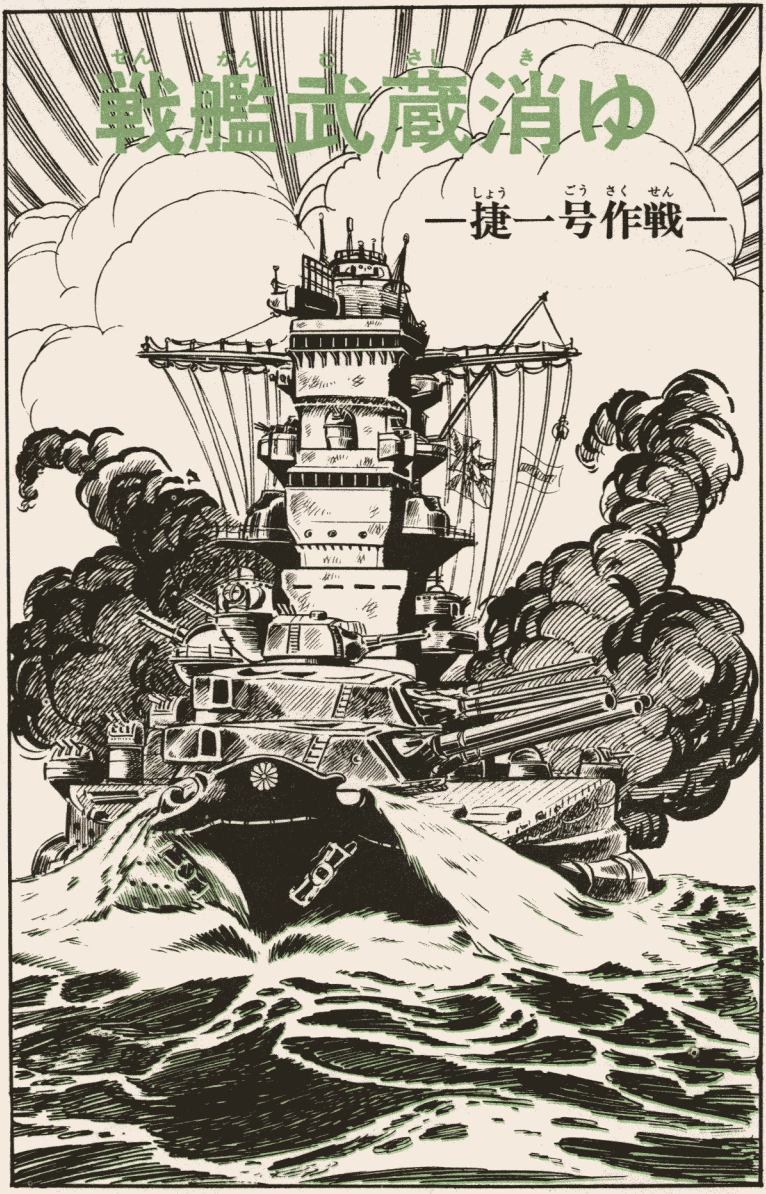
「大和」の四十六センチ主砲対空弾がひらめき、各艦の弾幕がいっせいに空をこがした。死にもの狂いの戦闘は一時間余りにわたってくりひろげられた。駆逐艦「浜風」「朝霜」が沈没し、「矢矧」が水煙とともに消えた。大和も十本の魚雷と無数の爆弾をうけて傾いたが、なおも沖縄をめざして進んだ。十三時二十分、第二波空襲隊があらわれ、「大和」に殺到した。最期の時をさとった伊藤長官は全員退艦の命をだすと、挙手の礼をして私室に消えた。十四時二十三分、「大和」は轟音をのこして沈んだ。坊の岬の南西百四十キロの地点、死者二千七百四十名、その巨体は、いまも海の底に眠る。



大和特攻図

戦艦武蔵消ゆ

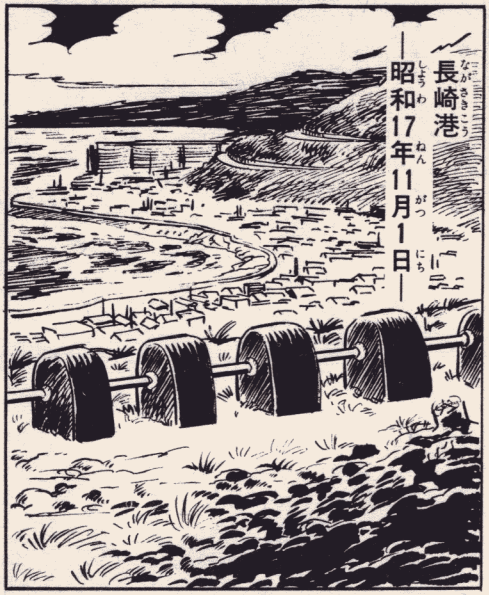
―捷一号作戦―

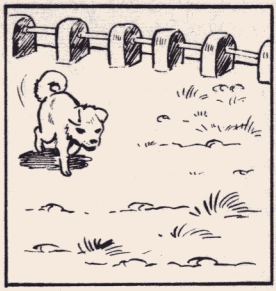


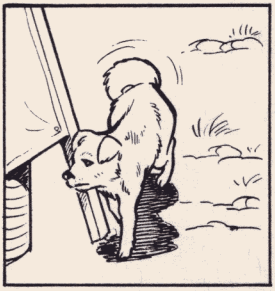
★フィリピンに上陸した米軍を討つために、巨艦「武蔵」がついに出陣した。だがそのゆくてには!?

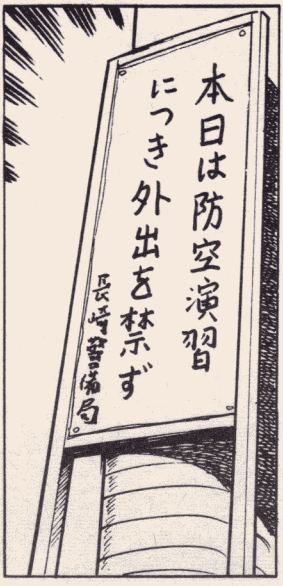
一行知識

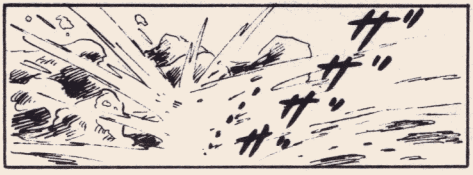
基準排水量＝艦を水に浮かべたとき沈んだ部分の容積にそうとうする水の重さのこと。

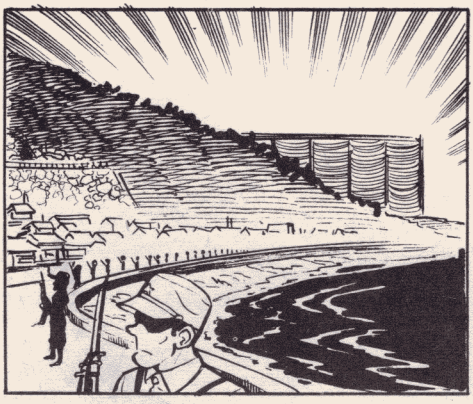












そして，ここ三菱重工・長崎造船所では，ドッグをはみだす鉄鋼の巨体が，初めて海上にその身を浮かばせる時をまっていた。

船台はずしすみ！

安全装置取りはずし方すみ！

スーヤー スーヤー スーヤー スーヤー

午前8時50分

一行知識

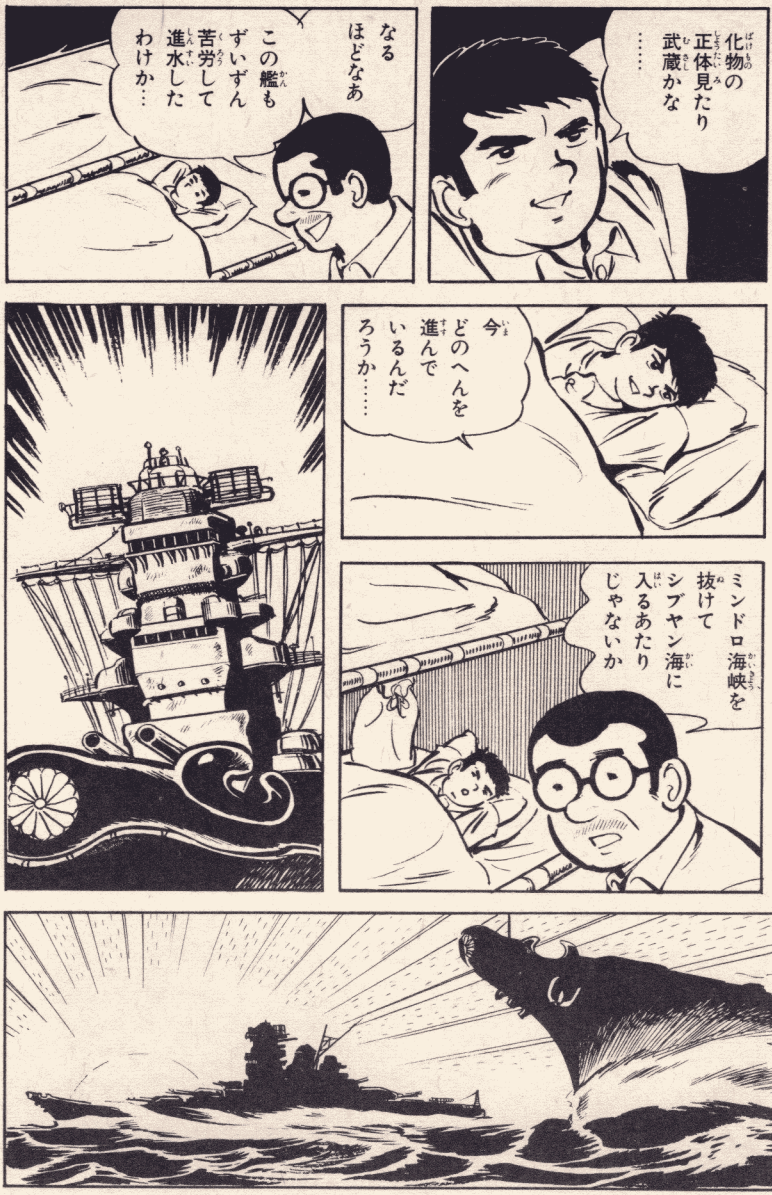
常備排水量＝基準排水量にたいし、燃料、弾薬などの装備をしたときにはかられたもの。

一行知識

主砲＝艦の戦闘力の中心になる大砲のことで、ふつう口径でその大きさをあらわす。

一行知識

旗艦＝艦隊、戦隊の司令官がのって指揮をとる艦のこと。沈没のばあいは他の艦にうつす。


化物の正体見たり武蔵かな……
なるほどなあこの艦もずいずん苦労して進水したわけか…
今どのへんを進んでいるんだろうか……
ミンドロ海峡を抜けてシブヤン海に入るあたりじゃないか

昭和19年10月20日
米軍のマッカーサー大将は
20万の軍団をひきいて
フィリピンのレイテ島に
上陸を開始した

10月22日
日本軍は『捷一号作戦』を
発動
『栗田中将の指揮する第2
艦隊は小沢機動部隊と協力
10月25日夜明けレイテ港に
突入敵をかい滅せよ』

かくして武蔵は
完成後2年半を
して、はじめてその
巨体を本格的な
戦いにむけた
のであった

艦長猪口大佐

乗員2千300名

一行知識

ノット＝艦の速力をあらわす単位で一時間に進むカイリ数。一カイリは一八五二メートル。

一行知識

戦速＝戦用にはいったときに使う速力で、第一、第二、第三といくつかの段階がある。

一行知識

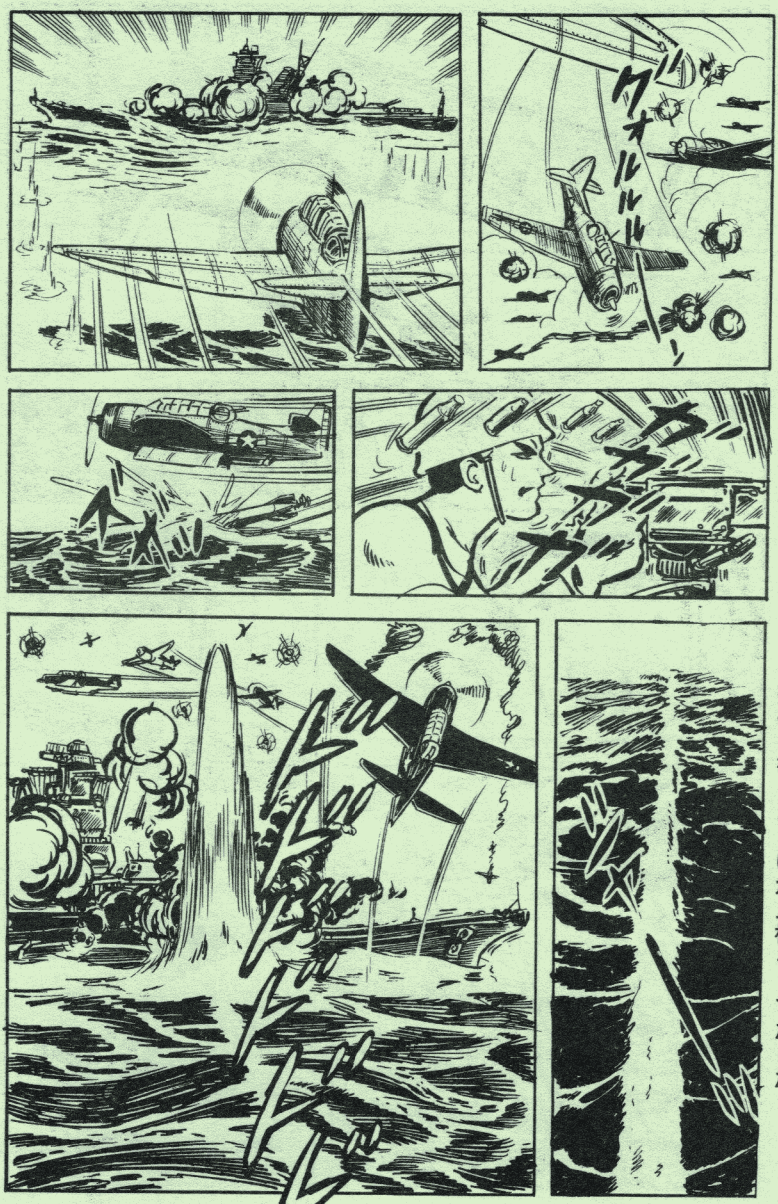
操舵＝艦の舵をとることで、右にむきをかえるのを面舵、左にむきをかえるのを取舵。

一行知識

ようそろ＝幕末以後もちいられた海軍用語で号令にたいする答。「よろしい」などの意味。

一行知識

艦橋＝司令官、艦長が指揮をとるところで、見はらしのきく櫓楼の上部にある。



一行知識

カタパルト＝戦艦、巡洋艦などに積まれている飛行機射出機。おもに水上機をうちだした。

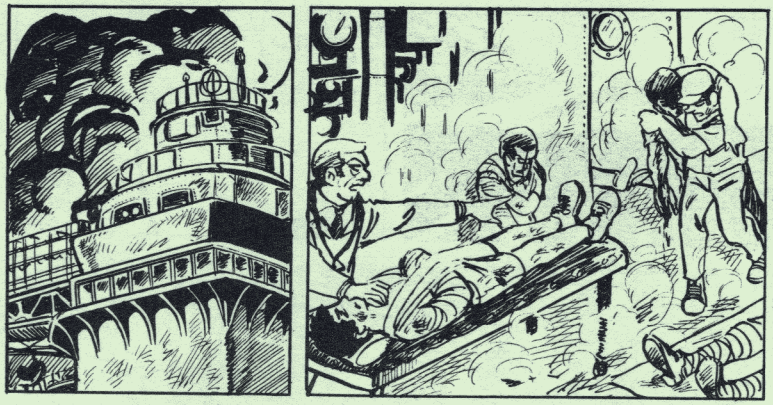
一行知識

囮艦隊＝作戦の目標や主力艦隊の行動をごまかすため、敵のおびきだしに使われる艦隊。

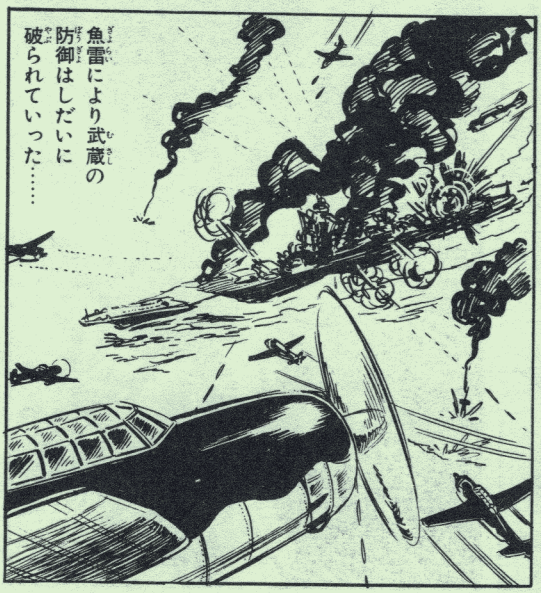
一行知識　Z旗＝日露戦争の日本海海戦で旗艦「三笠」がかかげた旗。「皇国の興廃この一戦にあり…」の意。

一行知識

電探＝電波探信儀（レーダー）の略で、電波の反射をとらえて相手の位置を知る機械。



一行知識 逆探＝電波探知機の略で、それ自体は電波をださず、相手の電波をとらえる受信専用機械。



しかし第3次空襲第4次空襲では敵の攻撃はほとんど武蔵一艦に集中した
一説には武蔵は出陣まえわざと敵にめだつようペンキをぬりかえたという

そして水平線に
僚艦が遠ざかり
武蔵だけが取り
残された

14時45分
第五次空襲

100機ちかい
敵機が来襲—

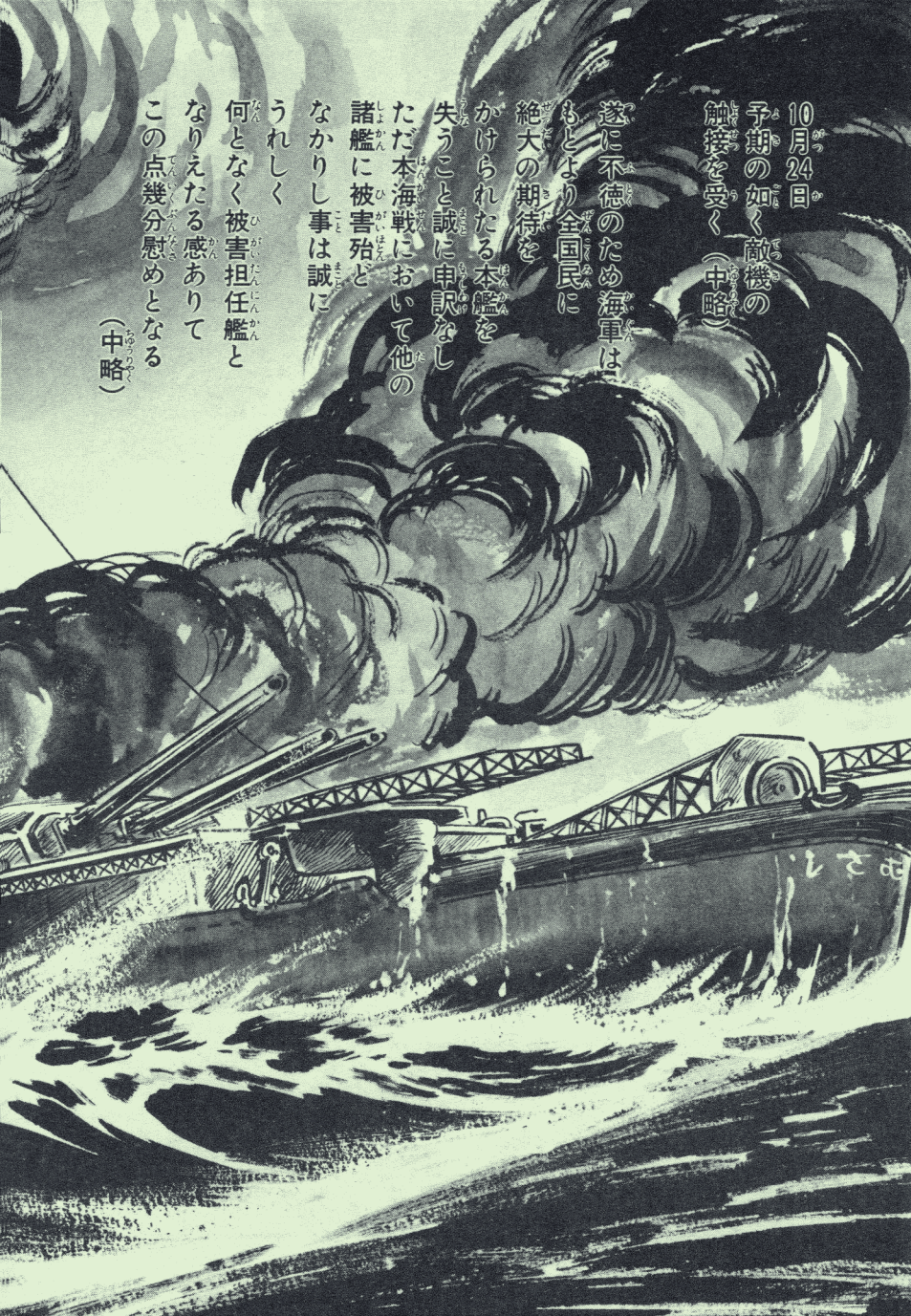
一行知識

コンパス＝磁石を利用した羅針儀。磁石のかわりにコマを使ったのをジャイロという。

一行知識

ソナー＝音波探信儀のことで、水中に発した超音波の反射音をとらえて敵潜の位置を知る。

自由行動をとれ！
護衛艦が助けにきてくれたぞガンバレ
自由行動をとれ！
艦長…
だーっ
うっ？
イヤッー


10月24日
予期の如く敵機の
触接を受く（中略）
遂に不徳のため海軍は
もとより全国民に
絶大の期待を
かけられたる本艦を
失うこと誠に申訳なし
ただ本海戦において他の
諸艦に被害殆どなかりし事は誠に
うれしく
何となく被害担任艦と
なりえたる感ありて
この点幾分慰めとなる
（中略）

私ほど恵まれた者は
ないと平素より常に
感謝に満ちいたり
始めは相当ざわつき
たるも夜に入りて
皆静かになり
仕事もよくはこびだした
今機械室より総員士気
旺盛を報告し来れり
一九〇五。。。。。。。。
猪口艦長の手記より

●戦艦について

★高速を誇る巡洋戦艦＝金剛型　★空前絶後の大和型

第二次世界大戦まで、戦艦はすべての軍艦の王者であった。

戦艦を何隻もっているかで、その国の海軍力が比較され、国の力の強弱が計られた。そこで、どこの国の海軍でも、艦隊を編制するときは、戦艦を中心にして組んだ。

戦艦とは、ひと口に言って、艦隊と艦隊とが洋上で決戦するときの主力艦である。

その巨大な主砲で、敵艦を一撃のもとに撃沈するのが戦艦の役目であった。そのために各国とも、できるだけ大きな主砲を数多く備えようと競争した。

日本の戦艦の主砲は、口径が三十六センと四十センチ、四十六センの三種類であった。つまり弾丸の直径がこれだけの大きさをもっていたのである。

とうぜんのことながら、外国の戦艦も同じような主砲を備えている。その巨弾が、わが戦艦めがけて落下することも考えなければならない。これを防御するために、砲塔や甲板を厚い甲鉄で覆った。また、敵の駆逐艦や潜水艦などから発射された魚雷があたっても、穴があかないように舷側も厚い甲鉄で強化された。

こうして戦艦は、ぶ厚い鋼鉄の箱となり、三万トン以上の船となった。

図体が大きく、巨大な重量の戦艦は、いきおいスピードも遅くなる。しかし戦艦は砲撃戦が主な任務であるために、速力はそれほど速くなくてもよいとされていた。

だが、高速のほうが実戦では有利である。そこで巡洋艦なみのスピードが出る戦艦が研究され、巡洋戦艦という名の戦艦が出現した。

日本の巡洋戦艦は、金剛型の「金剛」「比叡」

◀「金剛」

「榛名」「霧島」の四隻であった。いずれも最大速力は三〇ノットである。排水量は三万六〇〇〇トン、主砲は三十六センチ砲八門、副砲は十五センチ砲十四門、ただし「榛名」は十六門の副砲を備えていた。

この巡洋戦艦よりも、もっと強力な武装を

戦艦の艦型比較

大和型〔大和・武蔵〕

長門型〔長門・陸奥〕

伊勢型〔伊勢・日向〕

扶桑型〔扶桑・山城〕

金剛型〔金剛・比叡・榛名・霧島〕

▶全力航行中の「日向」

もつ戦艦として、扶桑型の「扶桑」「山城」がつくられた。公試排水量は約三万九〇〇〇トン、主砲は三十六センチ砲が十二門、副砲は十五センチ砲が十六門という重装備である。しかし残念ながら速力は二十四・五ノットで、戦艦の中ではいちばんスピードの遅いものとなった。

この扶桑型を改良を加えたのが伊勢型で、「伊勢」「日向」の二隻がこれである。この二隻は戦争中に大改装され、後部を飛行甲板として、艦上爆撃機二十二機を搭載する、世界でもめずらしい航空戦艦となった。

日本の主力艦として世界にその名を高めた戦艦は、長門型の「長門」と「陸奥」である。この二艦は、世界ではじめて四十センチ口径の主砲を採用した戦艦である。

この「長門」「陸奥」の出現以来、世界各国の海軍が、競って四十センチ砲の戦艦をつくるようになり、これが主力艦の標準とまでなっていった。

しかも長門型は、艦全体の防御力と砲力が飛躍的に強化されたばかりか、二十六・五ノットという、戦艦としては類をみない高速力を発揮したのである。そのころのアメリカの戦艦は、ほとんどが二十一ノットであったから、その速力は破格なものであった。

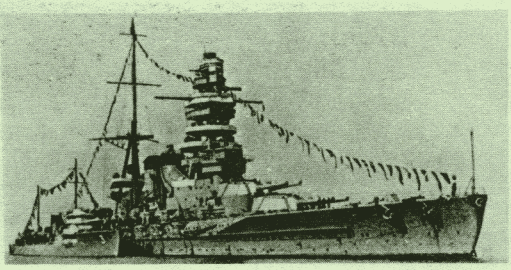
戦艦の中で、これ以上の戦艦は絶対にできないという世界最高の模範戦艦が日本でつくられた。いうまでもなく、大和型の「大和」と「武蔵」である。

主砲は長門型より大きく四十六センチ砲九門、副砲は十五・五センチ砲が十二門。戦備状態での排水量は、じつに約七万トンという巨艦であった。大きさは東京駅ぐらいあり、乗員は、約二七〇〇名も乗っていた。

しかも甲板は二十センの厚さの甲鉄を張り、舷側は四十一センという信じられないほどの厚い甲鉄で防御されていた。

日本には、これら十二隻の戦艦があったが戦争がすすむにつれてたびたび改装され、そのたびに、より強力な戦艦に変身していったのである。

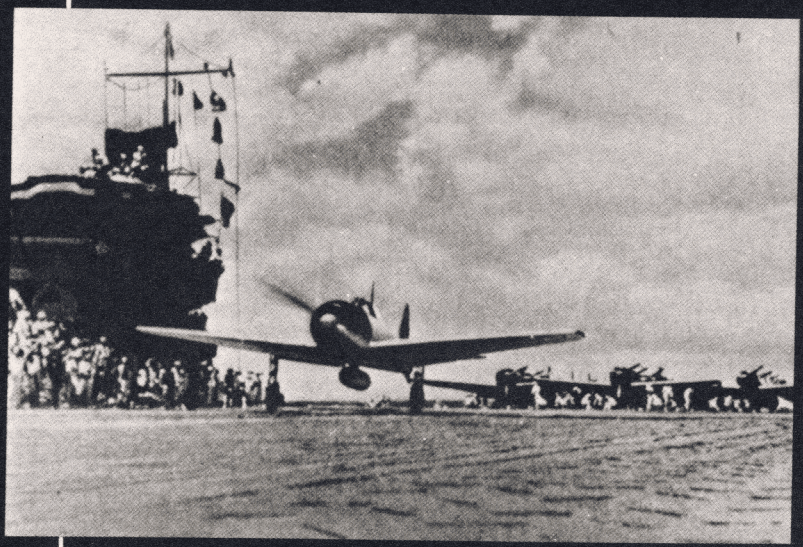
（解説・佐藤和正）

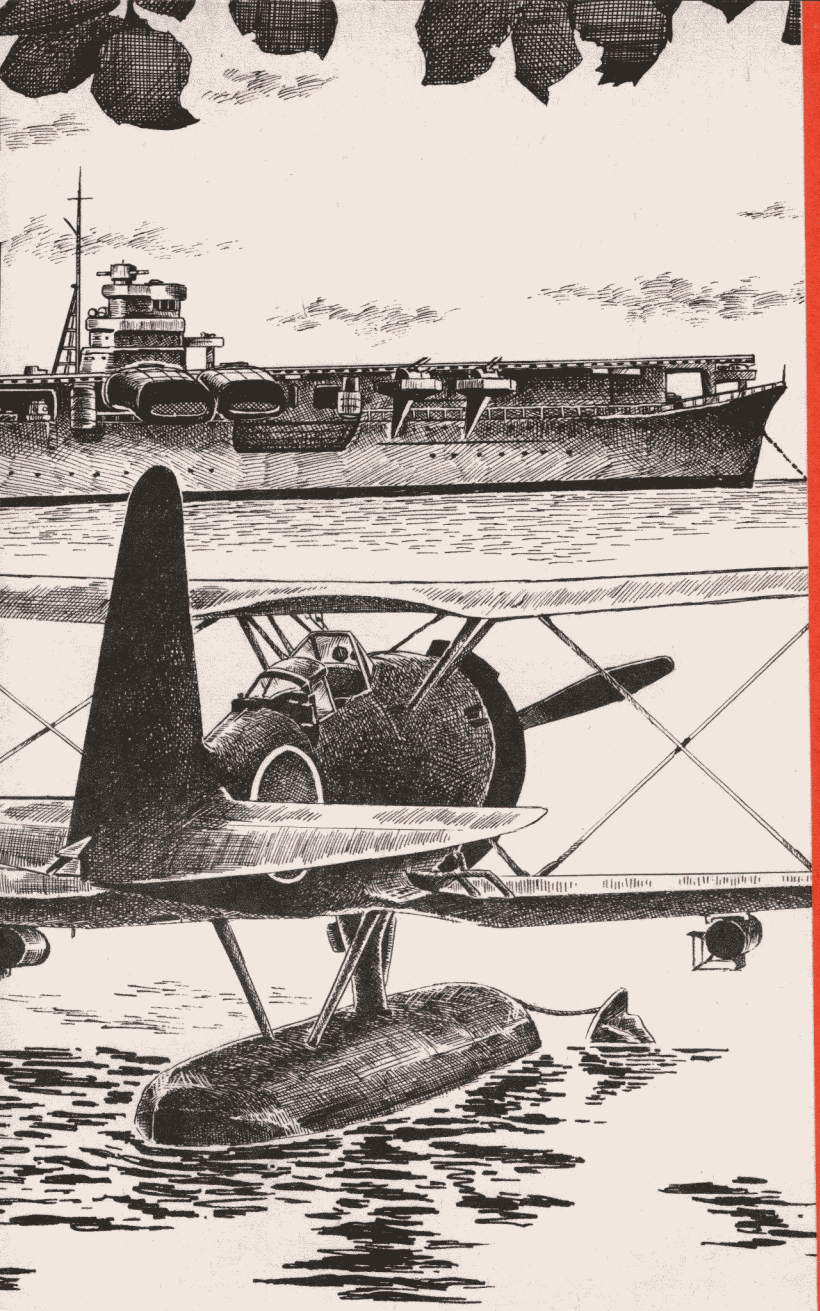


◀「長門」

航空母艦

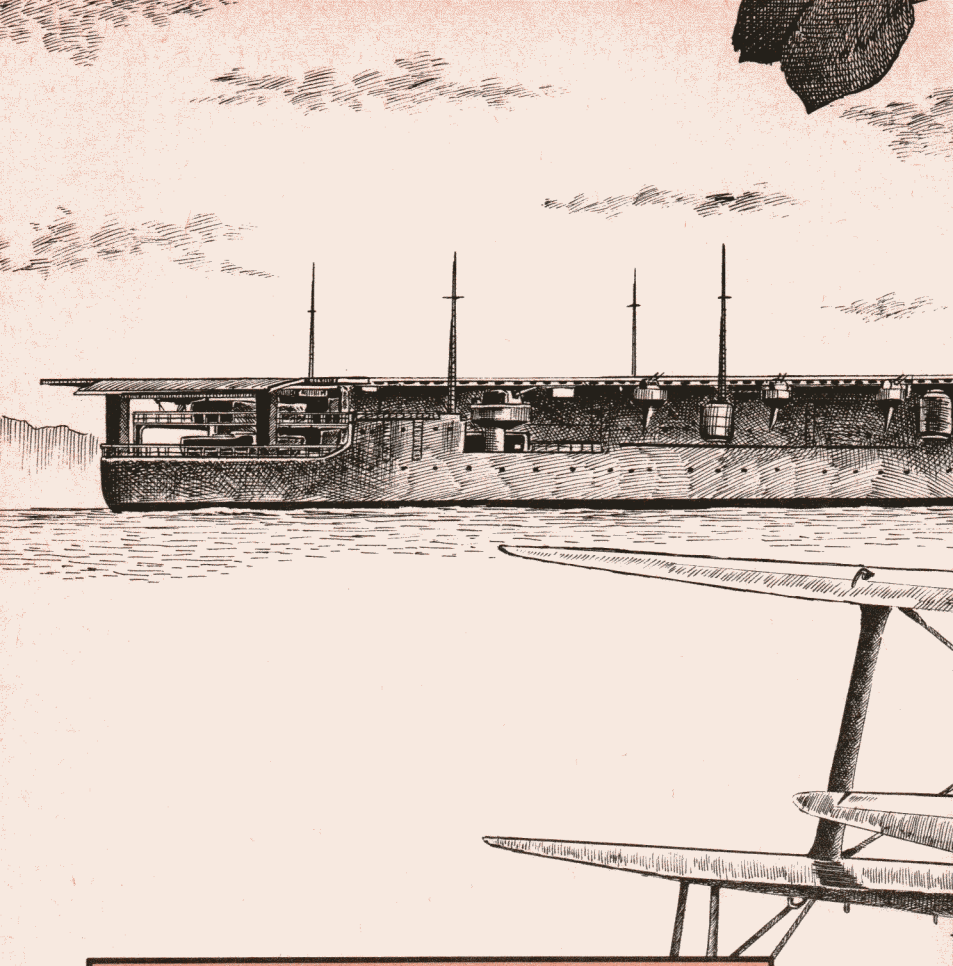
第1次大戦のころより実用化された空母は，大平洋戦争でいちやく海戦のヒーローとなった。多数の護衛艦と偵察機，レーダー等をフルに働かせて出陣する空母部隊の戦いこそ，近代海軍戦略の中心というべきだろう。





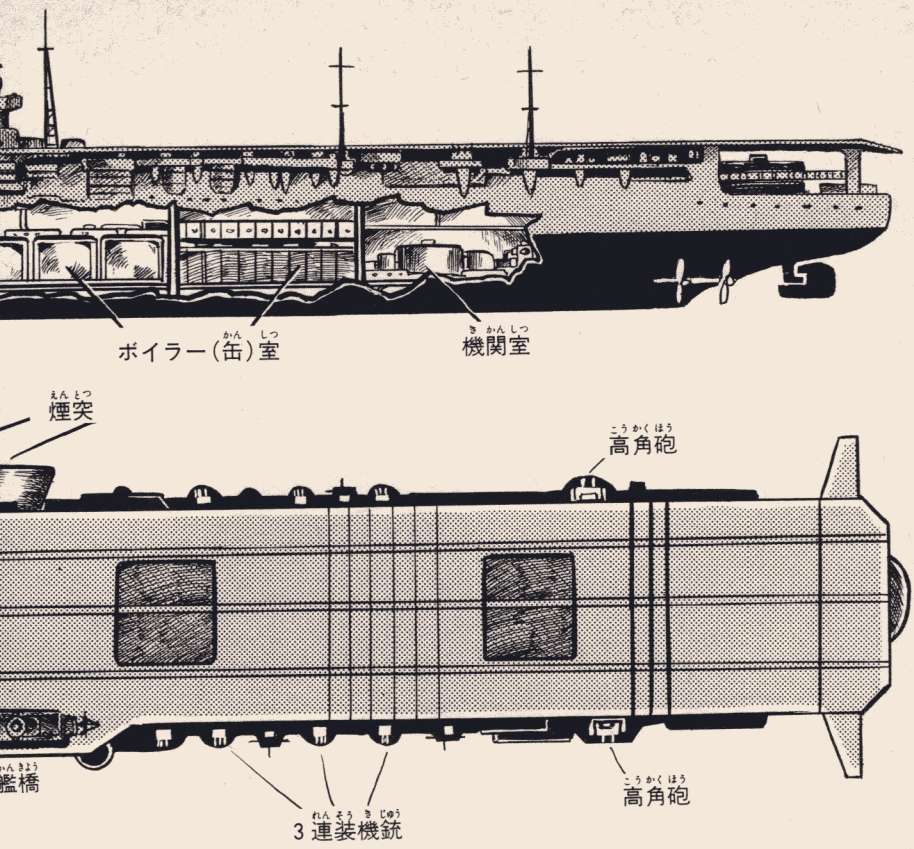
空母飛竜

美しいスタイルとすぐれた戦闘力をほこった新鋭艦。



基準排水量　17,300トン	飛行甲板の大きさ
公式排水量　20,165トン	216.9×27.0メートル
全長　222メートル	飛行機　常用56機
最大幅　22.3メートル	補助16機
最大速力　34.6ノット	高角砲　12.7センチ砲8門

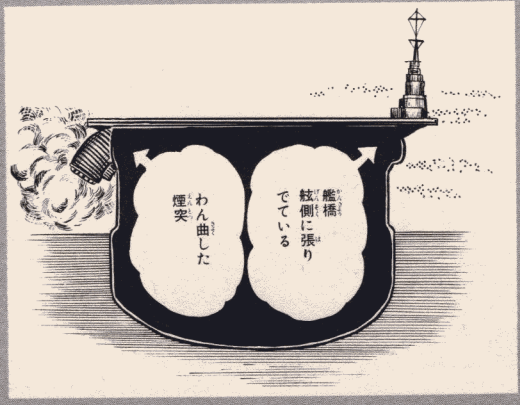
昭和14年7月横須賀工廠で完成した日本初の戦闘空母。ミッドウェー海戦では第2航空戦隊旗艦となり，名将山口多聞少将指揮のもとに，米空母と1対3の決闘を展開した。



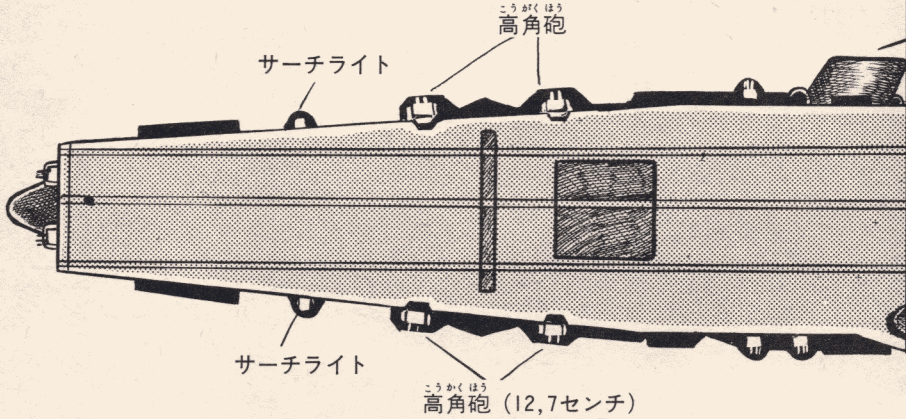
●艦橋と煙突のつくり

空母の特徴は、艦橋と煙突にある。艦橋は広い甲板をとるために、舷側にはりだしてつくられている。

また、煙突が下向きにつくられているのは、けむりによって近くの気



飛竜のしくみ

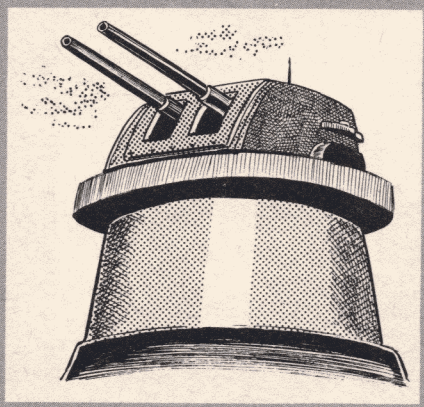


流が乱され、飛行機の発着がさまたげられないようにしてあるのだ。

●対空火器・連装高角砲

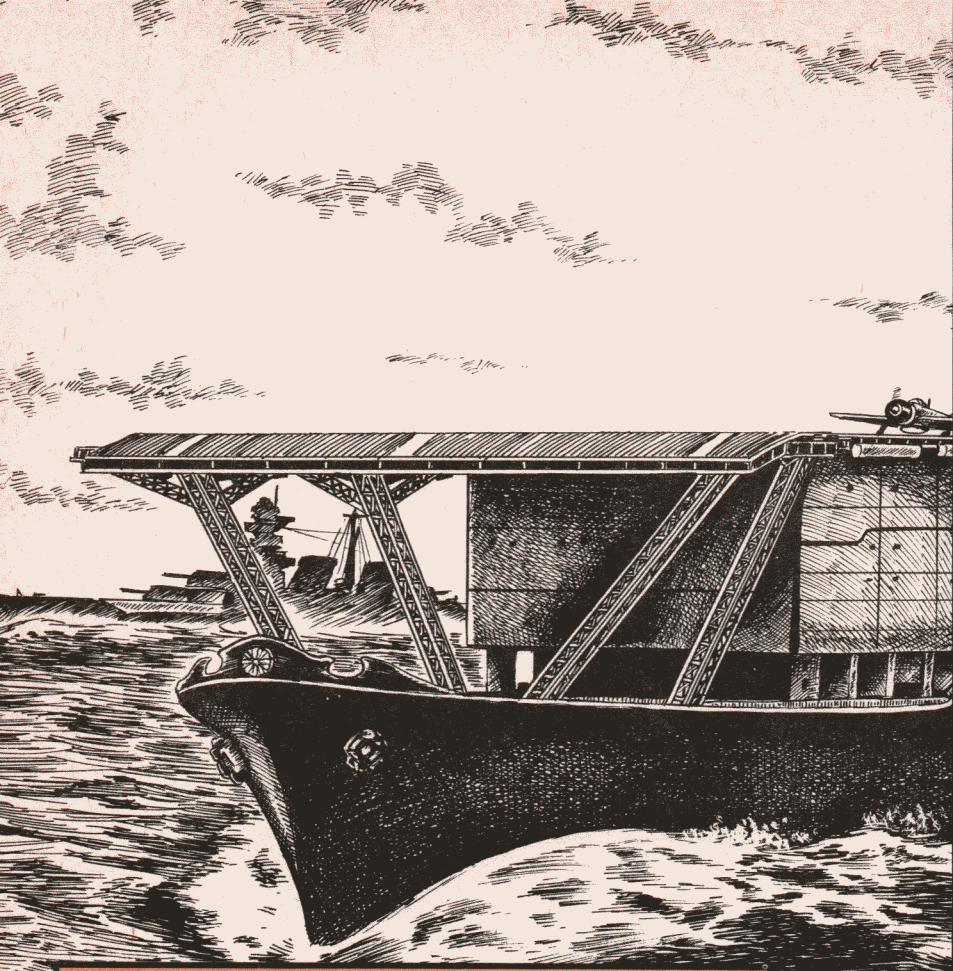
口径＝一二・七センチ
射程＝八千メートル
発射速度＝毎分一六発

照準は、射撃指揮所からの伝達により、自動的にセットされる。



空母 赤城

海の戦いに空母時代をひらいた南雲機動部隊の旗艦。



基準排水量　36,500トン
全長　250.4メートル
最大幅　31.3メートル
速力　31.2ノット
主砲　20センチ砲6門
高角砲　12センチ砲12門
飛行機　常用66機　補助25機

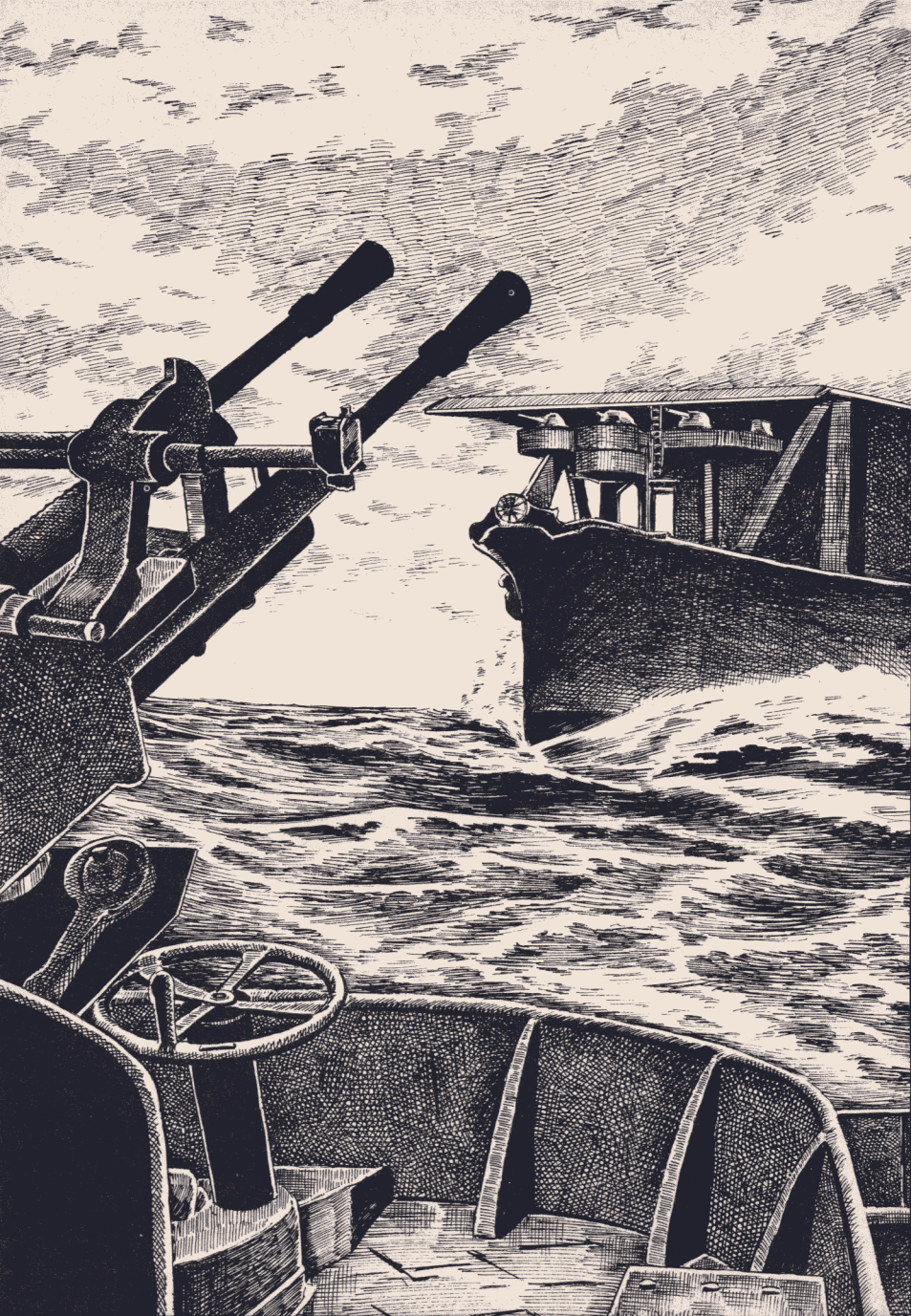
はじめ巡洋戦艦としてつくられていたが，ワシントン条約により，空母に改造され，完成した。ミッドウェー海戦で自沈するまで，真珠湾，ラバウル，マーシャル群島，ポートダーウィン，トリンコマリの各攻撃に大活躍した。

空母 蒼竜

スピードと実用性にすぐれた日本最初の正規空母。

基準排水量　15,900トン
全長　222メートル
最大幅　21.3メートル
速力　34.5ノット
高角砲　12.7センチ砲12門
飛行機　常用57機／補助16機

昭和12年につくられた中型空母の傑作。防御力は弱かったが速力にすぐれていたので，実戦にも活躍した。重巡コーンウォール，空母ハーミーズ，駆逐艦バンパイアの撃沈は，同艦と「飛竜」のコンビによる大戦果だ。



空母 大鳳

まきかえしをねらう海軍の命運をかけた16万馬力の最新鋭・重防御空母

昭和19年3月建造された気鋭の空母で，爆弾投下にたえられるよう，飛行甲板に75ミリの重防御がほどこされている。昭和19年6月第1機動部隊旗艦としてマリアナ沖海戦に参加，ヤップ島沖で米潜の魚雷をうけてガソリンに引火，爆発，むねんの最期をとげた。

基準排水量　29,300トン
全長　253メートル
最大幅　27.7メートル
速力　33.3ノット

高角砲　10センチ砲12門
飛行機　常用52機
　　補助1機

N. MAEMURA

空母 海鷹

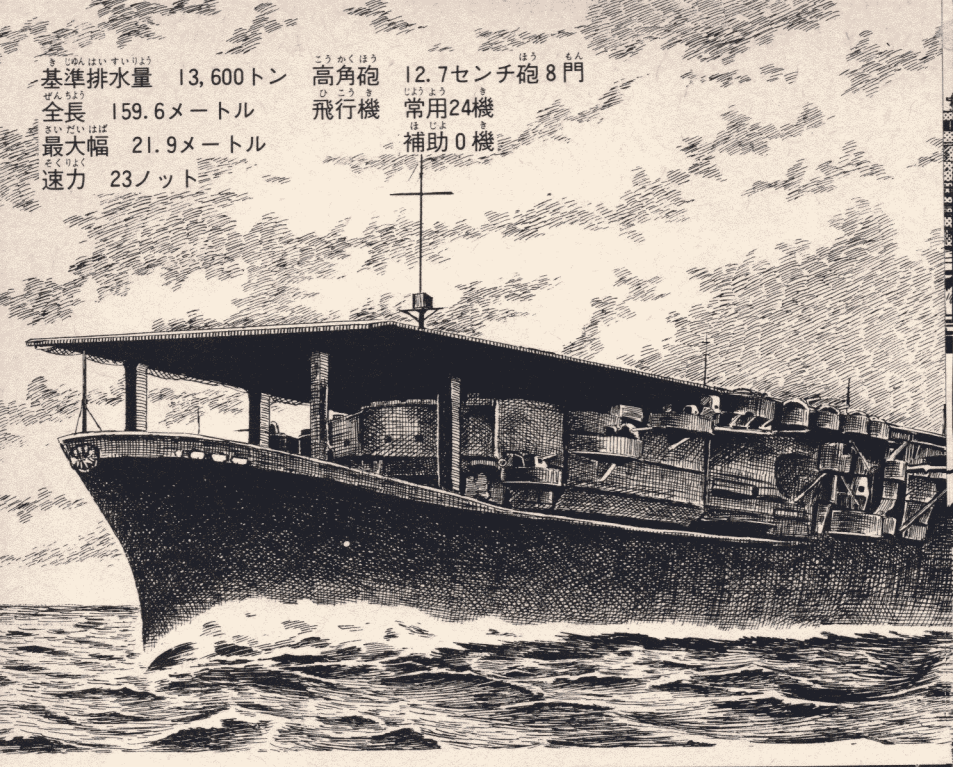
空母不足をおぎなうため、商船「あるぜんちな丸」を改造したもので、この種の空母は日米ともになん隻かつくられた。昭和十八年十一月完成、弱い防備をかばってどうにか生きのびたが、二十年七月呉港に泊まっているところを空襲にあい大破沈座。しかし、かっこうがいいのでファンの間に人気がある。

基準排水量　25,675トン
全長　250メートル
最大幅　26メートル
速力　34.2ノット

高角砲　12.7センチ砲16門
飛行機　常用72機
補助12機

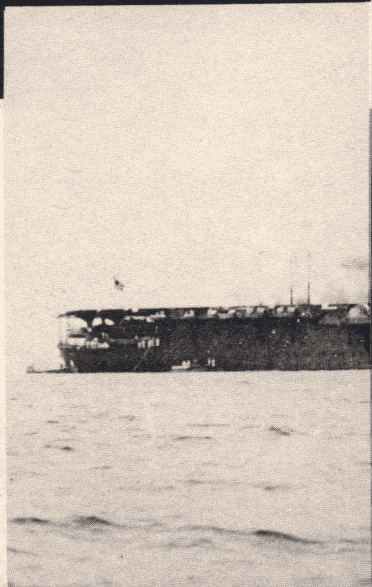
基準排水量　13,600トン
全長　159.6メートル
最大幅　21.9メートル
速力　23ノット

高角砲　12.7センチ砲8門
飛行機　常用24機
補助0機



空母 翔鶴

日本海軍初の戦闘空母で、多くの点で「飛竜」をしのぐ力をもつ。もしこの型の空母があと数隻つくられていたら、太平洋の戦況はちがったものになっていたとさえいわれる。サンゴ海海戦で、米空母「レキシントン」「ヨークタウン」と互角以上の勝負をし、南太平洋海戦では「ホーネット」を撃沈している。昭和十九年六月マリアナ沖で沈没。

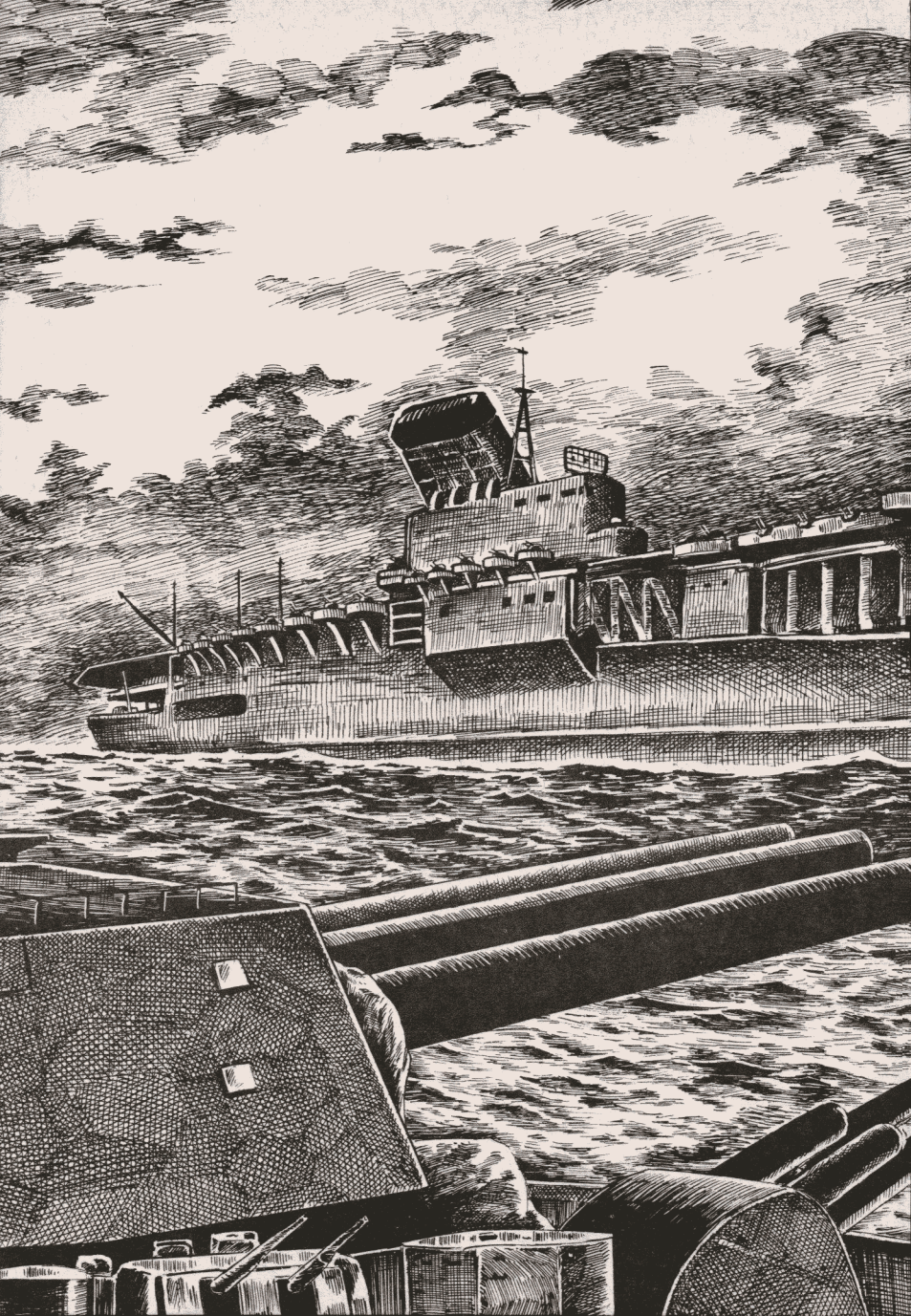


空母 信濃

洋上移動基地の構想のもとにつくられた驚異のマンモス空母。

基準排水量　62,000トン
全長　256メートル
最大幅　36.3メートル
速力　27ノット
高角砲　12.7センチ砲16門
飛行機　常用42機　補助5機

横須賀工廠が6年の心血をそそいで完成した大和型の巨大空母。しかし実戦にはまったく参加しないうちに，浜名湖沖で米潜の魚雷をうけ，昭和19年11月29日，1400名の乗員とともに海底に消えた。完成後，わずか10日の命だった。



●航空母艦について

★世界初の本格的空母「鳳翔」★搭載機数九十機の赤城型

航空母艦は、多くの軍艦の中で、もっとも特徴的なものである。

まず艦体が巨大であること、上方が平らであること、艦橋や煙突が舷側にあるか、または甲板下にあることなどである。

そのうえ他の軍艦には見られない複雑で特殊な装置がもり込まれている。

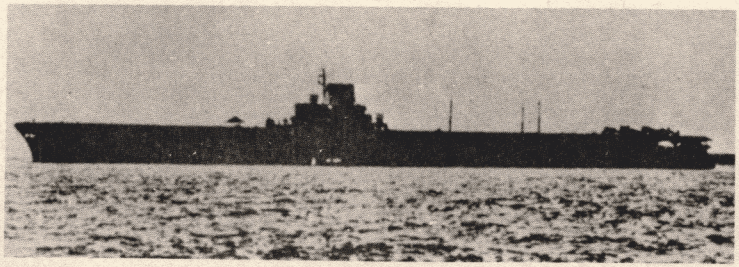
飛行機が発艦したり着艦したりするための装置や、飛行機を格納するためのエレベーターや移動装置、弾弾や魚雷などの弾薬庫、航空燃料である爆発性のガソリンを貯蔵するタンク、そのガソリンを補給したり飛行機に搭載するために張りめぐらされたパイプなど、どの一つをとってみても、複雑でしかも精巧なものである。

しかも、広大な洋上を飛ぶ多くの飛行機を指揮したり誘導したり、あるいはまた機動部隊の行動を指揮するための通信設備や電子機械装置など、科学の粋をこらした高性能の軍艦である。

日本の航空母艦は、他国のものをまねして建造したのではなく、最初から、独創的につくり出し、進歩発達させたものである。むしろアメリカやイギリスなどは、日本の航空母艦に学んで建造したといってよい。

現在、アメリカがもっている原子力空母の「エンタープライズ」などは、日本の大型空母である「大鳳」を参考にしてつくられたものだといわれている。

日本が最初に建造した航空母艦は大正十一年に完成した「鳳翔」である。平らな飛行甲板の右舷側に小型の艦橋と三脚マストをそなえた島型空母で、煙突は舷外に倒れるようになっていた。わずか一万トンたらずで二十一機の



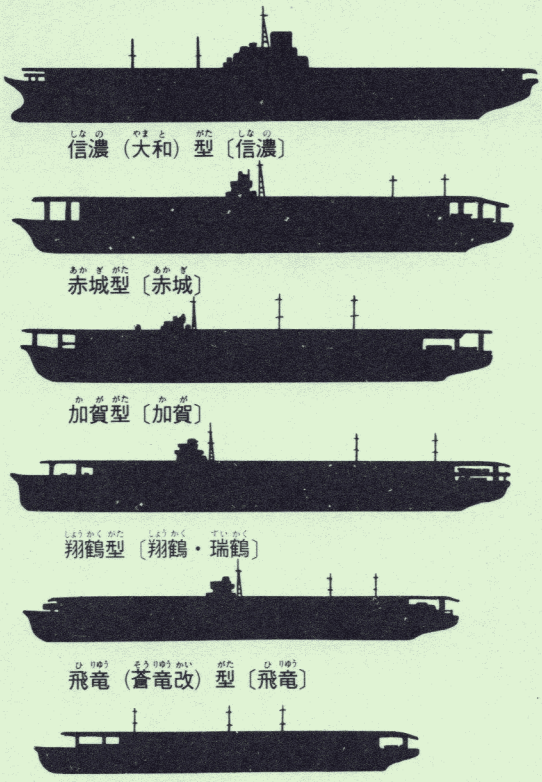
◀「大鳳」

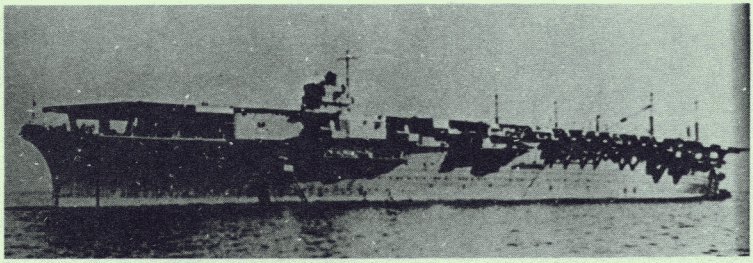
飛行機を搭載する小型空母であるが、これこそ、世界ではじめて現われた航空母艦であった。

ついで、戦艦として建造されつつあった「赤城」「加賀」が、途中で空母に改造された。したがって艦腹が戦艦で、上部構造が空母という〝あいの子〟である。

飛行甲板は三段になっていて、上段が着艦用、中段が小型機の発艦用、下段が大型機の発艦用となっていた。つまり一方で発艦しな

航空母艦の艦型比較





▶「瑞鶴」

がら一方で着艦するというものだったが、その後この甲板は大はばに改造され、一段の全通甲板となり、近代的な大型空母に変身した。

性能も飛躍的に向上し、四万トンをこえる巨艦でありながら速力は「赤城」が三十一・二ノット、「加賀」は二十八・三ノットという高速を誇った。搭載機数は九十機におよぶ。

中型空母の代表選手は「蒼竜」と「飛竜」である。重心が低く、司令塔や煙突の位置、甲板の形、風圧面積、エレベーターなどが再検討され、高度の技術をもってつくられた。このため「蒼竜」と「飛竜」は、中型空母としてはほぼ理想的な性能を持つ艦として完成した。

二万トンほどの艦に、搭載機七十二機、速力三十四・五ノットは驚異的な性能である。

さらにつづいて、八〇〇キロ爆弾や二十センチ砲弾にも耐えられる弾薬庫を持つ、重防御の空母「翔鶴」「瑞鶴」が建造された。約三万トンの艦で速力三十四ノット、搭載機は八十四機。

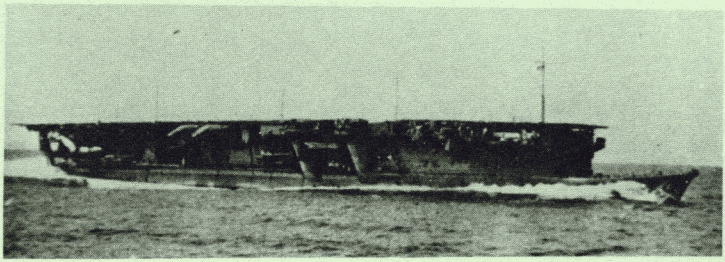
この二艦こそ十分な攻撃力、航続力、防御力をそなえた理想的な空母である。

また大型艦として完成した「大鳳」は飛行甲板が五〇〇キロ爆弾に耐える、七十五ミリの甲鉄で覆われ、煙突は発着に支障ないよう外側にかたむいていた。特に艦首は波切りをよくするために飛行甲板まで外板で包んだところが特徴である。三万四〇〇〇トンで速力三十三・三ノット、搭載機は五十三機だが、敵機の空襲にもビクともしない強力重防御の艦である。

世界最大の空母は、大和型戦艦三番艦を改造した、六万二〇〇〇トンの「信濃」であった。「大鳳」と同様の島型空母で、洋上の中継航空基地として、ほかの空母の飛行機に燃料や爆弾を補給する目的でつくられた。

日本では最初から制式空母として建造した艦は十三隻であった。このほかに潜水母艦を改造した「竜鳳」「祥鳳」「瑞鳳」、水上機母艦を改造した「千歳」「千代田」、大型客船を改造した、「飛鷹」「隼鷹」「大鷹」「雲鷹」「冲鷹」「神鷹」「海鷹」などの特設空母があった。客船改造の空母は速力が二十一ノット～二十五ノットで、制式空母より劣っていた。

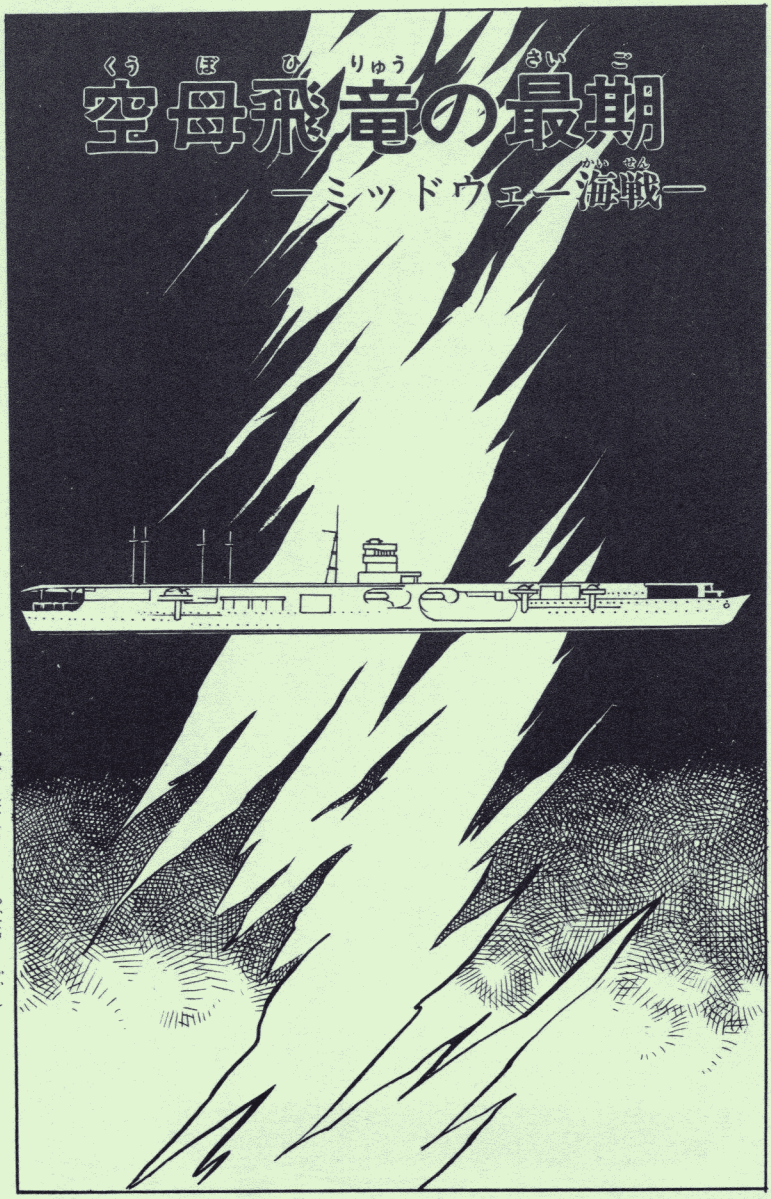
（解説・佐藤和正）



◀「竜鳳」

空母飛竜の最期

―ミッドウェー海戦―

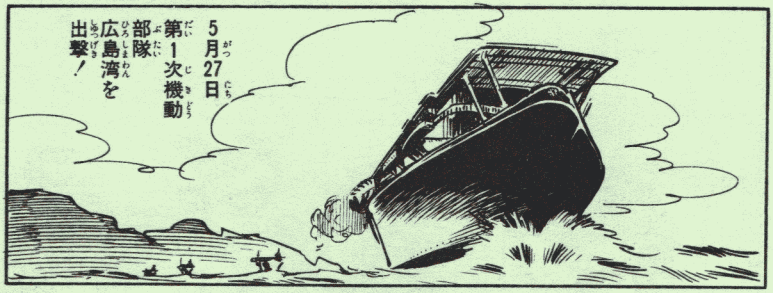


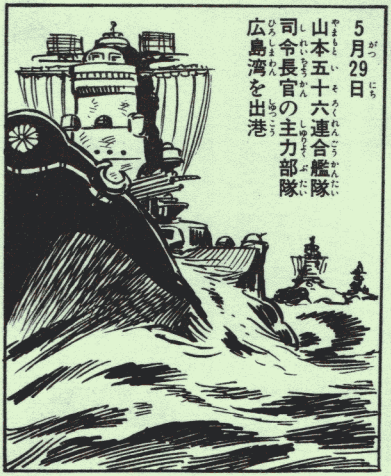
★味方空母全滅を知らされた「飛竜」は、ここに単独復讐を決意、夕闇の太平洋に追敵を開始した！

初空襲に一億沸る闘魂
ヒュ
ヒュ
ヒュ
けふ帝都に敵機來襲
九機を撃墜、わが損害輕微
東部軍司令部發表（十八日午後一時）
午後零時三十分ごろ敵機數方向より京濱地方に來襲せるも、我が空地兩航空部隊の反撃を受け逐次退散中なり、現在までに判明せる敵機撃墜數は九機にして我が方の損害輕微なる模様、皇室は御安泰に亙らせらる
わーっ
ヒュー
わー
敵機は燃え、墜
“必消”の民防空に
昭和17年4月18日、米軍のB25爆撃機16機はとつじょ東京を空襲した!!

これはゆゆしい問題だ
帝都が空襲されたとあってはわが海軍の面目がない
真珠湾攻撃だけでは不足だったのだ!!
こうなれば敵の太平洋艦隊を全滅させてやるぞ
カチ
おっ
おい山本長官の作戦案が軍令部に受理されたぞ

一行知識 太平洋戦争の戦艦どうしの戦いは「山城」「扶桑」が米戦艦六隻と闘ったスガリオ海峡戦一度だけだ。





ミッドウェー海戦日米両軍兵力

★第一機動部隊（南雲忠一中将指揮）
空母4（赤城　加賀　飛竜　蒼竜）
戦艦2　重巡2　駆逐艦12

★主力部隊（山本五十六提督直率）
戦艦7（大和　長門　陸奥他）
空母1　重巡2　駆逐艦13　水母艦2

★攻略部隊（近藤信竹中将指揮）
空母1　戦艦2　重巡4　駆逐艦8

★アリューシャン占領部隊
空母2　重巡3　軽巡2　駆逐艦11
水母艦1　潜水艇6　輸送船7他

★他に陸上砲撃部隊　輸送船団

☆第十六戦闘部隊（スプルーアンス少将）
空母2　重巡5　駆逐艦9他

☆第十七戦闘部隊（フレッチャー提督）
空母1　重巡2　駆逐艦6

☆油槽船群
油槽船6　駆逐艦2

☆ミッドウェー島の航空兵力
海軍機43　海兵隊機54　陸軍機34

一行知識

警戒艦「天霧」は南太平洋でケネディ元米大統領の乗った魚雷艇に体当たりしてこれを沈めた。

■ミッドウェー戦秘話①

〈解説されていたAF〉

海戦は、まず敵がどこにくるかを知る情報作戦からはじまった。

米海軍の作戦本部は、日本軍が〝AF〟なる地点を狙っていることを暗号を解読して知っていた。

参謀ロシュホート中佐はAFがミッドウェーではないかと予感「ミッドウェーは飲水にこまっている」という電報を、わざと平文で流してみた。するとまもなく日本軍の間で「AFは水に不足している」という電報がかわされるのがわかった。

AFのなぞは解けた！

一行知識

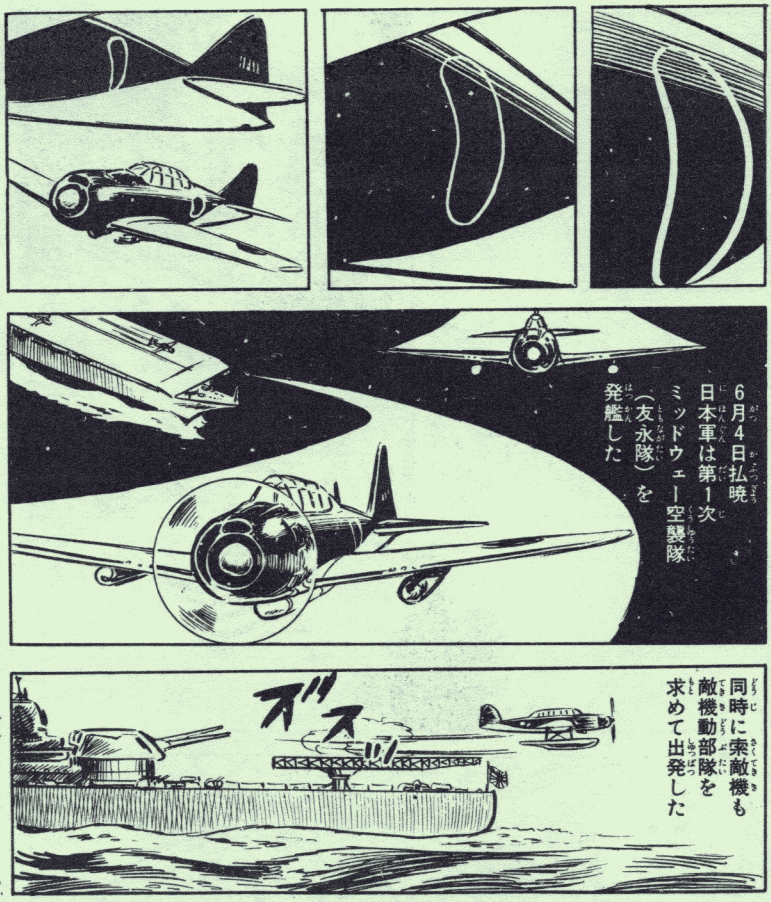
バルジ＝艦の装甲を強めるためにとりつけられた防御板。舷側に膨らんで見えるのがそれだ。

■ミッドウェー戦秘話②

〈索敵の運不運〉

六月四日、南雲部隊から七機の索敵（偵察）機が飛びたったが、このうちの一機（重巡「利根」機）はカタパルトの故障で三〇分発艦が遅れた。しかも敵は、この利根機の索敵範囲のなかにいたのである。

これにたいし米軍側の索敵機は、霧につつまれた南雲部隊の上空をしばしば飛びちがっていたがあきらめかけて帰ろうとした瞬間、雲間に大艦隊を発見した。利根機が米空母部隊を発見するより三時間早かったのだ。



一行知識

超ド級戦艦＝英戦艦ドレッドノート（一九〇六年）と比較するために使われた世界的言葉。

■ミッドウェー戦秘話③

〈運命の五分間〉

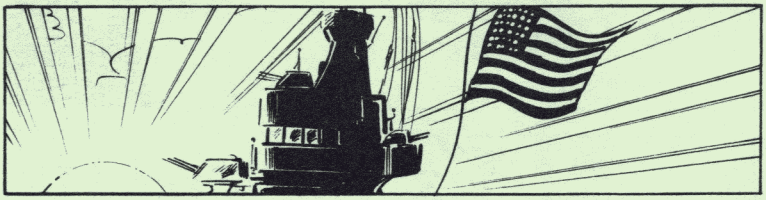
米スプルーアンス少将は敵発見の報に接するやいなや、ただちに三空母の全飛行機を発進攻撃にむかわせた。

これにたいし南雲中将は敵発見の報が入ると、ミッドウェー島二次攻撃のために甲板に待機していた飛行機の陸用爆弾を雷装にかえ、それから発艦させようとした。

そして準備がなり、最初の一機が飛びたとうとした瞬間、頭上からスプルーアンス隊が突入してきたのである。五分間の遅れが日本の命をたった。

一行知識

連合艦隊＝二つ以上の艦隊で編成した艦隊で、日本では攻撃中心の外戦部隊をさす。

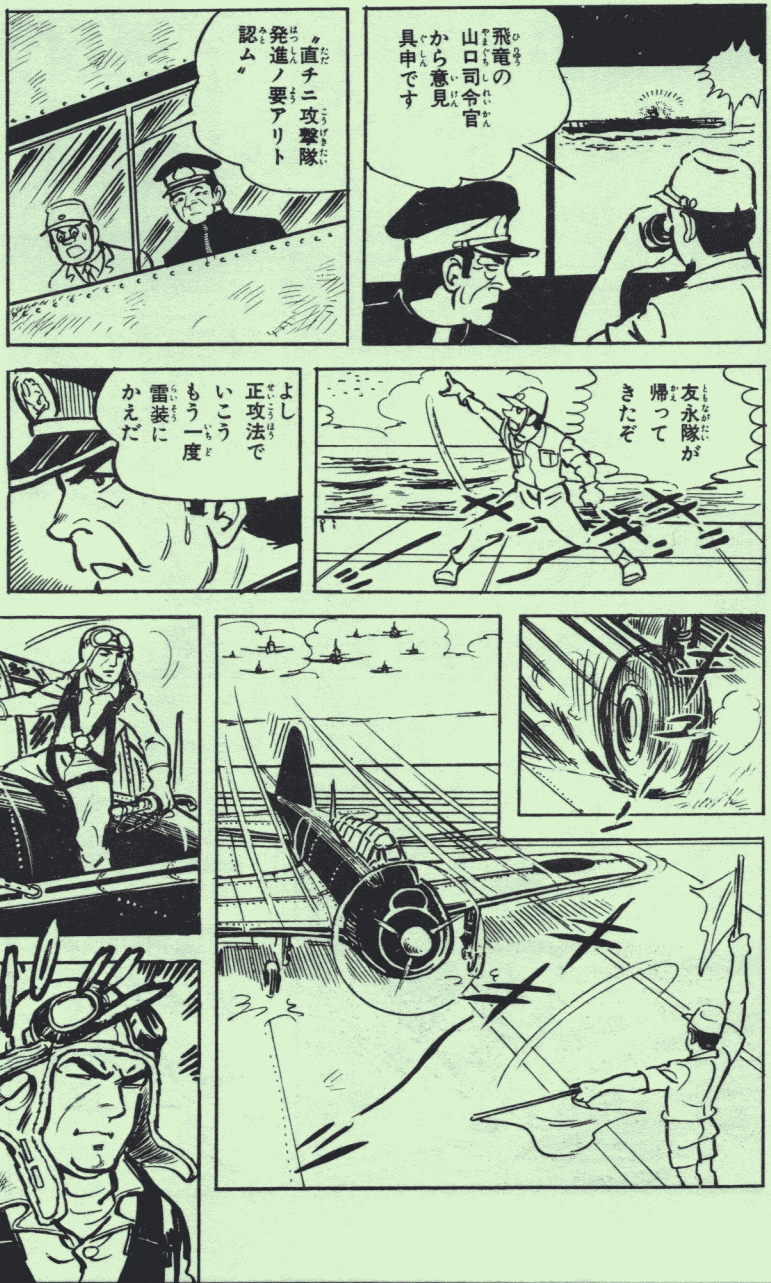


一行知識

機動部隊＝空母を中心にした艦隊で、アメリカではタスクフォースといった。

一行知識

水雷戦隊＝駆逐艦を中心に魚雷戦を展開する艦隊。日米両国のソロモン海の死闘は有名だ。

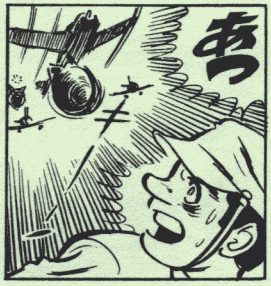

飛竜の
山口司令官
から意見
具申です
〝直チニ攻撃隊
発進ノ要アリト
認ム〟
友永隊が
帰って
きたぞ
よし
正攻法で
いこう
もう一度
雷装に
かえだ

一行知識

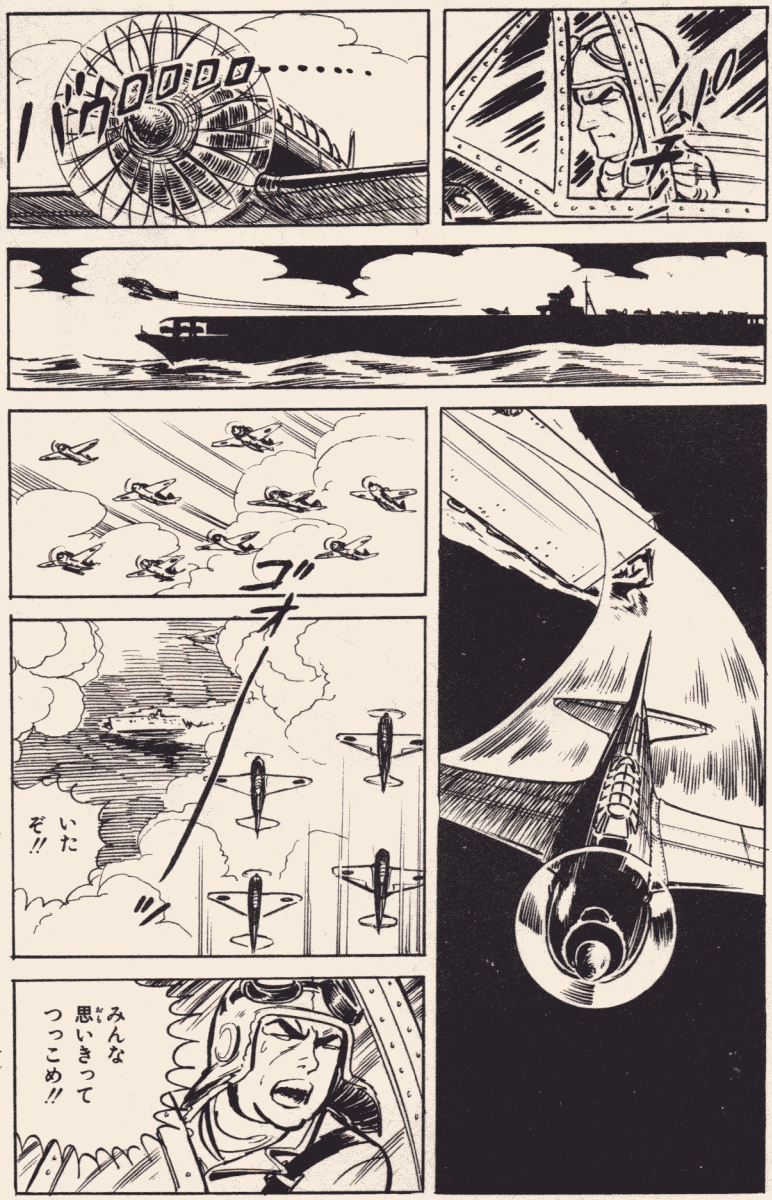
沈座＝駆逐艦などに追われた潜水艦がゆくえをくらますために海底にじっととどまること。

飛竜やるな…
タタタタタタタタ…
この野郎!!
こっちも作業急げ!!
準備よし!!
発艦!!

ミッドウェー海戦はまさにこの一瞬に決まった
赤城、加賀、蒼竜の3空母はつぎつぎと火災を起こし戦線から脱落した……


あっ

国名の略記　米＝アメリカ、英＝イギリス、独＝ドイツ、豪＝オーストラリア。



一行知識

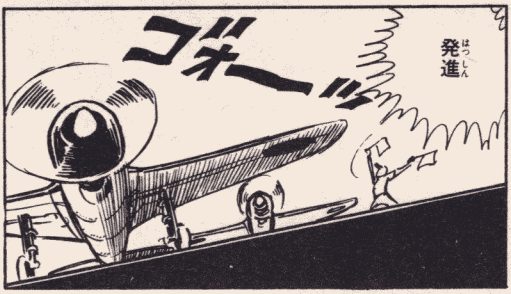
山本五十六大将＝開戦とうじの連合艦隊司令長官。昭和十八年四月ブーゲンビル島で戦死。

一行知識

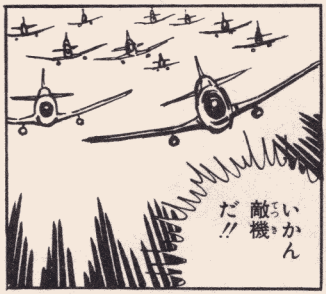
南雲忠一中将＝機動部隊の司令長官で真珠湾空襲の指揮官。昭和十九年サイパン島で自決。

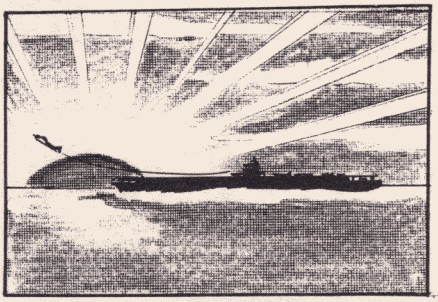
一行知識

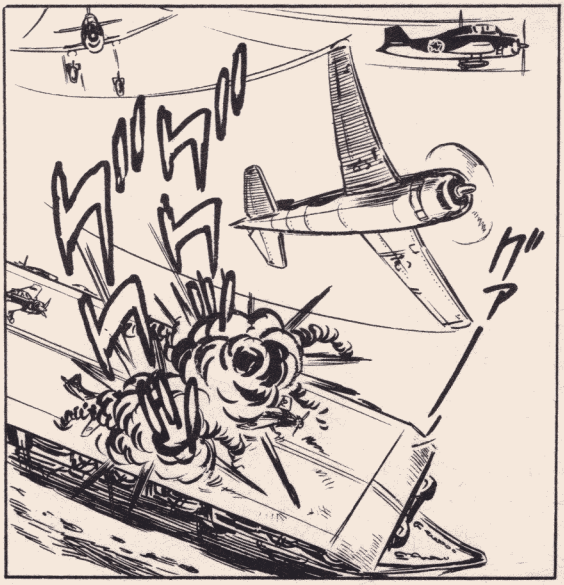
栗田健男中将＝捷号作戦艦隊の司令長官。レイテ沖でナゾの反転をする。

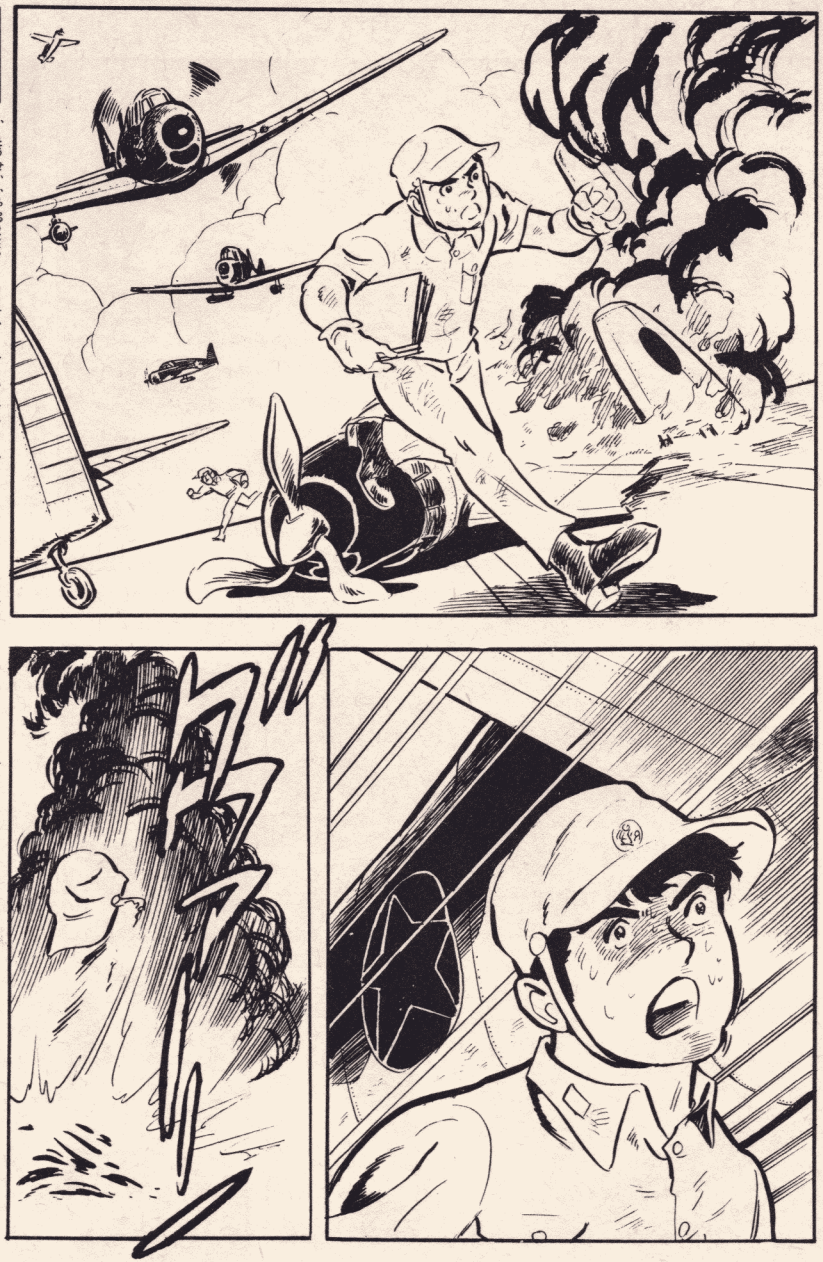

コオーッ
発進

最後の戦闘
準備よし
!!


いかん
敵機
だ!!



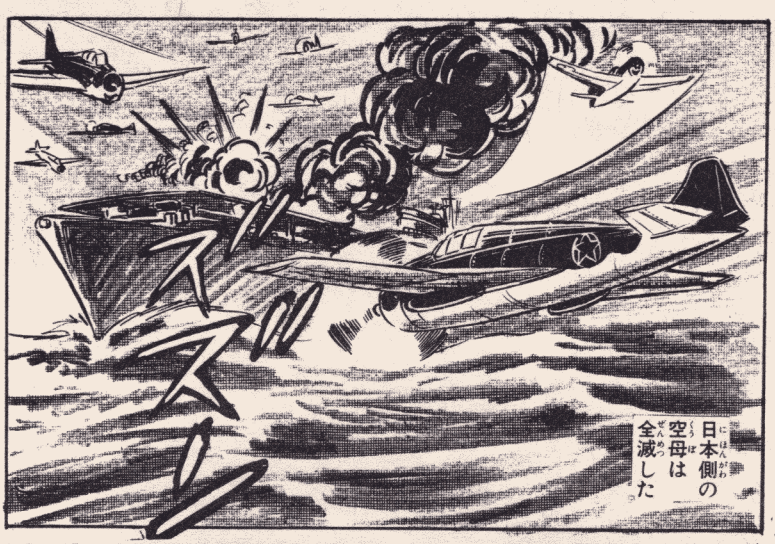

ガガガ
グアー

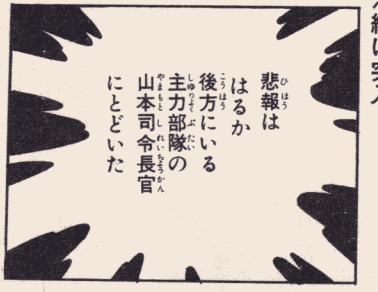


一行知識

伊藤整一中将＝菊水一号作戦で海上特攻を編成、「大和」と運命をともにした。

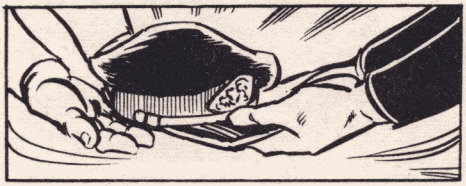
一行知識 宇垣纏中将＝連合艦隊の参謀長。終戦の日、九州鹿屋より艦爆にのって沖縄に突入。





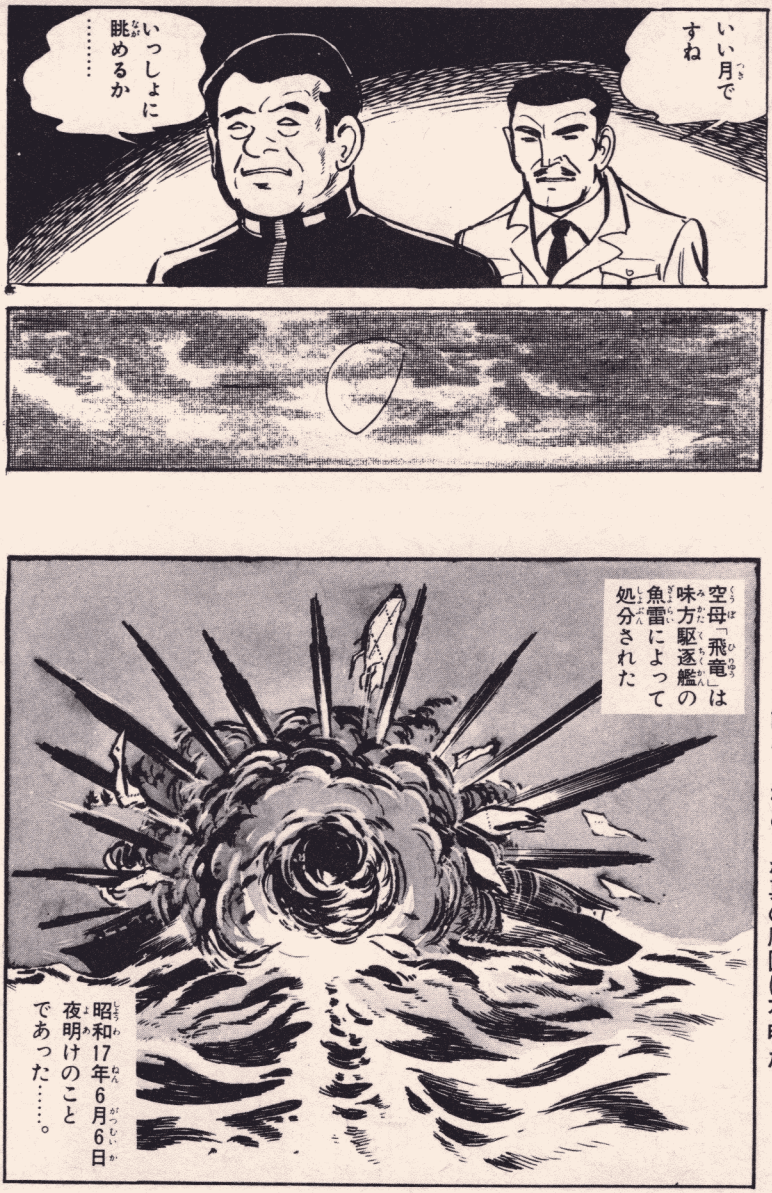
翌6月6日2時55分
山本司令長官は
ミッドウェー作戦の
中止を命じた

この海戦は
日本側の
完全な
敗北に終った



一行知識

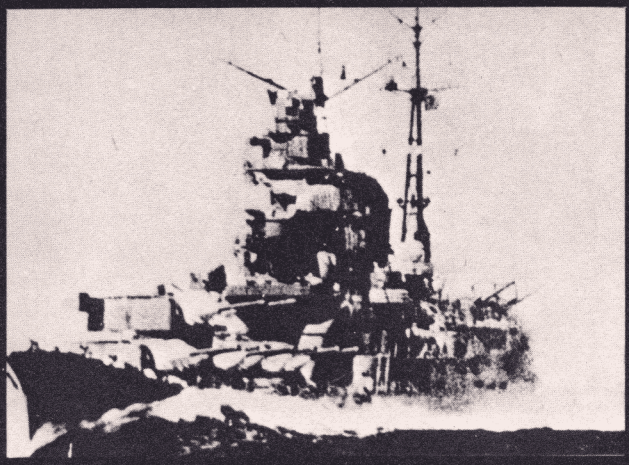
貨客船「報国丸」と「愛国丸」はかくし持った砲で大活躍、22隻の米英船を沈めた。



一行知識

昭和十八年瀬戸内海で爆沈した「陸奥」は放火説、事故説などがあるが真の原因は不明だ。

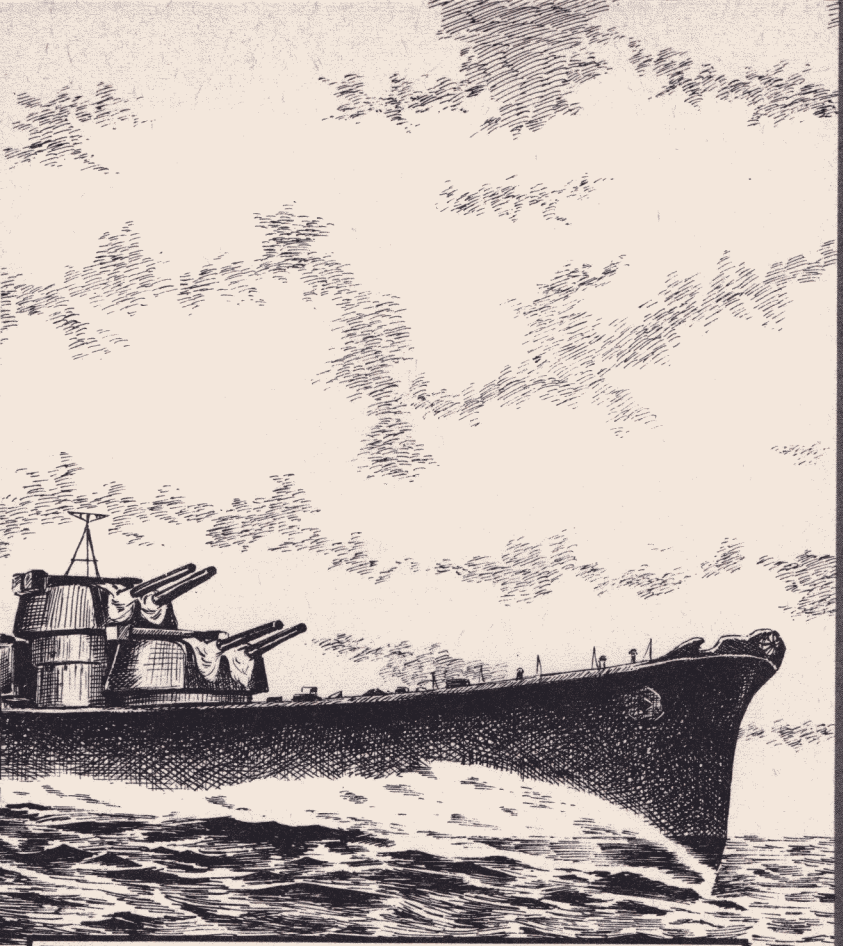
巡洋艦



戦艦より小型で戦闘力は劣るが，高速でより航行性にすぐれている艦につけられた名。ロンドン軍縮会議でこの巡洋艦はさらに二つの型「重巡洋艦」（甲巡または1等巡）と「軽巡洋艦」（乙巡または2等巡）にわけられた。

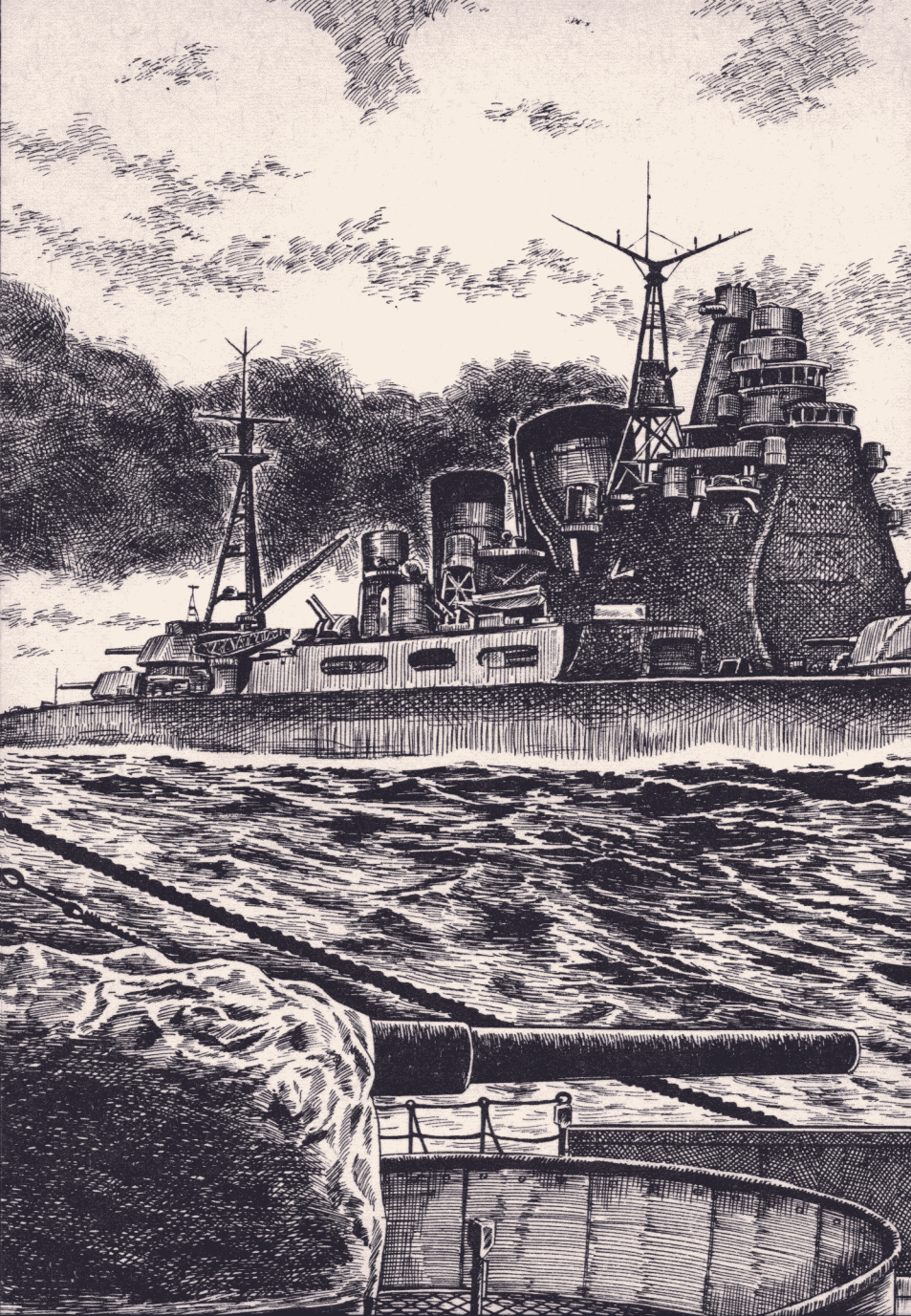
重巡 高雄

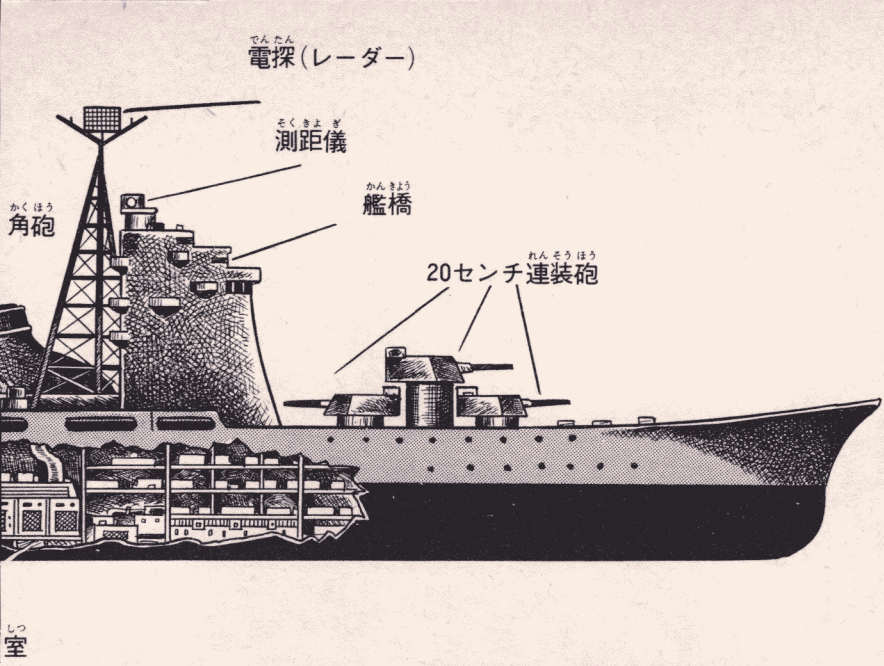
精巧なメカニズムと戦闘力をほこる日本重巡のエース。



基準排水量　13,400トン	主砲　20センチ砲10門
公試排水量　14,990トン	高角砲　12.7センチ砲8門
全長　201.7メートル	魚雷発射管　61センチ管16門
最大幅　20.7メートル	搭載飛行機　3機
最大速力　34ノット	航続距離　13,600キロ

妙高型を改良した独特の艦で，昭和20年7月31日，英豆潜の攻撃をうけて行動不能になるまで，つねに連合艦隊の第一線で活躍した。





●敵国を驚かせた重巡・高雄

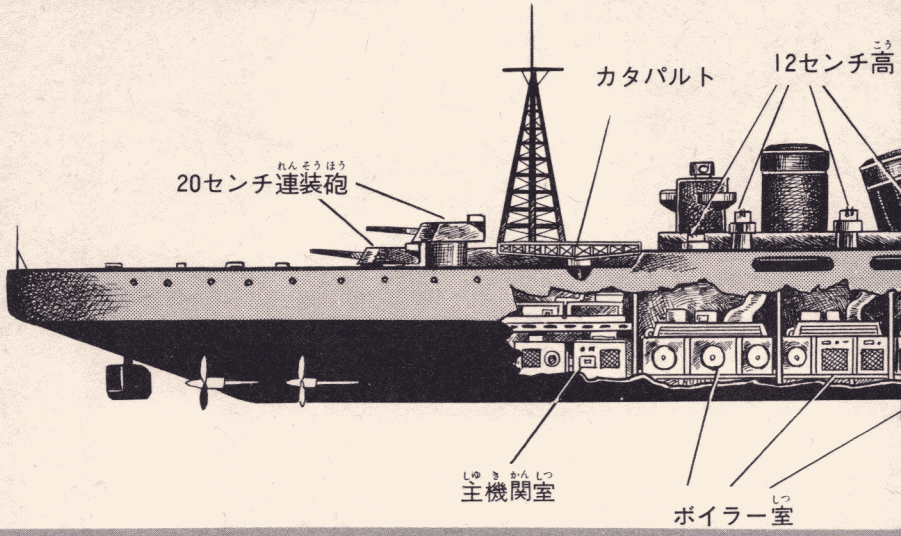
ばかでかい艦橋で人気のある「高雄」は、昭和七年横須賀で完成した（同型艦の愛宕・鳥海・摩耶も同時完成）。

高雄型は、妙高型とほとんど同じ設計であるが、電気溶接が一部採用され、軽金属を多く使って重量の超過を防ぐとともに、その分を防御にあてている。

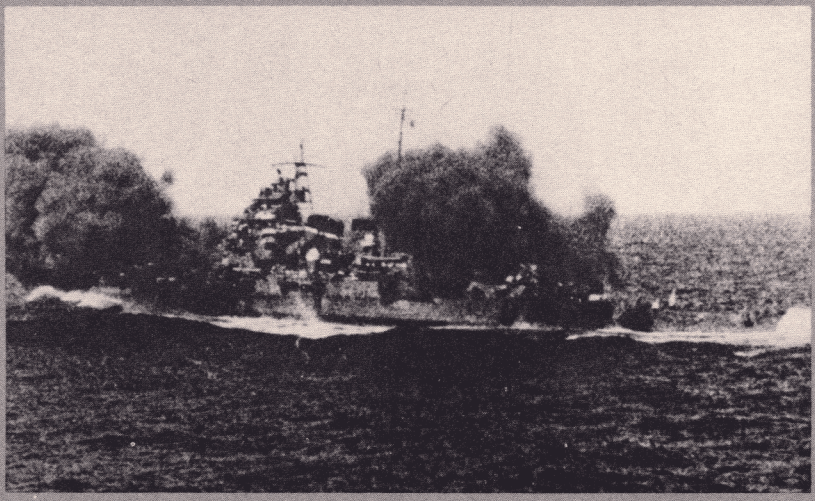
問題の艦橋は、旗艦としての指揮、作戦の機能をじゅうぶんはたすために考えられたものであるが、まるでマンションが引っこしをしているような観があり、外国からは「カバが泳いでいるようだ」などと笑われたという。

パラワン沖で米潜「ダーダー」の追撃を逃がれた「高雄」も、昭和二十年七月三十一日シンガポール港で英豆潜「ＥＸ三号」の攻撃をうけ航行不能となって終戦をむかえた。

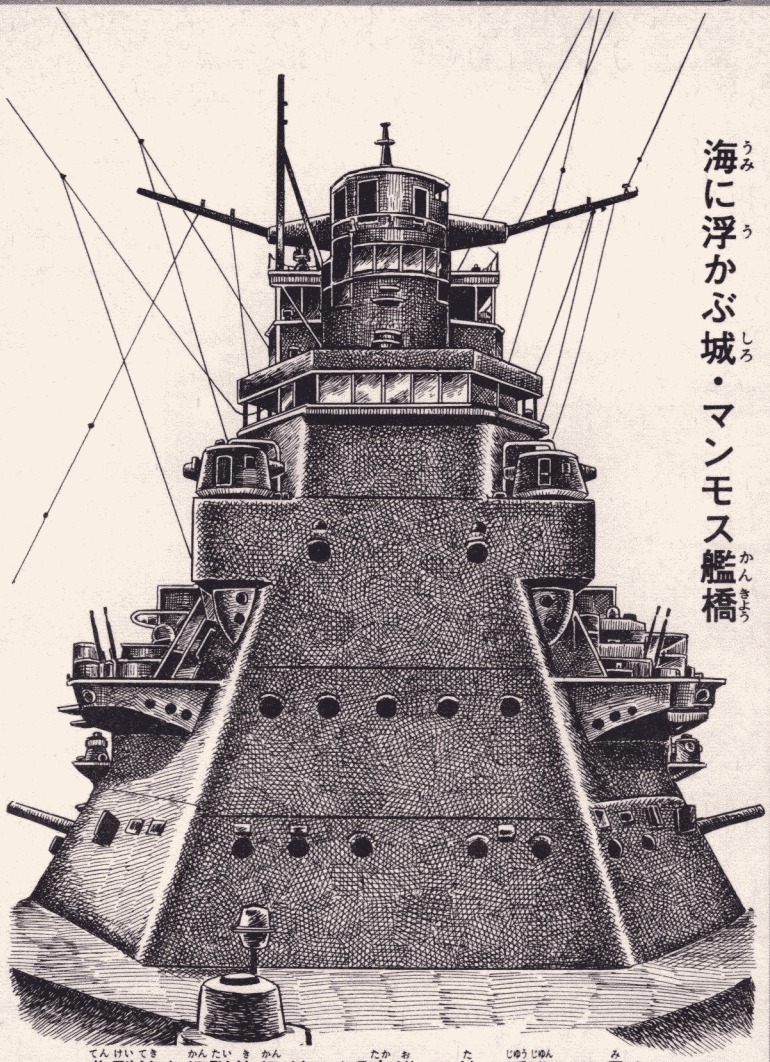
高雄のしくみ



▼九州沖で射撃訓練中の「鳥海」(高雄の同型艦)。

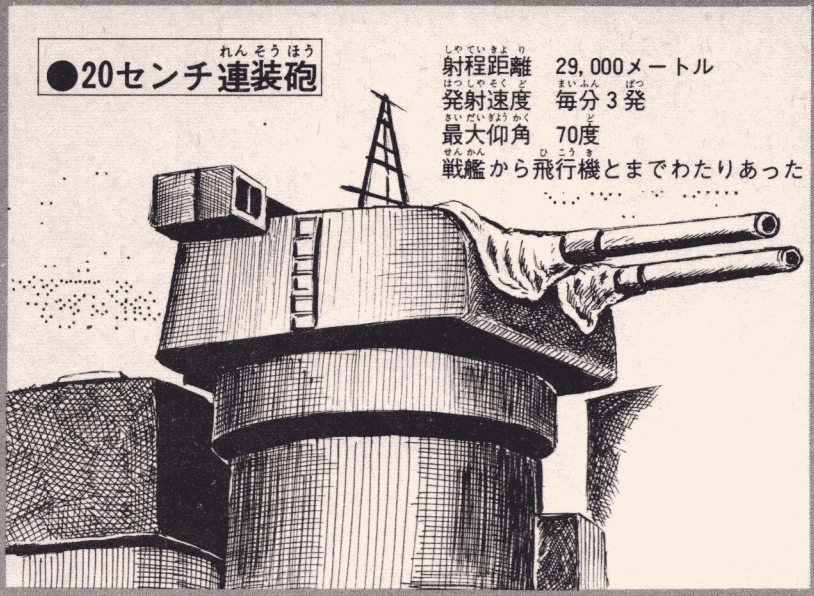


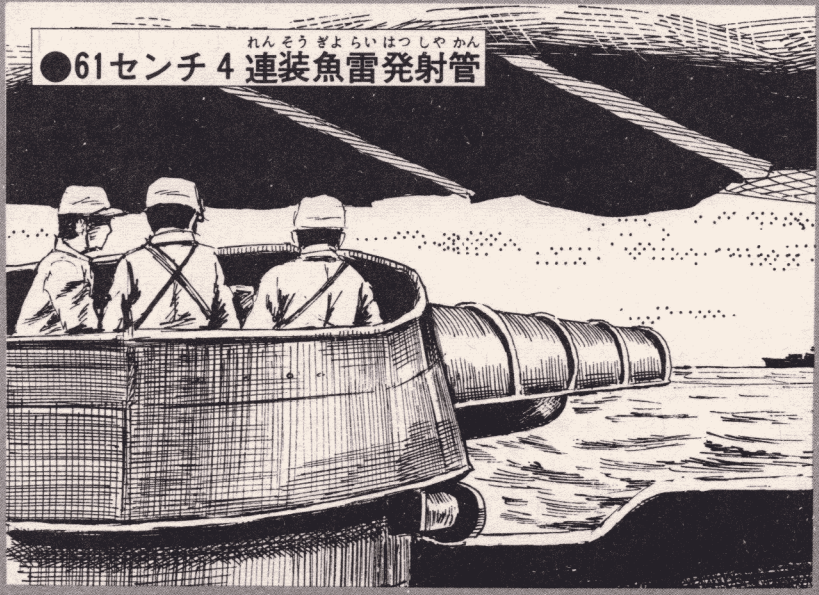
高雄のしくみ



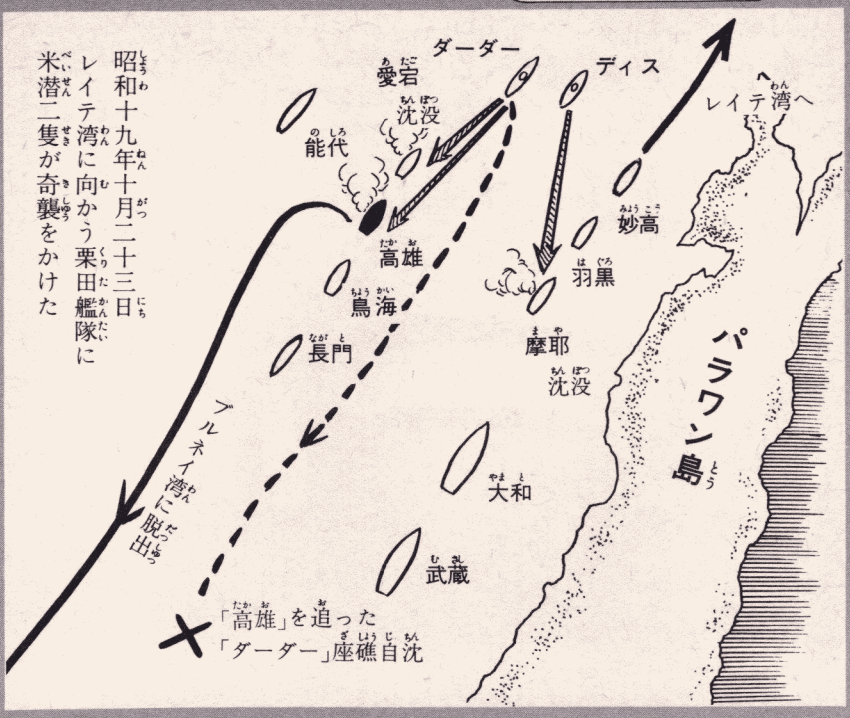
海に浮かぶ城・マンモス艦橋

典型的な艦隊旗艦だった「高雄」は他の重巡には見られない巨大な艦橋を持っていた。内部は10階にわかれ下の4階は煙道によってぶちぬかれていた。また頭でっかちになって艦の安定性が落ちるのを防ぐため軽合金を多く使用して全体を軽くつくっていた。


●20センチ連装砲
射程距離　29,000メートル
発射速度　毎分3発
最大仰角　70度
戦艦から飛行機とまでわたりあった


●61センチ4連装魚雷発射管

高雄の被雷



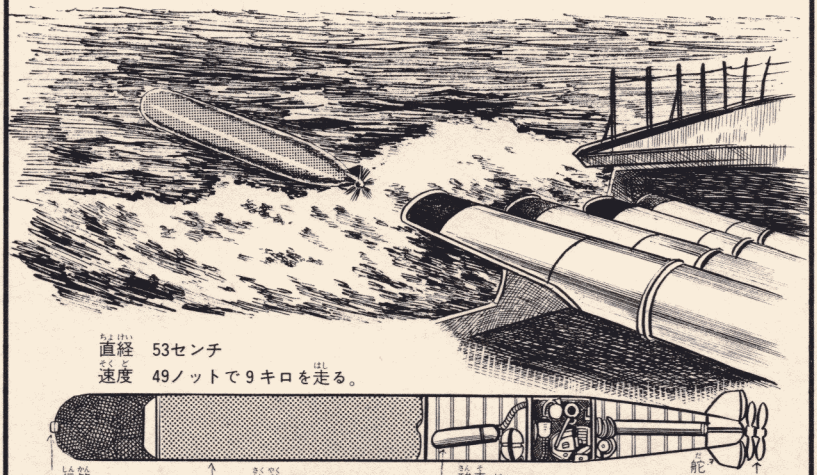
昭和十九年十月二十二日、重巡「高雄」は、「大和」「武蔵」らにしたがい第二艦隊（通称栗田艦隊）を組んで、ボルネオブルネイ湾を出発した。フィリピンのレイテ島にもどってきたマッカーサー軍を撃滅するための〝捷一号作戦〟である。

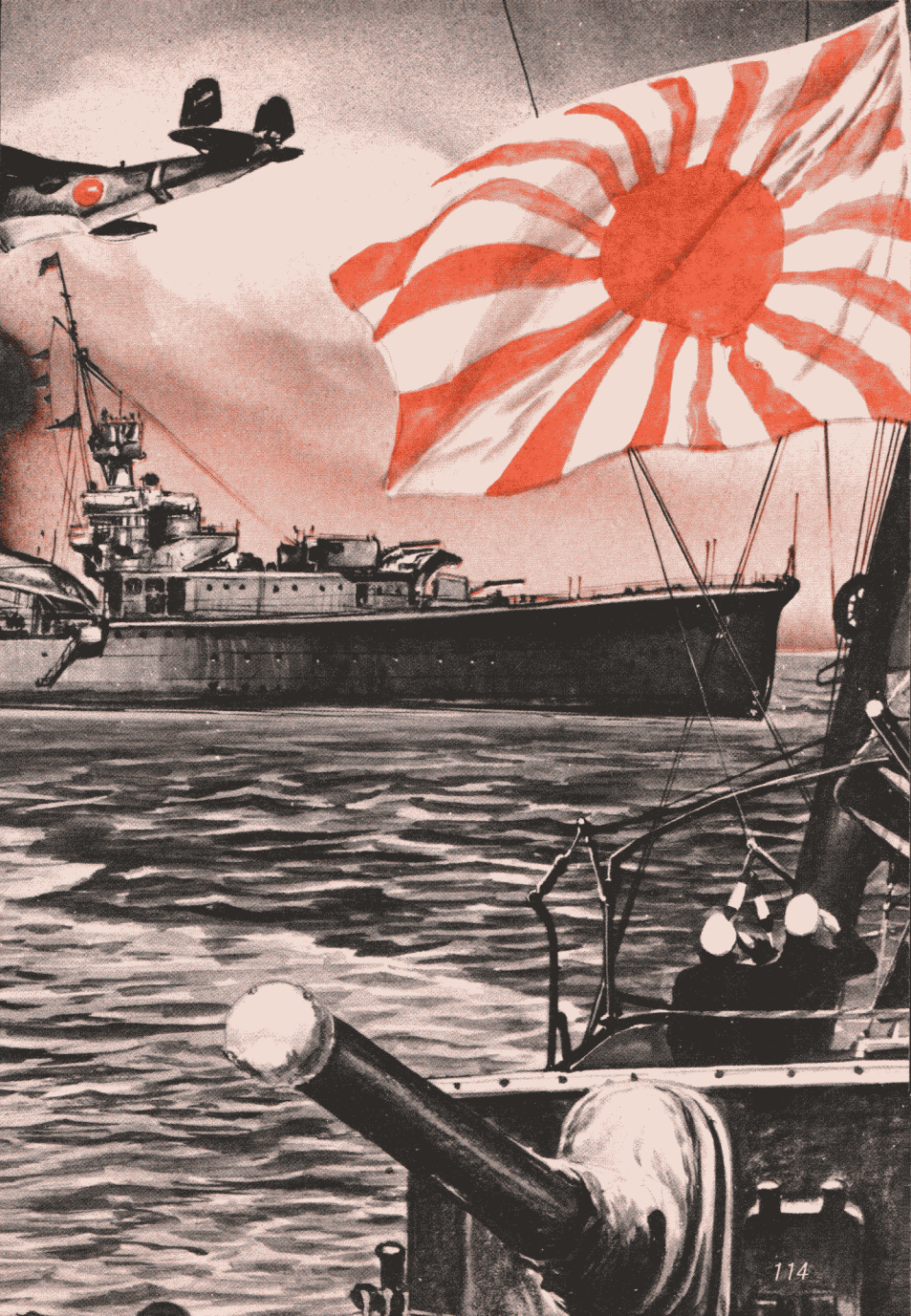
そのころ、レイテ島への水路にあたるパラワン水道に、ひっそりと沈んでいる二隻の黒い影があった。「ダーダー」と「ディス」の米潜だ。二十三日未明、かれらは潜望鏡の中に、重々しい艦影をとらえた。巨大な司令塔とうねりあがった艦首、それはまさしく日本のほこる重巡であった。魚雷が発射され、「愛宕」と「摩耶」は一瞬のうちに沈没、「高雄」は大破しながらも自力で航行、ブルネイ湾に帰港した。「高雄」を追った「ダーダー」は途中で座礁、自沈する。

秘密兵器「95式酸素魚雷」

大戦中、連合国側海軍がもっとも恐れたもののひとつに、日本の「酸素魚雷」がある。

ふつう魚雷は、圧さく空気を使ってエンジンをまわして走るしくみになっているが、これだと排出する空気が白い泡（航跡）となってのこってしまい、敵にさとられやすい。ところが日本海軍の開発した魚雷は、圧さく空気のかわりに酸素をもちいていたので、むだな気体（窒素）の排出がなく、ほとんど無航跡で効率もすぐれていた。「九三式酸素魚雷」（三六ノットで四万メートル走行）「九五式酸素魚雷」（四二ノットで一万五千メートル）がこれだ。アメリカの「改MK一三型」（三二ノットで八千メートル）などは、はるかにおよばない。第一次ソロモン海戦の日本の勝利は、この酸素魚雷のおかげであった。





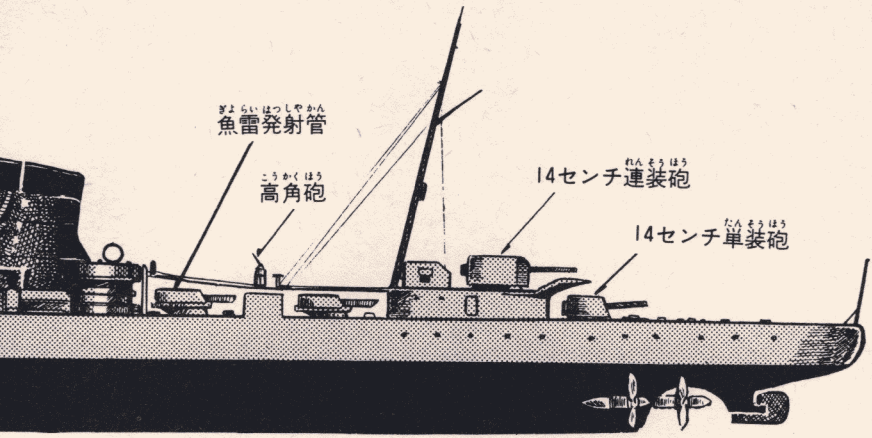
軽巡 夕張

わずか3,000トンながら5,000トン級軽巡にどうどう対抗した優秀艦

基準排水量 2,890トン
全長 137メートル
最大幅 12メートル
速力 35.5ノット

主砲 14センチ砲6門
高角砲 8センチ砲1門
魚雷発射管 61センチ 4門
(両舷方向に使える設計)

平賀造船大佐の設計になる特異な小艦で，大正12年にわずか1か年の期間で完成した。各種性能にすぐれ，貧乏国日本にとってはもってこいの艦であるとともに，この技術的成功が，のちに重巡古鷹を生んだ。昭和19年4月パラオ諸島南西で米潜の魚雷をうけて沈没。

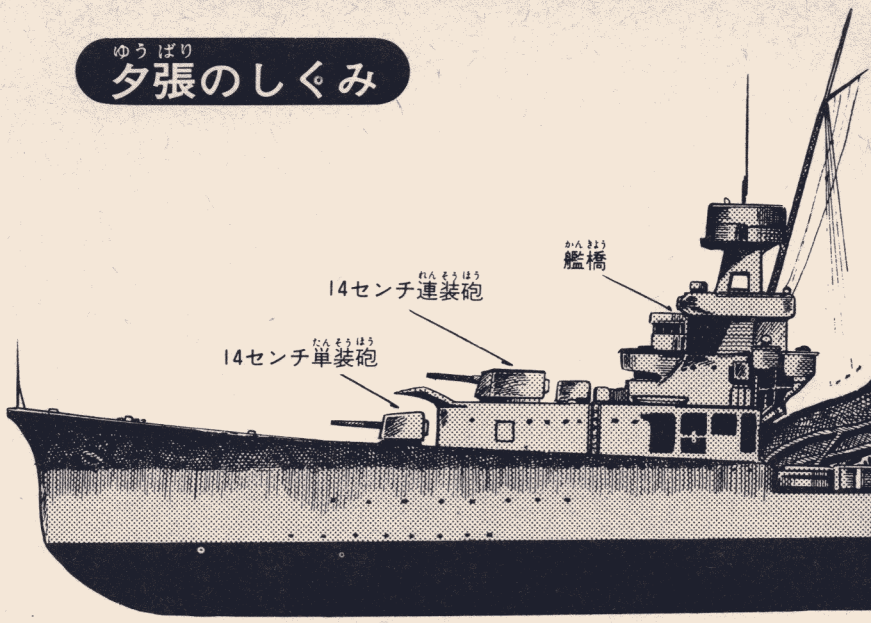


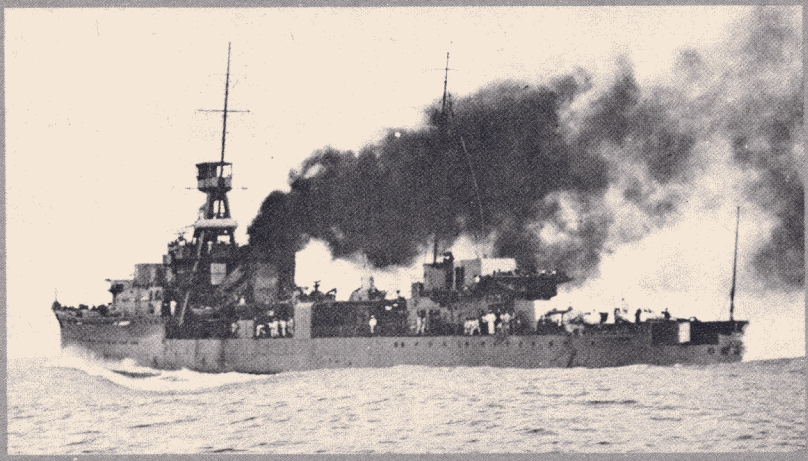
排水量わずか三千余トン、巡洋艦というより、むしろ大型駆逐艦に近いもので、平賀造船大佐の設計になる革命的艦。主砲、魚雷発射管を中心線上に配置したので左右両舷方向に使用でき、全体の戦闘力は、ゆうに五千五百トン級軽巡に対抗できた。

建造費も安く、貧乏国日本にはねがってもない艦であったが、どういうわけか、この型の艦は、「夕張」一隻しか造られなかった。しかしのちにこの技術は、名重巡「古鷹」に応用される。

「夕張」は、ウェーキ島作戦、ポートモレスビー攻略戦などに、旗艦として参加したをかわきりに、かずかずの戦いに加わって戦果をあげた。短命な艦の多かった日本の軽巡中ではよく奮闘したが、昭和十九年四月パラオ諸島沖で雷撃をうけ沈没。

夕張のしくみ

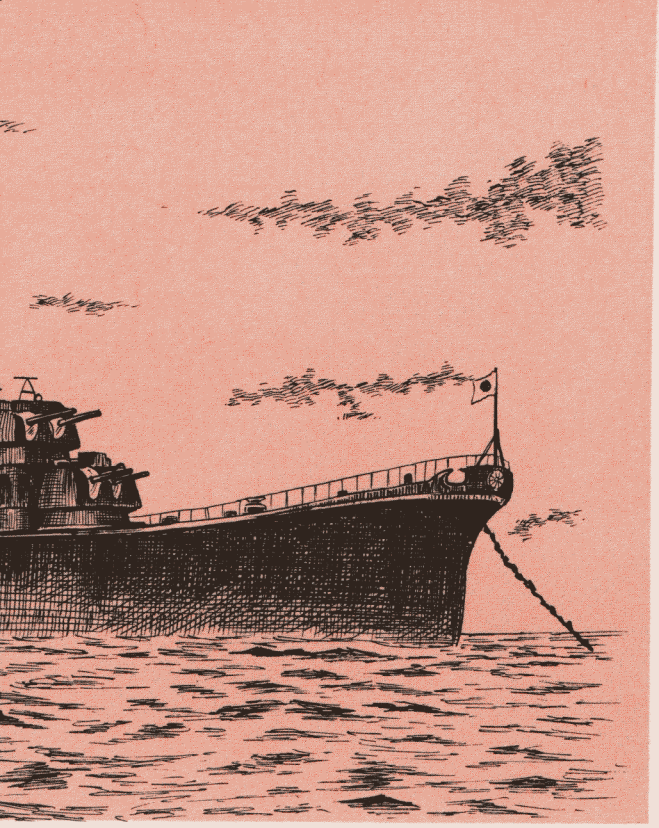


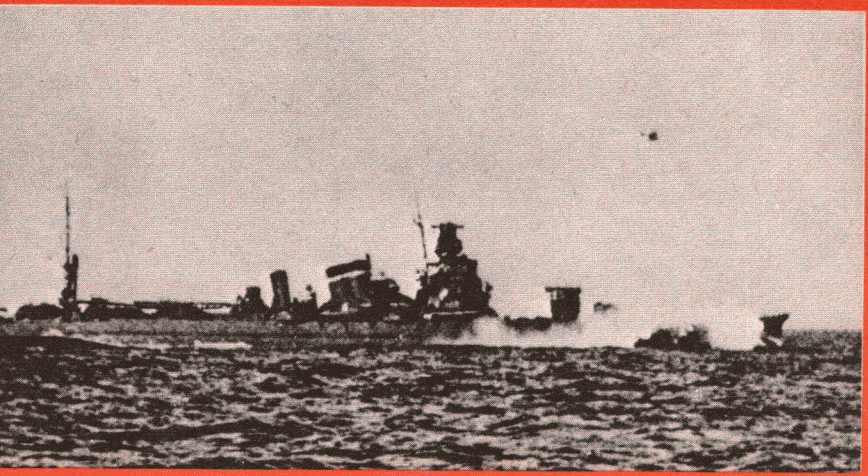


▲1923年7月，公試運転にて全力抗行する「夕張」。(写真・福井静夫氏所蔵)

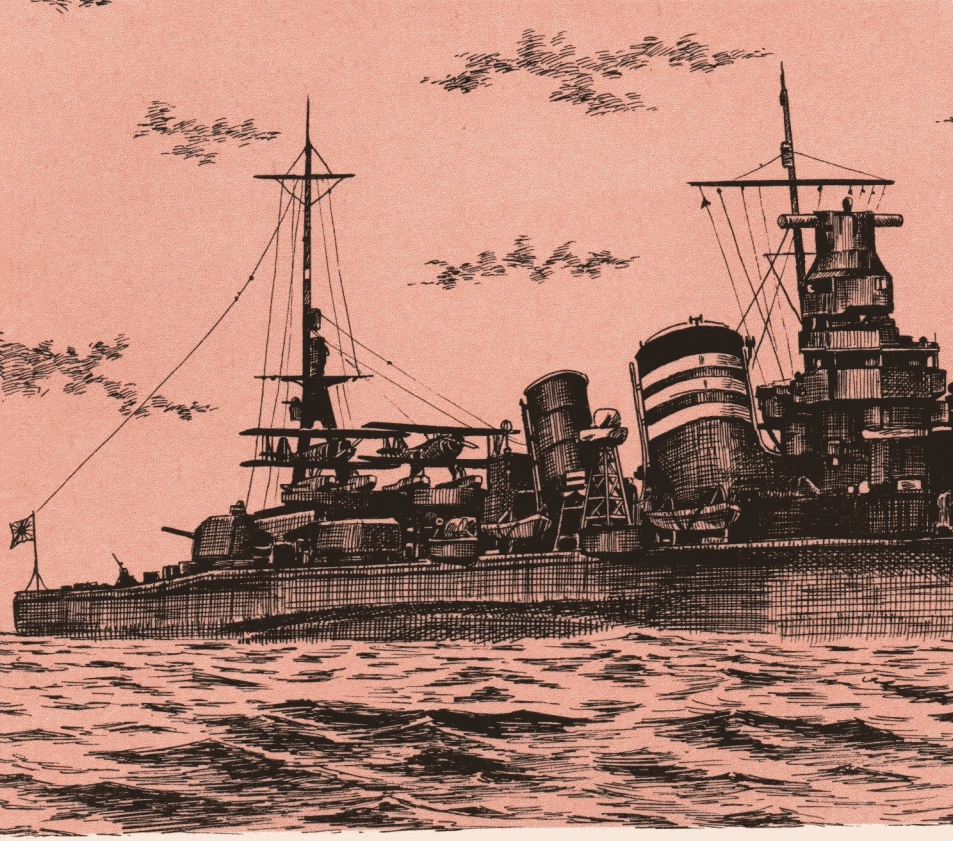
重巡 古鷹

平賀中将の設計になる、ひじょうにコンパクトで強力な偵察巡洋艦。昭和十四年に大改装し精強な重巡となった。





◀古鷹の姉妹艦「加古」の航行中の雄姿。



第1次ソロモン海戦で他艦と協同して敵重巡4隻を撃沈。つづく昭和17年10月のサボ島沖海戦においても，鬼神のごとき大活躍をしたが，米艦隊の集中砲火をうけ，壮烈な最期をとげた。

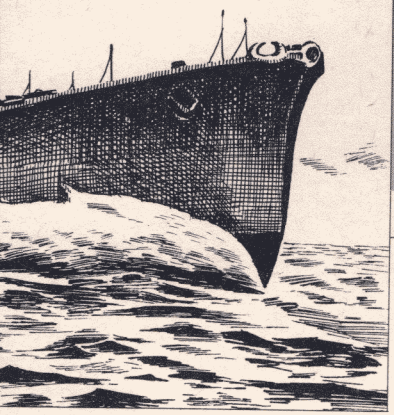
基準排水量　8,700トン
全長　181メートル
速力　33ノット

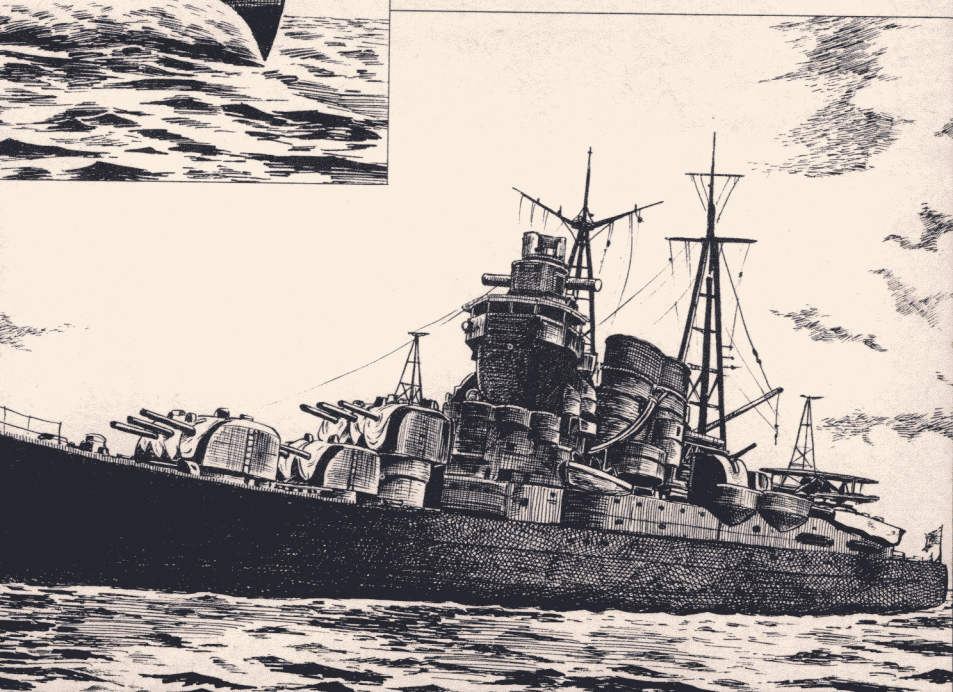
主砲　20センチ砲6門
高角砲　12センチ砲4門
魚雷発射管　8門

基準排水量　13,000トン
全長　202メートル
速力　33.5ノット
主砲　20センチ砲10門
高角砲　12.7センチ砲8門
魚雷発射管　16門

重巡 妙高

ワシントン条約で巡洋艦の排水量は一万トン以下に押えられてしまった。この制限のもとにつくられたのが妙高で、少い排水量で、より強力な兵装がえられるように設計してある。サイゴン沖で米潜の攻撃をうけシンガポールで行動不能のまま終戦。

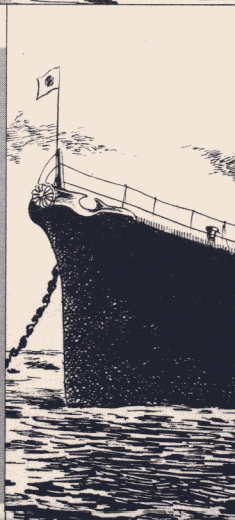




重巡 最上

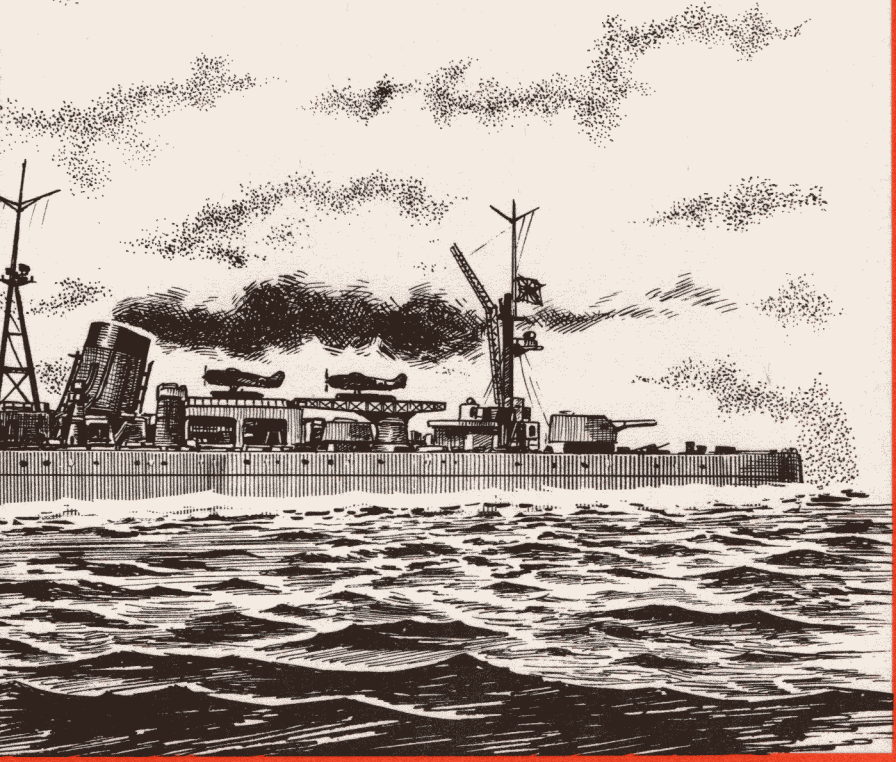
ミッドウェー海戦後，航空巡洋艦に改装され水上偵察機11機をつめるようになった。バタビヤ沖で重巡「三隈」とともに米重巡「ヒューストン」豪軽巡「パース」を大破するもスガリオ沖海戦で致命傷をうけ，処分された。

基準排水量　12,300トン
全長　198メートル
速力　35ノット
主砲　20センチ砲6門
高角砲　12.7センチ砲8門
魚雷発射管　12門



軽巡 矢矧

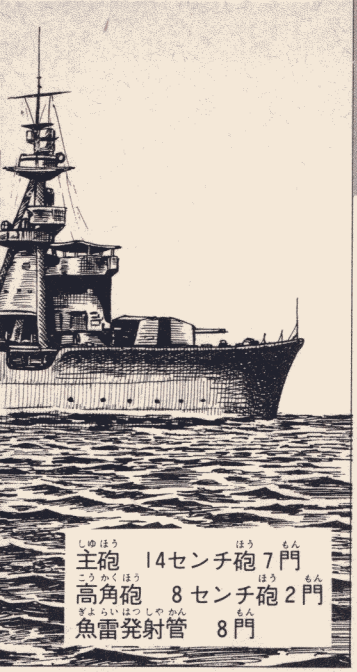
肉迫雷撃をもって世界にその名を
とどろかせた水雷戦隊の中心艦



長年使われた5,500トン型にかわる水雷戦隊旗艦用の巡洋艦としてつくられた。小型高速と魚雷兵装が特長で，ゼロ式三座水上偵察機をのせていた。昭和20年4月，沖縄海上特攻“大和隊”について出撃の途中，米空母機動部隊機の猛攻をうけ，7本の魚雷と20発の爆弾をくらって，あえない最期をとげた。

基準排水量　6,652トン	主砲　15センチ砲6門
全長　172メートル	高角砲　8センチ砲4門
速力　35ノット	魚雷発射管　8門

軽巡 球磨

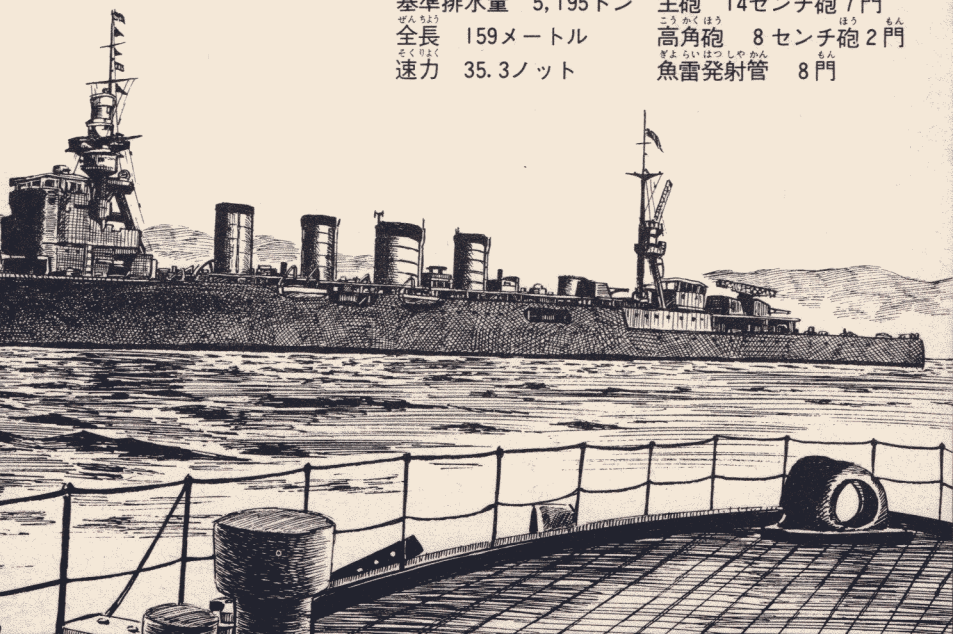


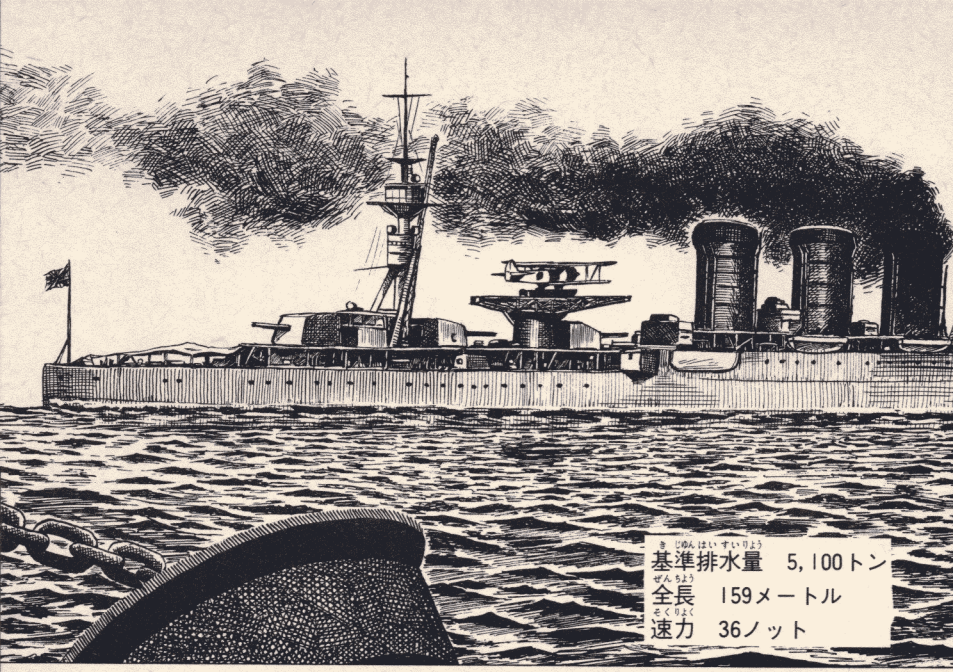
主砲　14センチ砲７門
高角砲　８センチ砲２門
魚雷発射管　８門

おもに水雷戦隊旗艦や練習艦に使われた。昭和19年１月，マレーのペナン沖で英潜の魚雷をうけて沈没。同型艦に「北上」「大井」「木曽」があり，後に「大井」は魚雷重装艦に，「北上」は回天母艦に改装。

基準排水量　5,195トン
全長　159メートル
速力　35.3ノット

主砲　14センチ砲７門
高角砲　８センチ砲２門
魚雷発射管　８門





基準排水量　5,100トン
全長　159メートル
速力　36ノット

軽巡　川内

5,500トン型巡洋艦のひとつだが，球磨型，長良型とちがって煙突が4本ある。昭和18年11月のブーゲンビル島沖の海戦で，敵軽巡1隻，駆逐艦2隻を傷つけたが，みずからも集中砲火をあびて沈没。

●巡洋艦について

★「大和」と同馬力の最上型　★完璧な航空巡洋艦＝利根型

巡洋艦は、戦艦にくらべてはるかに小型だが、その軽快な高速力と、優れた火力、機動力によって、欠くことのできぬ重要な軍艦である。

巡洋艦の用途はきわめて広く、戦艦に匹敵するほどの長大な航続力があるところから、長期間の連続行動が可能である。そこで海外警備に適し、艦隊行動では偵察や連絡の任務について艦隊の目となり、戦闘ともなれば、主砲と魚雷とで敵の中小艦を攻撃し、さらに主力を補佐する。

また敵の輸送船を攻撃して通商破壊に活躍したり、味方海上交通と軍隊輸送などの護衛艦に任じたり、さまざまな用途に用いられる便利な軍艦である。

この多用途艦である巡用艦は、重巡洋艦と軽巡洋艦の二種類に分けられる。

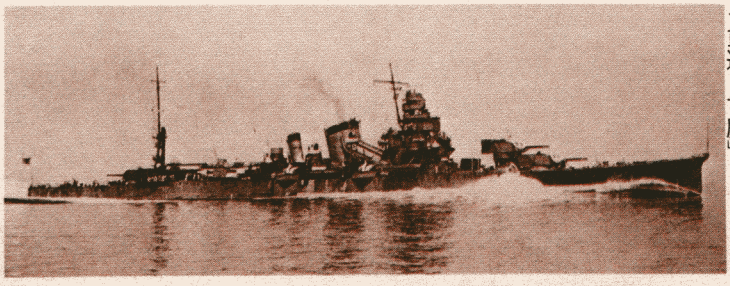
重巡洋艦は大型で、二十センチ主砲をもつ、攻撃力の大きい艦であり、軽巡洋艦は重巡よりやや小型で十五・五センチ主砲をもち、駆逐艦なみの高速である。したがって軽巡は水雷戦隊の旗艦、または潜水艦隊旗艦としての任務についていた。

〔重巡〕

日本が所有していた重巡は全部で十八隻であった。これを分類すると、古鷹型、妙高型、高雄型、最上型、利根型の五種類になる。

古鷹型は日本で最初につくられた近代的な重巡である。この型には「古鷹」「加古」「青葉」「衣笠」の四隻がある。連装主砲六門、発射管は甲板上に四連装二基がおかれ、高角砲は十二センチ四門、水偵二機を搭載し、速力は約三十三ノットである。

妙高型は「妙高」「那智」「足柄」「羽黒」の四隻



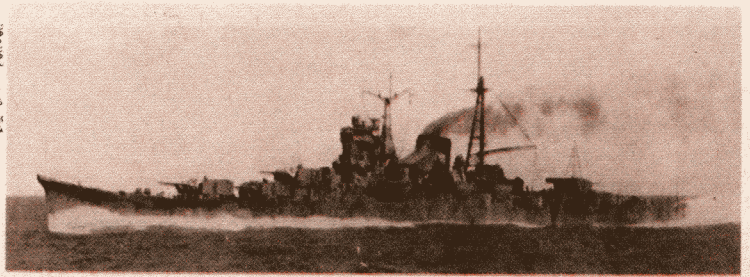
◀重巡「古鷹」

で、古鷹型よりも大きい一万五〇〇〇トンの重巡。主砲は二十センチ連装五基十門、高角砲は十二・七センチ八門、上甲板に四連装の発射管四基をおき、水偵三機搭載という重装備である。それでもなお速力は四十四ノットと優足であった。

妙高改型としての高雄型は、「高雄」「愛宕」「鳥海」「摩耶」の四隻がつくられた。この高雄型は、主砲をはじめ一般配置や機関部は妙高型とほぼ同じである。

しかし妙高型とくらべてちがっているのは

巡洋艦の艦型比較



▶重巡「最上」

艦橋が巨大なこと。複雑な指揮装置と各種指揮所、艦隊司令部の施設をつくったため、妙高型の艦橋の三倍もの大きさになった。

最上型は「最上」「三隈」「鈴谷」「熊野」の四隻で、戦艦「大和」と同じ十五万馬力の機関を搭載、はじめは三十七ノットという快速を出したが、後、重装備に改装したため三十五ノットに低下した。

利根型は「利根」「筑摩」の二隻。大きな特色は、主砲四基がすべて前甲板に集中し、後甲板に水偵六機を収容する航空巡洋艦としたこと。このため、重巡としてひじょうに完成されたものとなった。速力は三十五ノット。

〔軽巡〕

日本の軽巡は全部で二十五隻あった。これを分類すると、天竜型、五五〇〇トン型（球磨型、長良型、川内型）、夕張型、阿賀野型、大淀型、香取型の六つの型に分けられる。

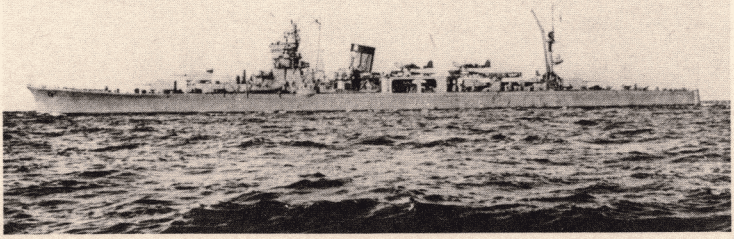
この中で軽巡を代表するものとして、強いてあげるなら、五五〇〇トン型と阿賀野型であろう。

五五〇〇トン型は、初期の球磨型として「球磨」「多摩」「北上」「大井」「木曽」の五隻、中期の長良型として「長良」「五十鈴」「名取」「由良」「鬼怒」「阿武隈」の六隻、後期の川内型として「川内」「神通」「那珂」の三隻である。

球磨型、長良型は煙突が三本、川内型は四本である。排水量は後期になるにつれて少しずつ増加したがあまり差はなく、主砲は十四センチ七門、高角砲は八センチ二門、発射管は八門という装備である。速力は球磨、長良型が三十六ノット、川内型が三十五・二五ノットという、世界の巡洋艦の中でももっとも高速であった。

阿賀野型は「阿賀野」「能代」「矢矧」「酒匂」の四隻で、この型は水雷戦隊旗艦用に建造されたものである。十五センチ連装主砲三基六門、六十一センチ四連装発射管二基八門、水偵二機、速力三十五ノットで、旗艦としての司令部施設、通信装置、指揮装置などを、六六〇〇トンの艦におさめたことは大成功で、重巡に匹敵する性能といえる。

（解説・佐藤和正）



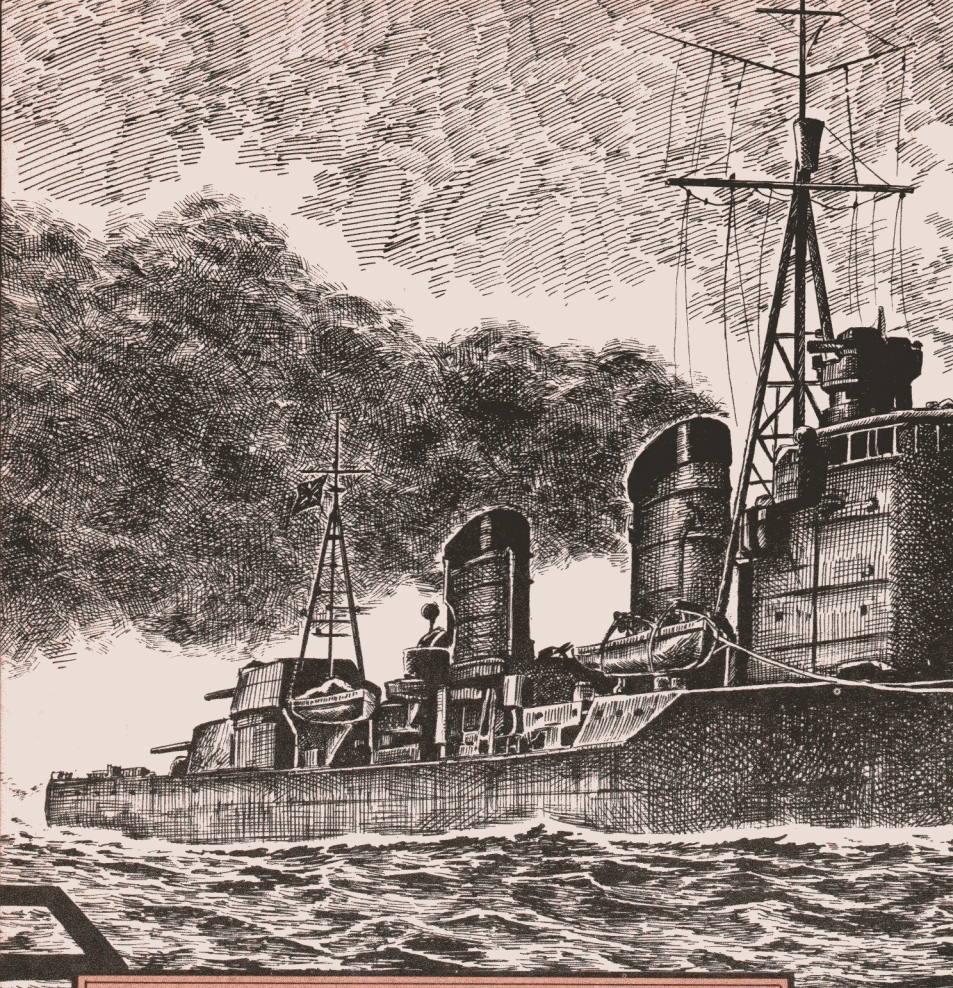
◀軽巡「矢矧」

駆逐艦

ほんらいの任務は“トーピードボート・デストロイヤー”といって水雷艇破壊作戦にあるが，みずからも水雷戦を展開し，夜戦においては戦艦とわたりあう力を持っている。ただ防御力が弱いので守勢にまわると悲惨だった。

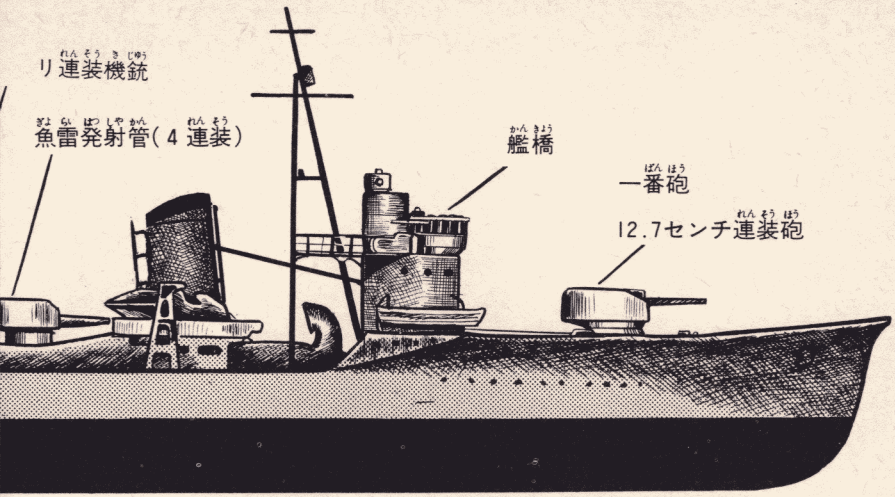
駆逐艦 陽炎

三十五ノットの高速で活躍した日本駆逐艦の傑作

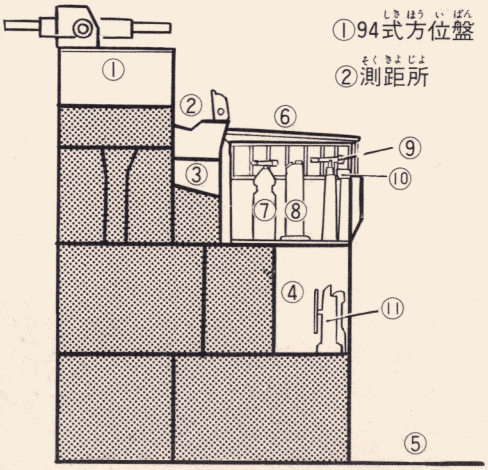


基準排水量	2,000トン	主砲	12.7センチ砲6門
公試排水量	2,500トン	魚雷発射管	61センチ管8門
全長	116.2メートル	機関出力	52,000HP
最大幅	10.8メートル	航続距離	約8000キロ
最大速力	35ノット	艦型名	陽炎型

陽炎型はあらゆる点からみて理想的な駆逐艦で，夕雲型とともに日本駆逐艦の中心であった。ルンガ沖夜戦で活躍したが，昭和18年ソロモン島にて触雷，空襲により沈没。



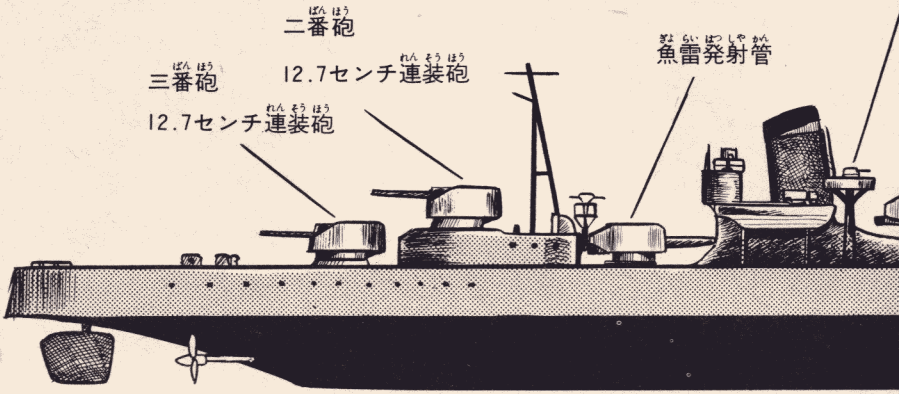
●艦橋のしくみ



①94式方位盤
②測距所
③海図室
④操舵室
⑤甲板
⑥天蓋
⑦発射指揮盤
⑧磁気羅針盤
⑨双眼望遠鏡
⑩従羅針盤
⑪操舵室

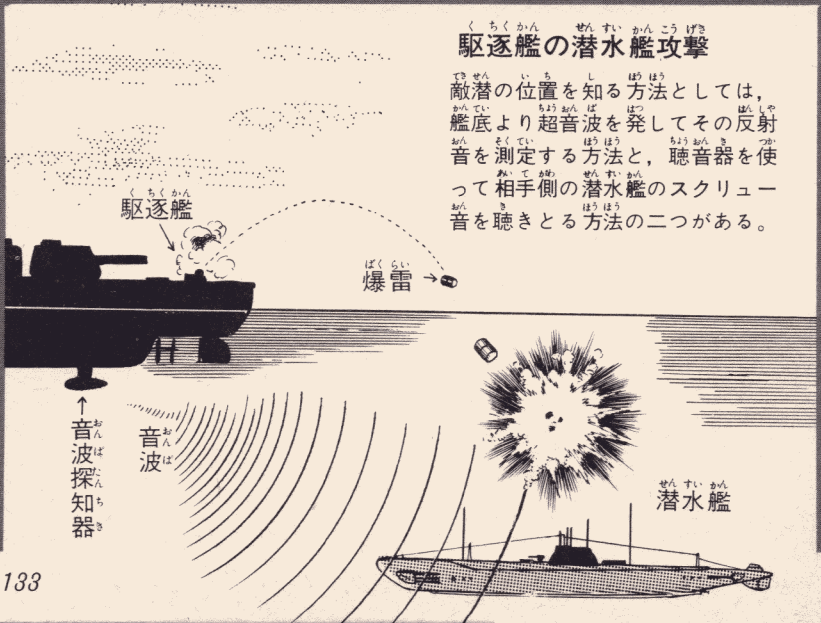
陽炎のしくみ

25ミ

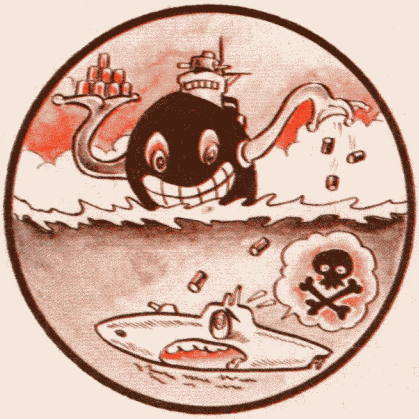


駆逐艦の潜水艦攻撃

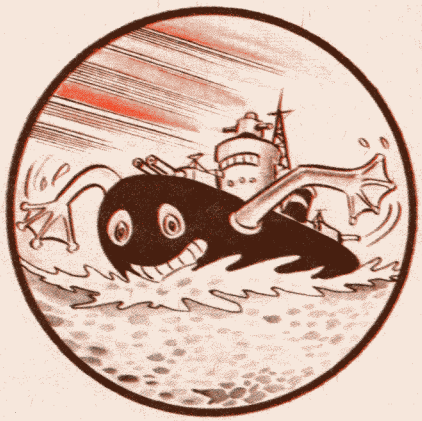
敵潜の位置を知る方法としては，艦底より超音波を発してその反射音を測定する方法と，聴音器を使って相手側の潜水艦のスクリュー音を聴きとる方法の二つがある。



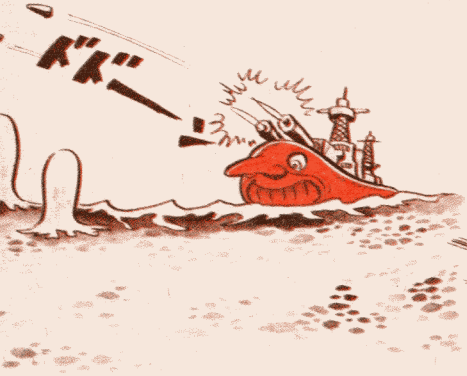
駆逐艦の長所と短所



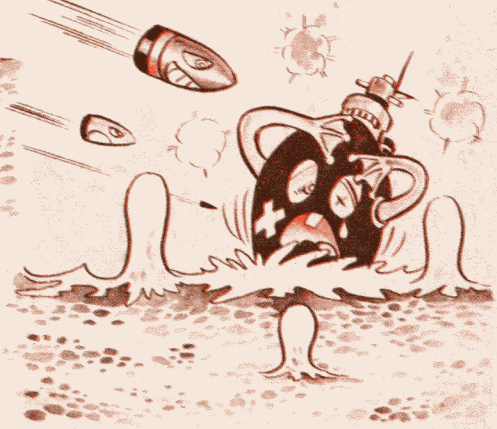
とくいの爆雷攻撃は，潜水艦がもっとも恐れているものだ。



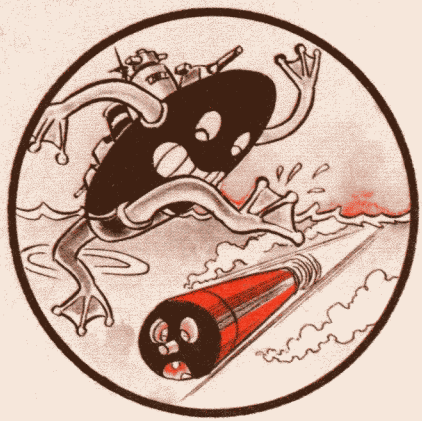
スピードがある。



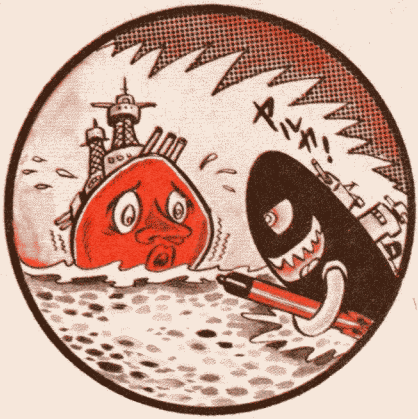
艦が小さいので防御力が弱く1発の魚雷や砲弾で沈められてしまうこともある。



大きな砲にくらべて魚雷は射程が短いので，近距離戦でないと威力を発揮しにくい。

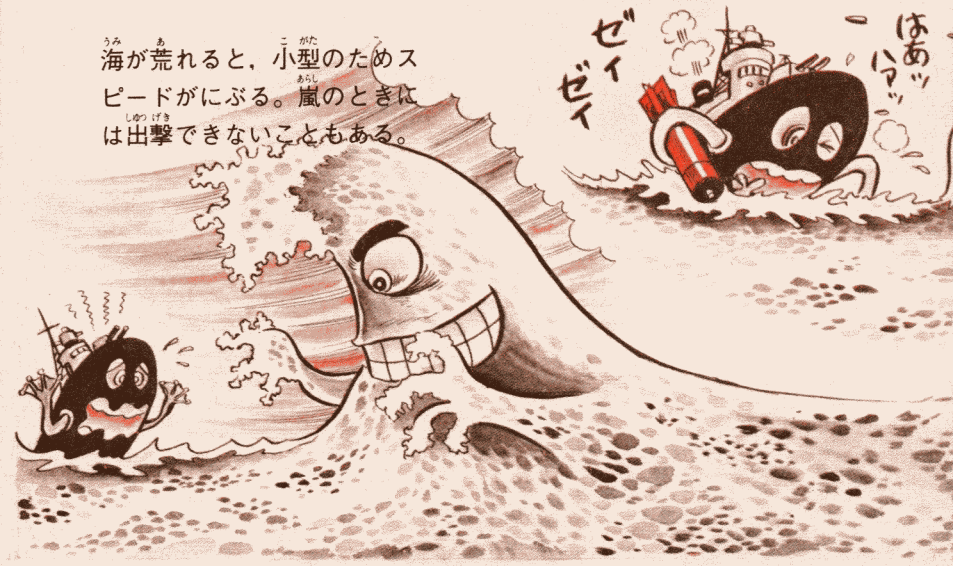


小まわりがきくので，魚雷などの攻撃をさけやすい。

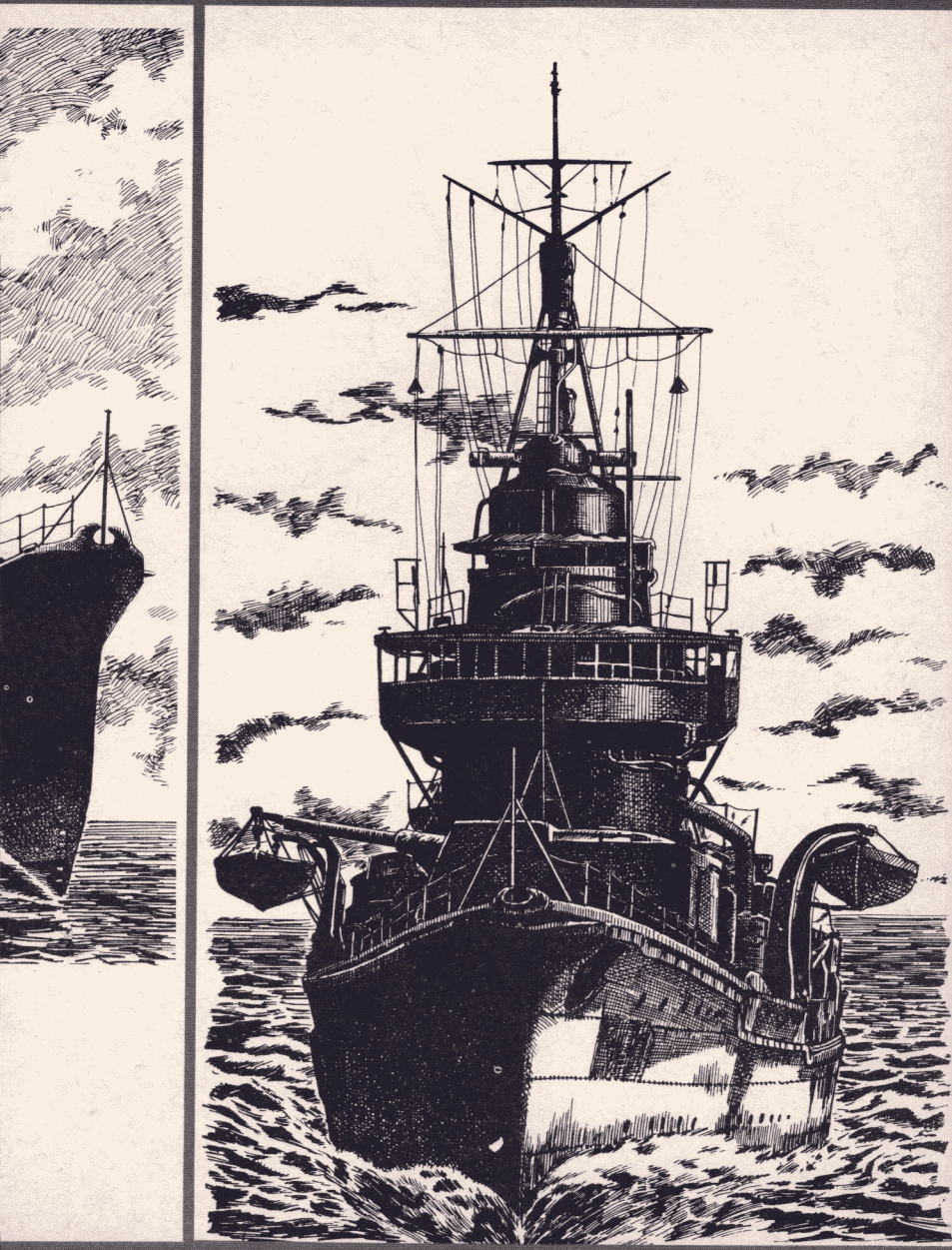


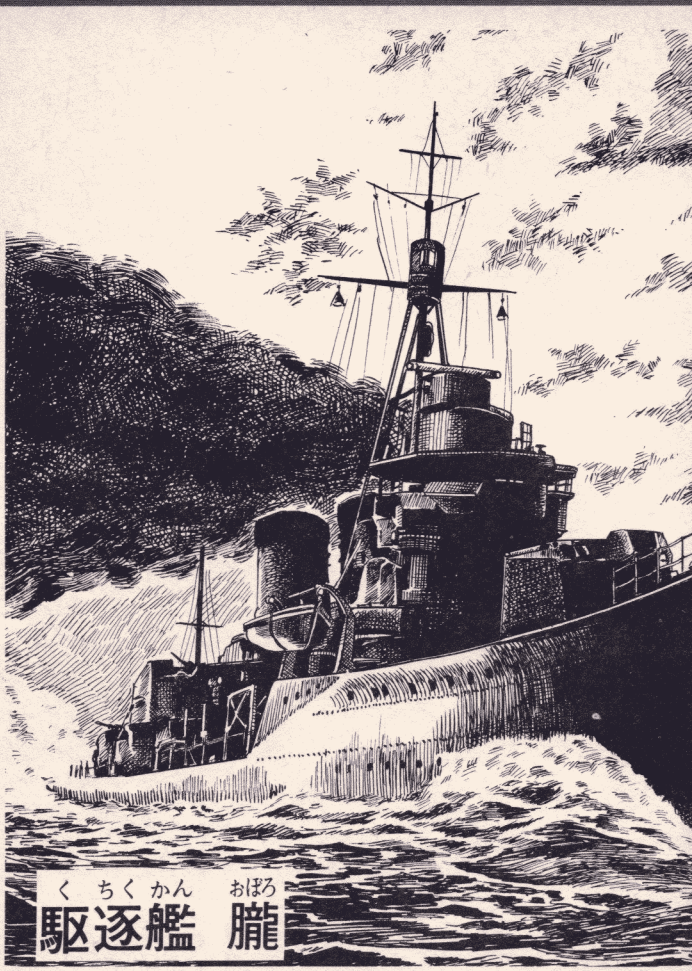
魚雷を持っているので，夜間などには，戦艦とも戦える。

海が荒れると，小型のためスピードがにぶる。嵐のときには出撃できないこともある。



駆逐艦 狭霧（くちくかん さぎり）





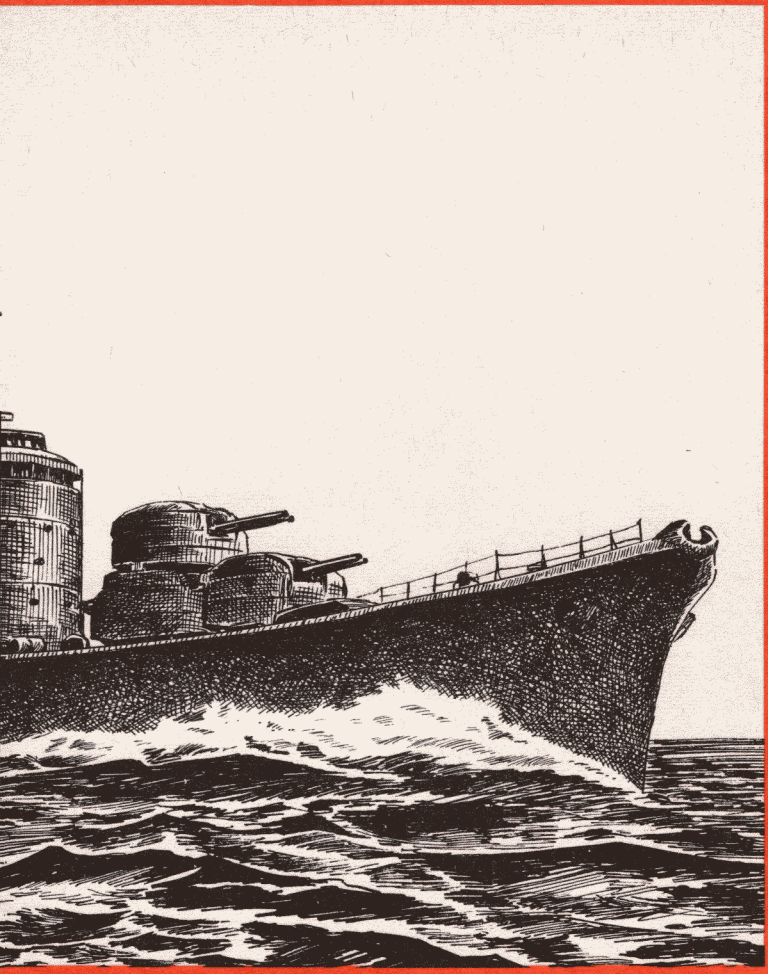
駆逐艦　朧（くちくかん　おぼろ）

吹雪型駆逐艦は、日本海軍が世界にほこる特型駆逐艦のひとつで、すぐれた凌波性と兵装をもっていた。ところが昭和十年秋この艦隊が三陸沖で台風にあい、二隻の艦首部が切断されるという事件がおきた。この事故の教訓をいかしてつくられたのが、のちの陽炎型駆逐艦だ。

基準排水量　1,680トン
全長　115メートル
速力　38ノット
主砲　12.7センチ砲6門
魚雷発射管　9門
艦型名　狭霧・朧とも吹雪型
同型艦に吹雪・白雪・初雪・叢雲・東雲・薄雲・磯波・浦波・綾波・敷波・天霧・夕霧・曙・漣・潮など21隻。

駆逐艦 秋月

対空戦闘を主な任務としてつくられた高速防空駆逐艦



航空戦隊の直衛艦として造られた防空駆逐艦で，全体が亀の甲のような防御板でおおわれ，新式10センチ高角砲8門をそなえていた。しかし南太平洋海戦で猛空襲をたえぬいた同艦も，最後は潜水艦の魚雷にやられている。同型艦としてほかに冬月・春月・夏月・霜月・新月など11隻がある。

基準排水量　2,700トン
全長　132メートル
速力　33ノット

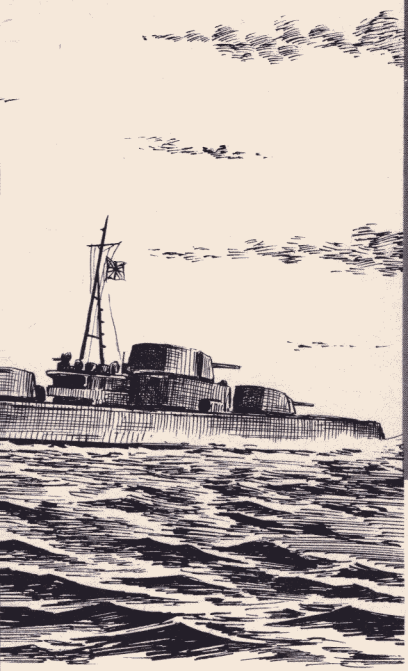
高角砲　10センチ砲8門
魚雷発射管　4門
艦型名　秋月型

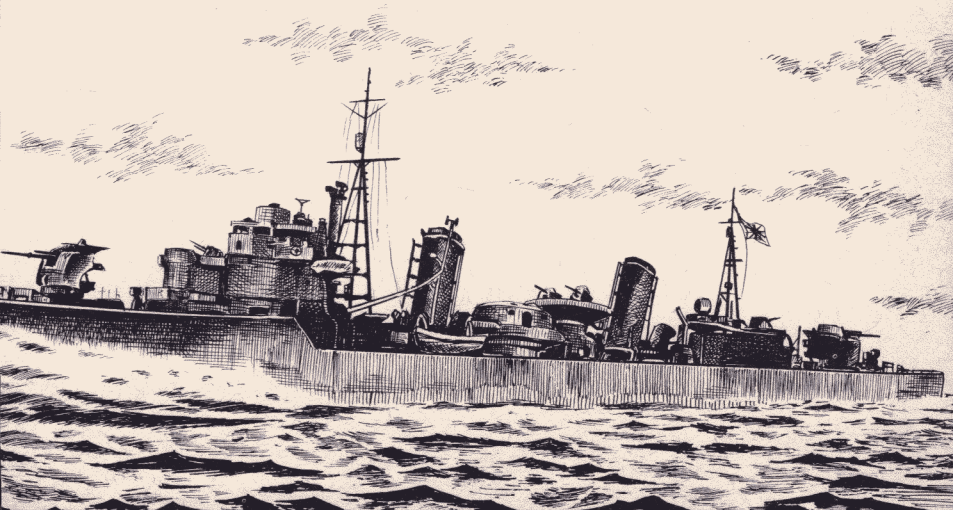
▶巡航中の「秋月」

主砲　12.7センチ砲6門
魚雷発射管　8門

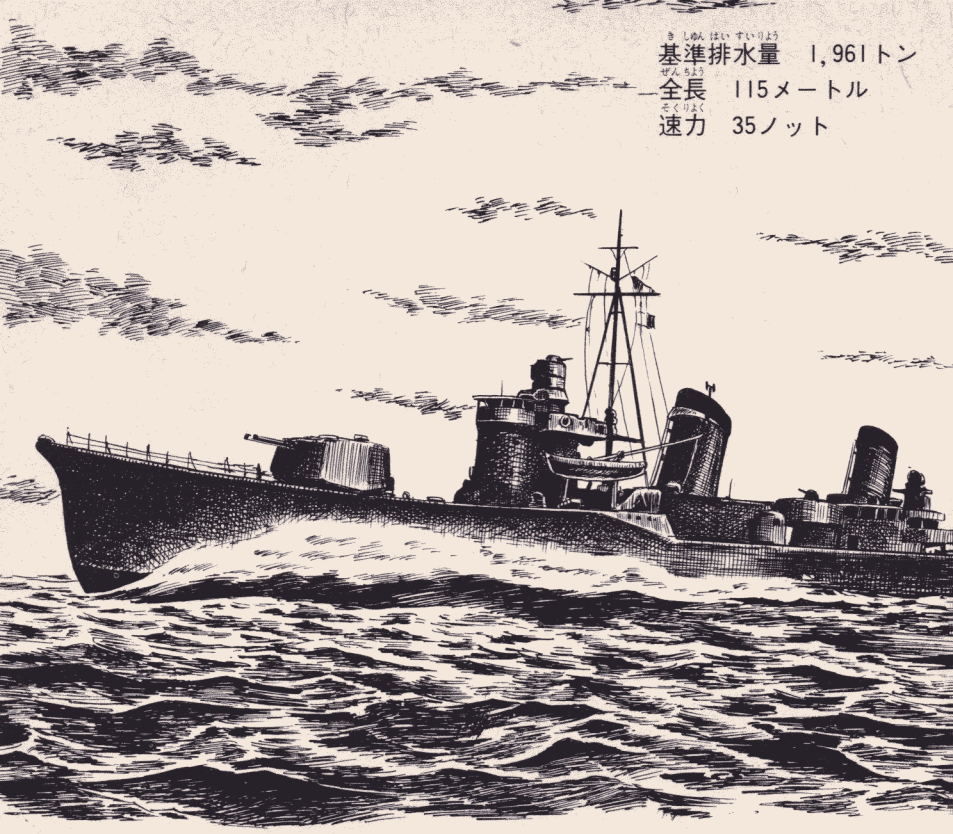
駆逐艦 朝雲

無条約時代に造られた大型駆逐艦。ガダルカナル島輸送作戦で主役をえんじたが、昭和十九年十月のスガリオ海峡海戦で、敵艦の砲撃と魚雷をうけてあえなく沈没。同型艦に、朝潮・大潮・荒潮・満潮・山雲・夏雲・峰雲・霞・霰など九隻がある。





基準排水量　1,961トン
全長　115メートル
速力　35ノット



駆逐艦 桃

駆逐艦の不足をおぎなうために大量生産された松型艦にぞくし，完成してからわずか半年後の昭和19年12月，南シナ海で魚雷をうけて沈没。同型艦に萩・初梅・檜・樺・楓・樫・桐・楠・桑・松・梨など31隻ある。

基準排水量　1,262トン
全長　98メートル
速力　27.8ノット

高角砲　12.7センチ砲3門
魚雷発射管　4門

●駆逐艦について

★日本の代表艦＝陽炎型　★世界初の四十ノット「島風」

駆逐艦は、戦艦や巡洋艦とちがって、さまざまな、あらゆる任務につく軍艦なので、これを一口で説明することはきわめてむずかしい。つまり駆逐艦は、万能多用途の軽艦なのである。

もともと駆逐艦は、高速で軽快を特徴とするものだが、その用途は、対戦雷艇から対戦艦までの各種の艦への攻撃、さらには対潜水艦攻撃にも必要な軍艦である。

そのうえ、航続力の増大にともない、巡洋艦的用途もあり、対空護衛艦としても、有能である。さらにまた、強行輸送、艦隠密輸送、隊直衛、輸送船団の護衛、機雷の敷設、機雷の掃海、陸上砲撃など、駆逐艦は海軍が行なうほとんどすべての行動にたずさわる、いそがしい艦である。

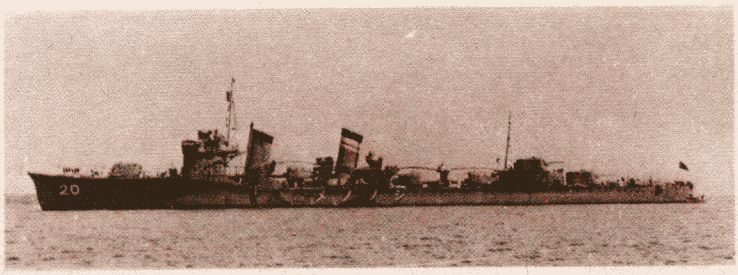
アメリカ海軍では、駆逐艦のことを、ティン・カンというニックネームでよんでいる。訳すと〝ブリキかん〟である。期せずして日本海軍でも駆逐艦のことを〝ブリキ艦〟とよんでいた。

なにしろ駆逐艦の外装板がペラペラに薄いのである。艦底部が十六ミリ程度、舷側は七ミリ程度の厚さだから、飛行機で機銃掃射すると機銃弾がプスプス貫通するほどである。

日本の海軍が、終戦時まで建造保有した駆逐艦の数は、総計二九六隻に達している。

その中で、優秀高性能の駆逐艦が数多くつくられているが、特に吹雪型は、その攻撃力の強さ、航続距離の大きさ、速力の早さにおいてすばらしいものであった。

排水量は、一六八〇トン、五万馬力で速力は三十八ノット、主砲十二・七センチ二連装三基六門、魚雷発射管六十一センチ三連装三基九門という教



◀「東雲」

字は、これまでの駆逐艦をすべて無力化するほどのできばえであった。

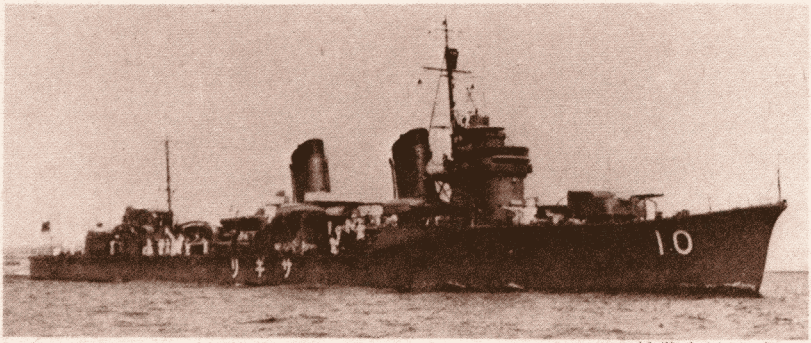
この吹雪型は、いままでの駆逐艦を圧倒するものとして、特型駆逐艦とよばれ、二十四隻が建造された。

ところが、強力な兵器をもち、強大な機関をもち、しかも小型にするといった無理な要求がたたって、吹雪型の艦体に意外な弱点があることがわかった。つまり艦体の強度が弱く、猛台風にあうと艦首部が折れてしまうのである。

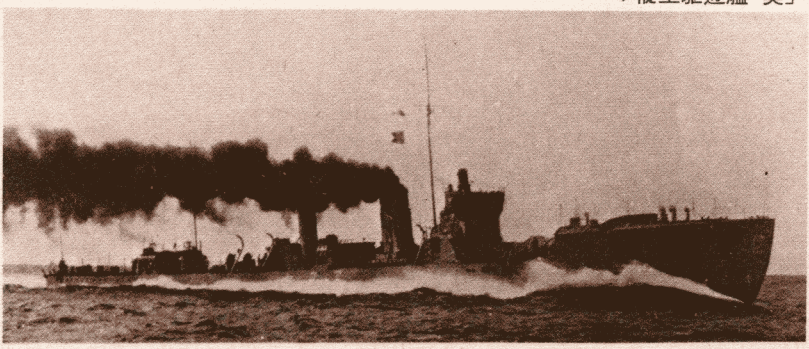
そこで船体強度の再検討がなされ、多くの実験研究を行なった後、ついに日本駆逐艦の代表作ともいうべき陽炎型十八隻と、それにわずかな改良を加えた夕雲型二十隻が出現した。

排水量二五〇〇ﾄﾝ、五万二〇〇〇馬力、速力三十五ﾉｯﾄ、十二・七ｾﾝﾁ二連装砲三基、六十一ｾﾝﾁ四連装発射管二基、航続力は、十八ﾉｯﾄで五〇〇〇ｶｲﾘという、本格的な艦隊決戦用の駆

▼吹雪型駆逐艦「狭霧」



▼樅型駆逐艦「葵」



逐艦である。

しかし太平洋戦争がはじまるころ、各国の新造船艦の速力が飛躍的に高くなってきたので、これを攻撃するための高速な駆逐艦が必要となり、そこで建造されたのが「島風」であった。

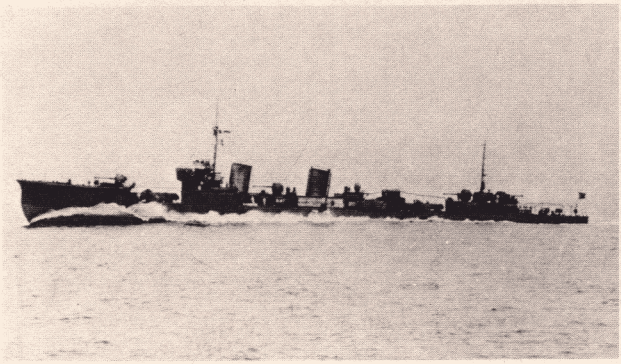
このタイプの艦は一隻しかつくらなかったが、速力は公試ではじめての四十ノットをこえる駆逐艦であった。しかも六十一センチ五連装発射管三基十五門という強雷装も面期的なものであった。

一方、日米戦争に対して、空母による機動部隊を考えていた日本海軍は、空母の対空直衛艦が必要であるとして、長砲身の十センチ高角砲を開発、対空射撃を主な任務とする高速艦を建造した。

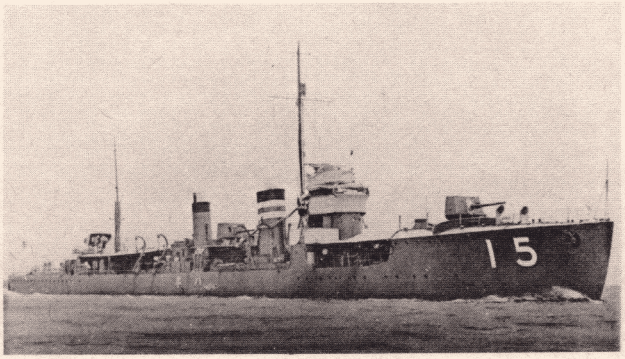
これが三四七〇トン(公試)の秋月型で、高角砲二連装四基八門と、四連装発射管一基を備え、速力は三十三ノット、航続力八〇〇〇カイリという足の長い駆逐艦十三隻を建造した。

このように、わが国の駆逐艦はつねに世界の海軍をリードする、高性能の優秀艦だったのである。

(解説・佐藤和正)



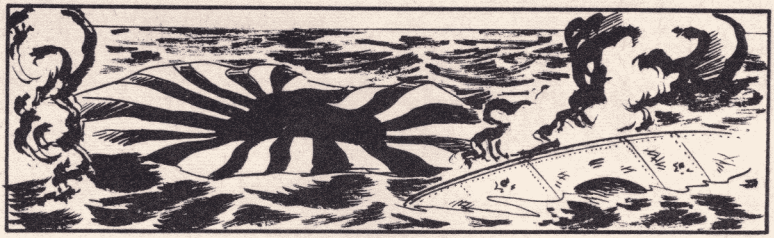
▶「長月」



▶「萩」

激闘水雷戦隊
―ルンガ沖夜戦―

★俊鋭駆逐艦「陽炎」を先頭にしたガ島補給隊は、会敵するや殴りこみに転身、必殺の魚雷を放つ！



一行知識

ヘッジホッグ＝二十四発がいっせいに輪になって飛ぶロケット式の爆雷だ。

そこで日本軍は
より強力な輸送部隊
つまり武装した艦隊による
補給を考えた

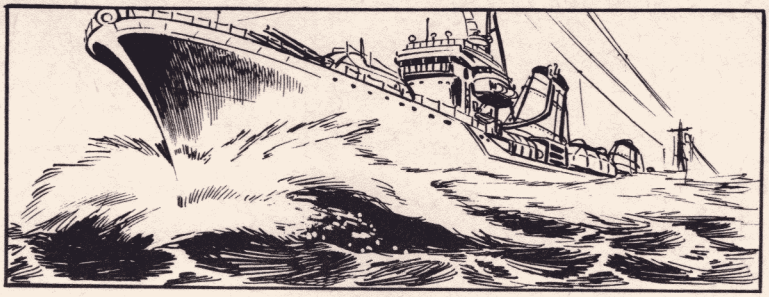
これに選ばれた
のが潜水艦や
駆逐艦である

ナコー
ナコー
ナコー
ナコー

暗夜
ひそかに
岸に接近し
……

魚雷発射管や
ドラム缶を
利用して
とどける

人はこれを
「東京急行」と
よんだ



一行知識

斉射＝いっせい射撃のこと。爆風と震動のため古い艦ではこれがむずかしいものもあった。

一行知識

弾幕＝多数の大砲が同じ距離をめあてに連続して射撃するさま、対空弾幕、防御弾幕など。

一行知識

えい光弾＝火をふいて飛ぶ弾丸のこと。夜戦などで、弾の道をたしかめるのに使われる。

一行知識

徹甲弾＝艦船攻撃用の貫徹力の大きな弾丸。海戦で使われるのはほとんどこの弾丸だ。

一行知識

被弾＝砲弾をうけること。

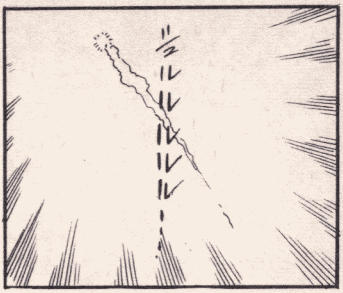
被爆＝爆弾をうけること。

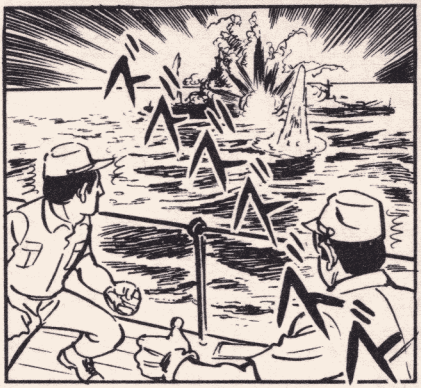
一行知識

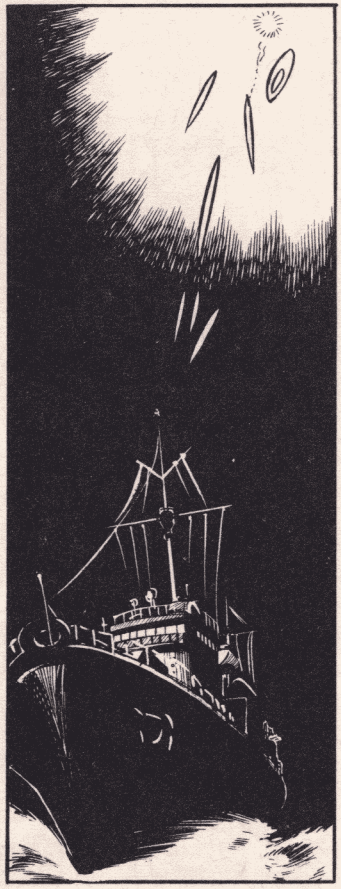
被雷＝魚雷をうけること。接雷＝機雷に接触すること。触雷ともいう。

一行知識

轟沈＝艦が砲爆弾や魚雷をうけて一瞬のうちに沈没してしまうこと。







一行知識

爆沈＝轟沈ほどの早さではないが、艦が攻撃（事故もふくむ）をうけて沈没すること。

一行知識

信号＝艦どうしがやりとりする合図には、手旗・発光・旗流信号などが使われる。

早く射たせて下さい

まだまだ……

ルンガ沖夜戦
23時50分

サボ島

ホノルル

ペンサコラ

ノーザンプトン

ニューオリンズ

ミネアポリス

陽炎

巻波

長波

江風

涼風

黒潮

親潮

高波

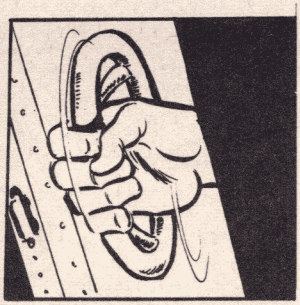
ガダルカナル島

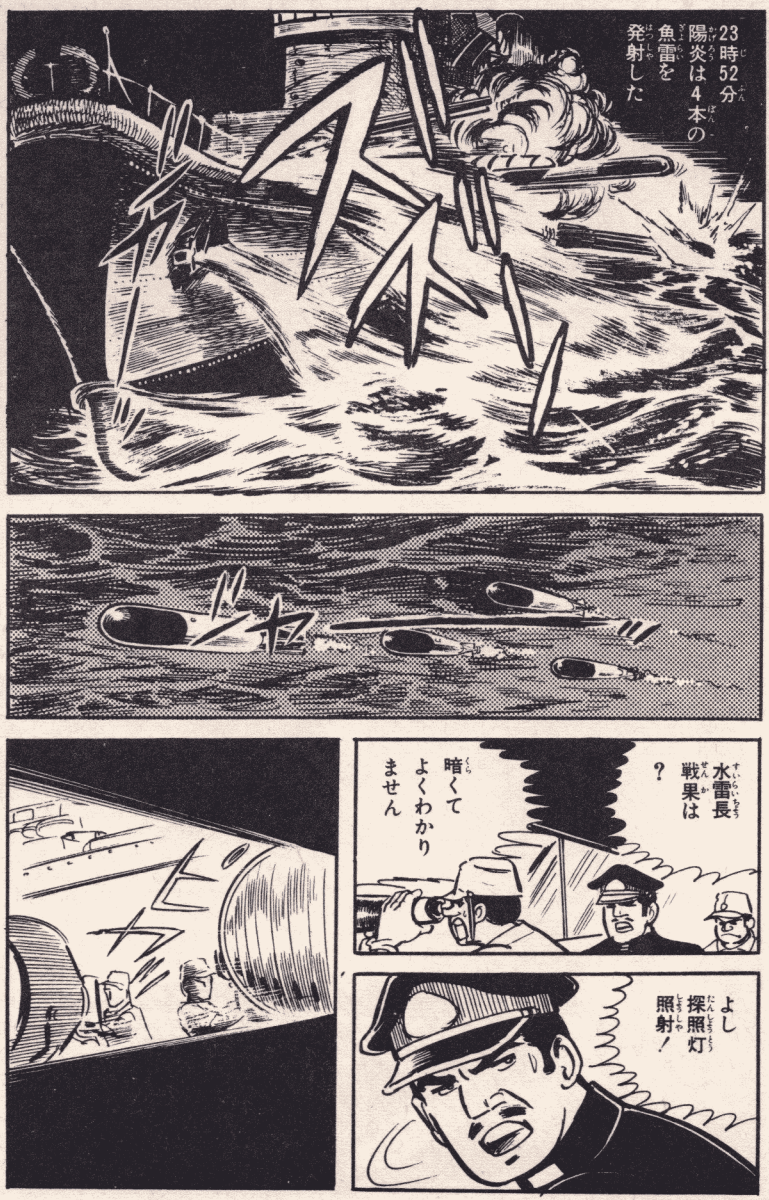
一行知識

暗号＝敵にさとられないため隠語や乱数で変装した符号。軍事の電報はほとんどこれだ。

一行知識

ニイタカヤマノボレ＝日本軍の暗号で、昭和十六年十二月八日の太平洋戦争開戦の合図だ。





一行知識

トラトラトラ＝真珠湾攻撃隊の淵田中佐が発した〝われ奇襲に成功せり〟の暗号電報。

ルンガ沖夜戦は
わずか30分にして
日本の大勝利に終った
が同時にこの戦いが
太平洋戦争の
日本海軍最後の
勝ち戦となった

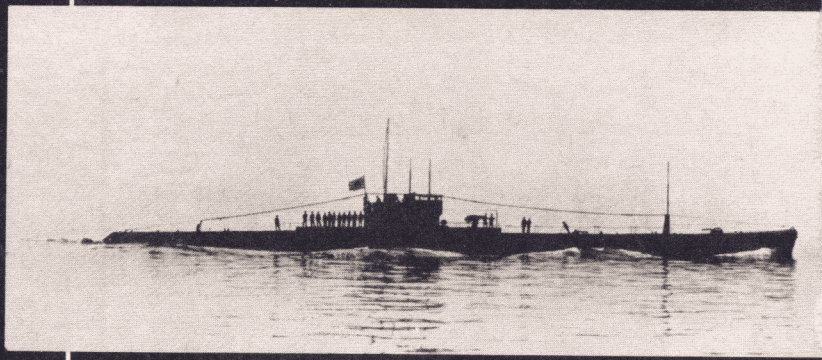
おーっ
大物だ
ぞ！

日本	アメリカ
高波……沈没	ノーザンプトン……沈没
	ミネアポリス
	ニューオリンズ
	ペンサコラ……大破

ガダルカナル島
への補給は
その後もうまく
ゆかず
昭和18年2月
日本軍は——

戦死者
—8千200人—
餓死病死者
—1万1千人—を
残して同島から
撤退した——

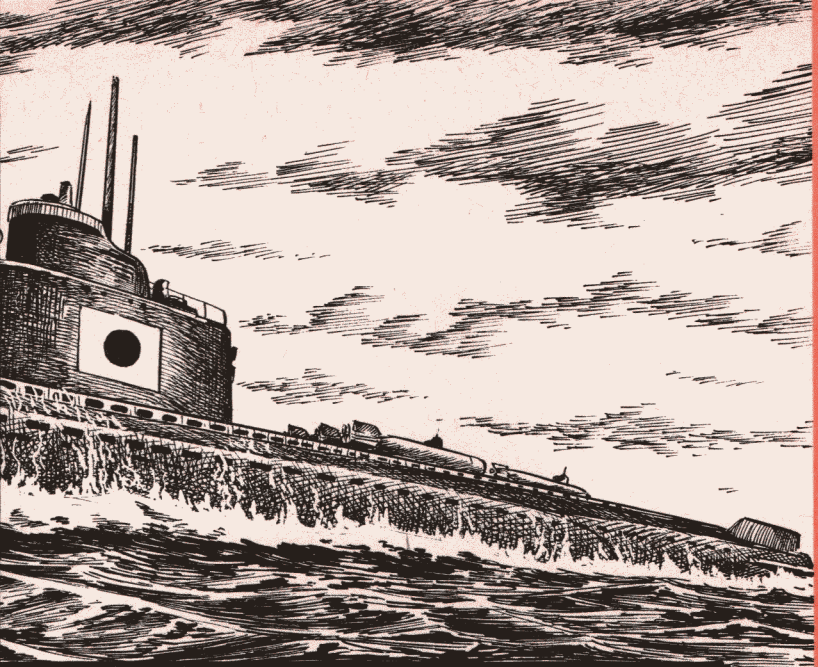
潜水艦（せんすいかん）



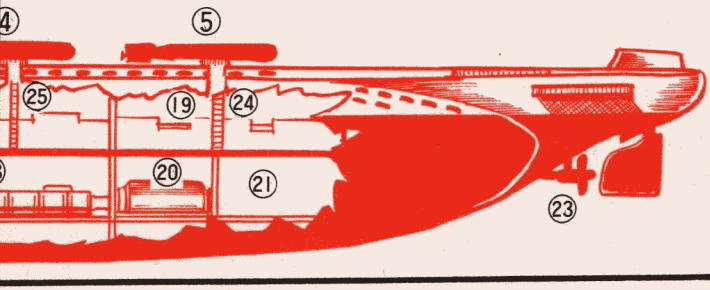
"海の忍者"潜水艦は，海上偵察，物資の輸送，敵地潜入攻撃，通商破壊などの任務につく。日本の潜水艦は1等潜水艦（1000トン以上）と2等潜水艦(500～1000トン）にわかれ，それぞれイ号，ロ号とよんだ。

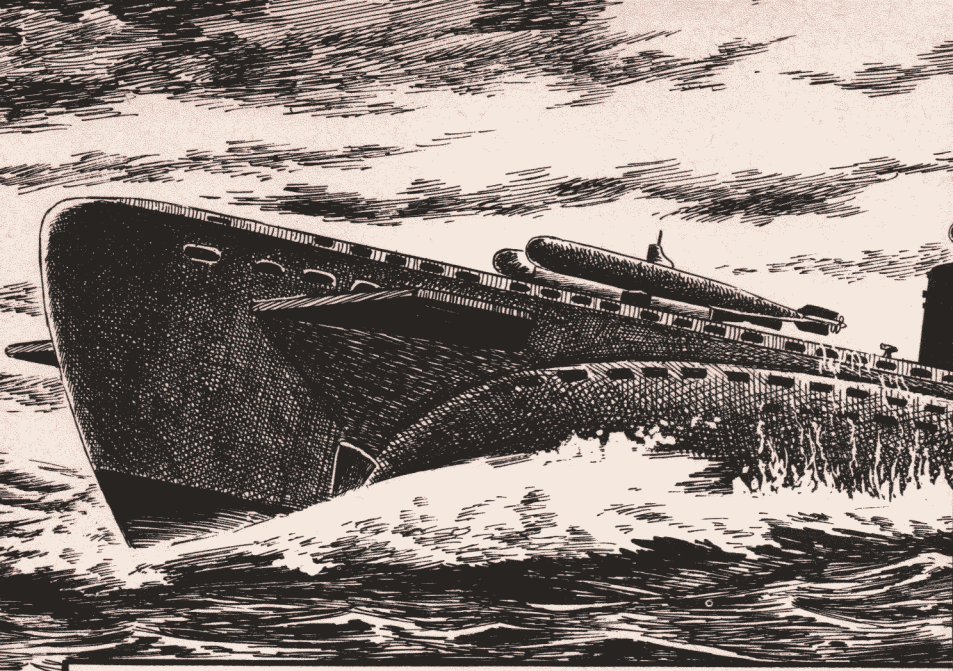
イ号潜水艦

基準排水量一、〇〇〇トン以上の艦



員室　⑰機械室　㉓スクリュー
池室　⑱ディーゼル・機関
池室　⑲後部兵員室　㉔
射管　⑳モーター　㉕回天塔乗出入口
の他　㉑倉庫　㉖
池室　㉒重油





①潜望鏡
②シュノーケル
③回転Ⅰ型（2，3，4号艇）
⑤回転Ⅰ型（1号艇）
⑥潜舵
⑦司令塔
⑧電探
⑨艦長室
⑩士官室
⑪補器室
⑫前部兵
⑬第Ⅰ電
⑭第2電
⑮魚雷発
⑯電信そ
⑭第2電

●きびしい潜水艦の戦い

乗組員のあいだで〝ドン亀〟と愛称された潜水艦は、空の落下傘、陸のレンジャーとならんで軍隊の人気者であったが、その実、あまりぞっとしない勤務の連続であったといえる。

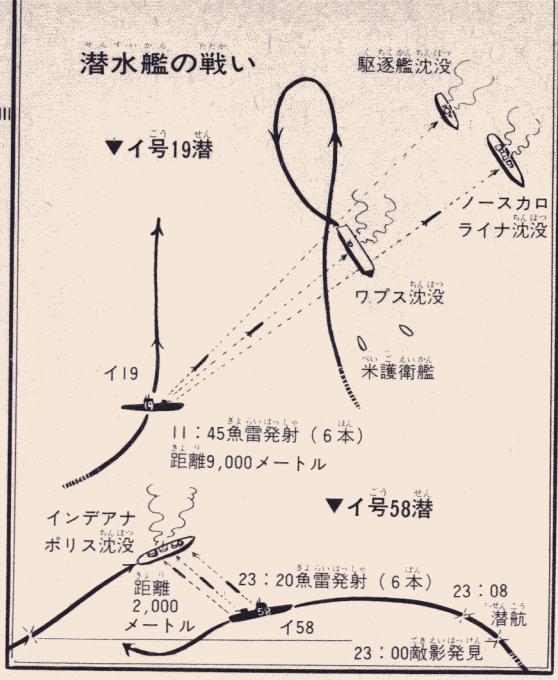
ふつう潜水艦は、夜間は浮上航行して、敵に発見される危険の多い昼間は潜航して行動する。問題は潜航下の時で、空気（酸素）の吸入排出ができないから、エンジンが使えない。それでバッテリーでスクリューをまわして航行するわけだが、このときバッテリーの放電から亜硫酸ガスが発生する。艦内の空気はにごり、なれないうちはぶったおれることもある。

とくに駆逐艦に追われたときは悲劇で、冷却機はまわせず（よけいな音をだすと、駆逐艦の聴音機が働いて、位置を察知されてしまう）艦内の温度はあがりっぱなし、フンドシいっちょうでも苦しいくらいだ。

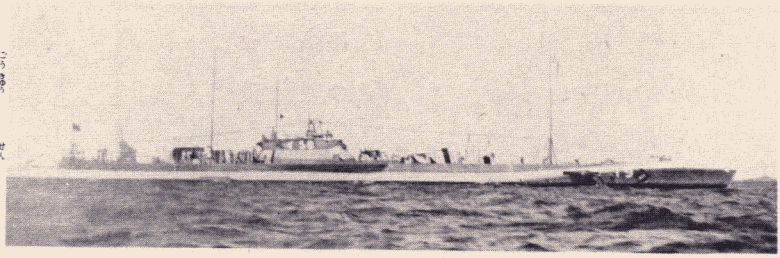
そのうえ爆雷など投げられては、生きたこちはしない。まさに〝鉄の棺桶〟である。

また潜水艦の操縦はたいへんむずかしく、これに失敗すると艦の傾斜のつりあいがとれなくなって、海底に突進してしまう。「イ号潜」で百メートルが限界潜水深度だが、実戦中はこれより深くもぐらねばならなかったことも、しばしばあった。なかには水圧につぶされてしまった艦もあったにちがいない。

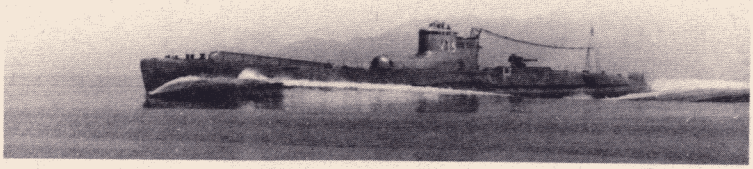
潜水艦の勤務は、これほどきびしいものであった。



▶イ号一九潜は、昭和十七年九月十五日、ガダルカナル沖で、アメリカ空母ワプス、戦艦ノースカロライナ、駆逐艦一隻の計三隻を、六本の魚雷で攻撃、一挙に撃沈させた。イ号五八潜は昭和二十年七月三十日アメリカ重巡インデアナポリスを雷撃、撃沈させた。



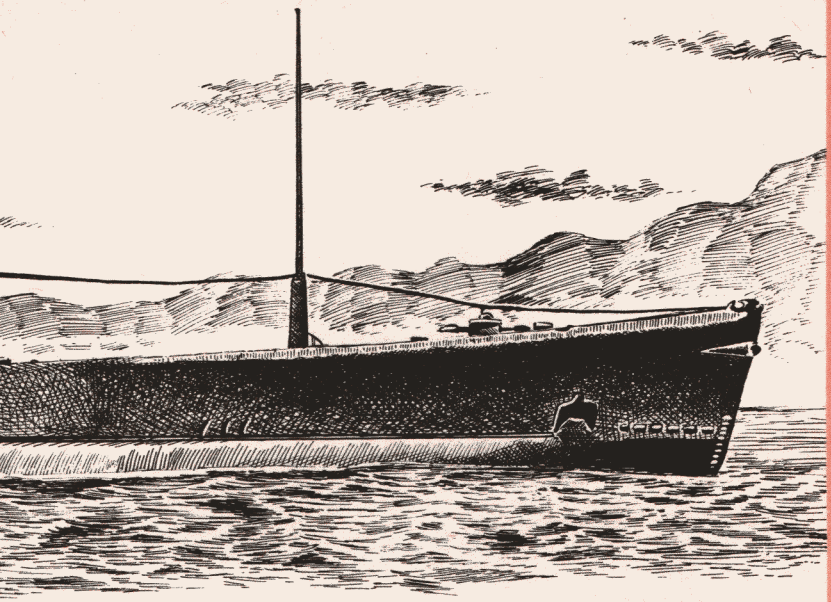
▶イ号旧五八潜

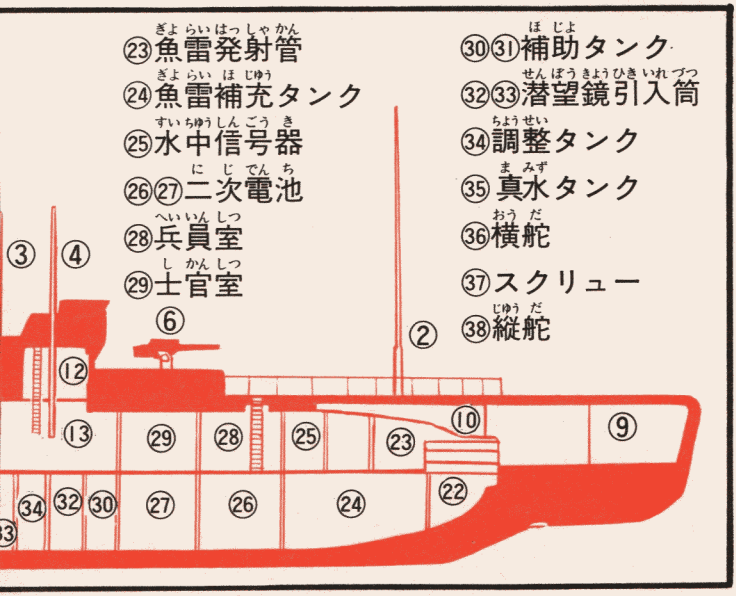


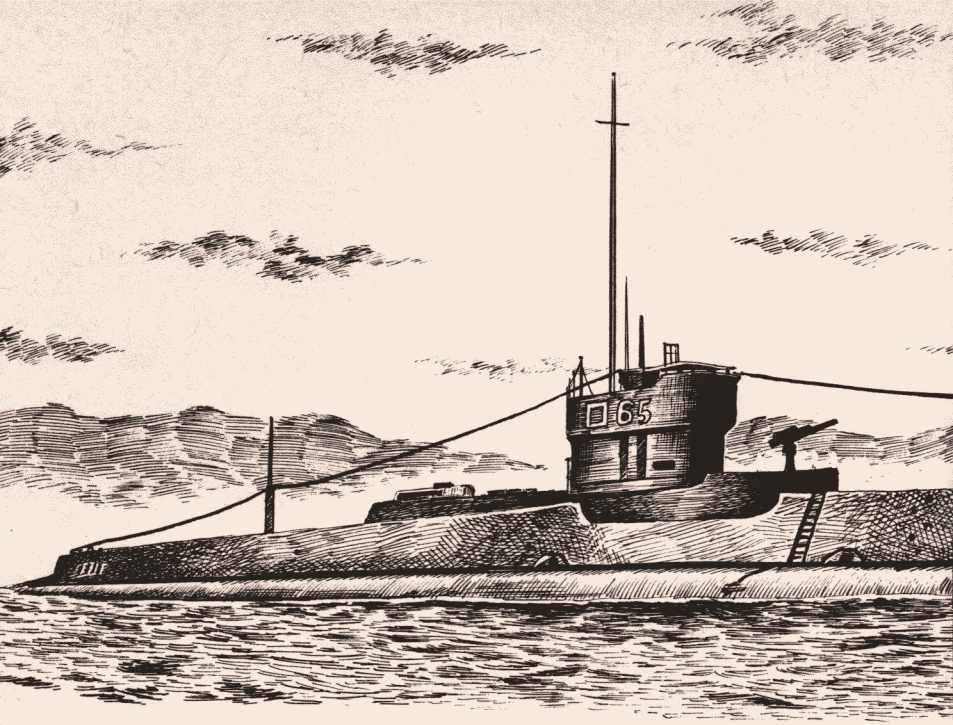
◀イ号一九潜の同型艦

口号潜水艦

基準排水量五〇〇トン～一、〇〇〇トンの潜水艦







①②無線マスト
③④潜望鏡
⑤通風筒
⑥砲
⑦消音器
⑧碇泊燈
⑨
⑩ } メインタンク
⑪
⑫司令塔
⑬発令塔
⑭機械室
⑮配電盤
⑯ディーゼル・機関
⑰モーター
⑱重油タンク
⑲⑳気蓄室
㉑㉒釣合タンク

●世界初の潜水空母「イ四〇〇型潜」

空母は近代海空戦の花形である。しかしこの空母も、広い大洋を飛行機をつんで航行するには、つねに危険がともなう。いつ敵の艦隊、飛行機に攻撃されるかしれない。また攻撃されないまでも見つかってしまえば、行動はすぐ敵に察知されてしまう。

そこでもし、敵に見つからないでこっそりと飛行機を運び、目的地についたら浮上して飛行機をとばす『海底空母』のようなものができたら、どんなにすばらしいだろうという空想がわく。

これを実現させたのが、日本海軍最後の傑作、潜水空母「イ号四〇〇型潜」である。昭和17年5月に設計案ができ、18年1月から着工、19年12月に「イ四〇〇潜」、20年1月に「イ四〇一潜」、7月に「イ四〇二潜」と三隻を完成した。搭載機は「晴嵐」といって、特別に設計されたおりたたみ機で、これも二十八機が完成していた。

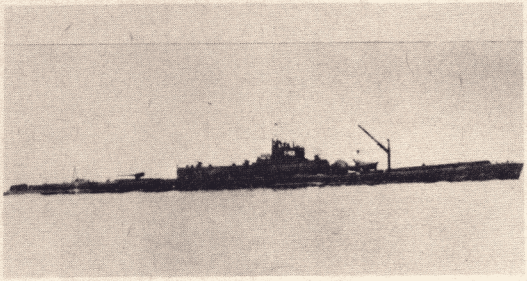
艦はすぐ呉港にまわされ、第一潜水戦隊として有泉竜之介大佐司令のもとに、猛訓練が開始された。

最初にあたえられた任務は、パナマ運河の爆撃。とうじヨーロッパでは、すでにドイツの降伏が時間の問題となっており、そうなれば大西洋に作戦中の米英連合軍艦隊は、パナマ運河を通って一挙に太平洋にむかってくるだろう。パナマ運河を破壊しておけば、敵は南米のホーン岬をまわらねばならず、集結の時を三か月は遅らせることができると考えた

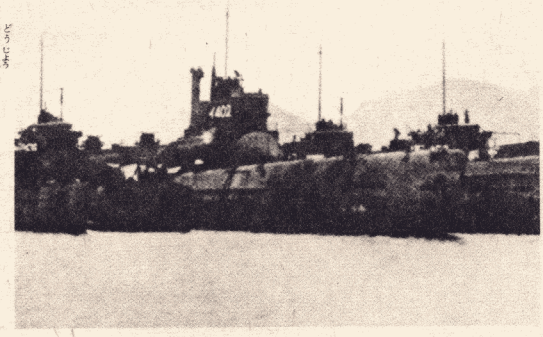
のだ。しかしこの雄大な計画も、実行前に終戦となってしまい、有泉大佐は自決、三年半にわたる潜水空母の夢は消えさった。

戦後「イ四〇〇型潜」を持ち帰ったアメリカは、その優秀性に驚き「もし終戦があと半年遅れていたら、アメリカ本土は重大な危機にさらされていただろう」と、ふるえあがったという。

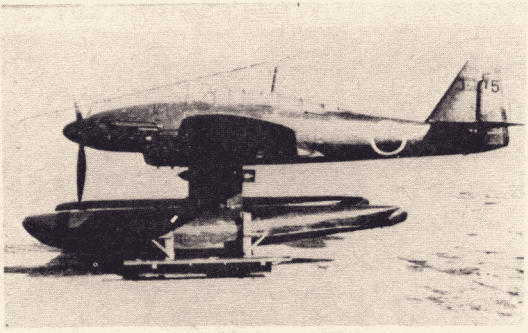
現在のポラリス潜水艦は、この「イ四〇〇型潜」をモデルにしたともいわれる。



▶イ四〇〇型潜



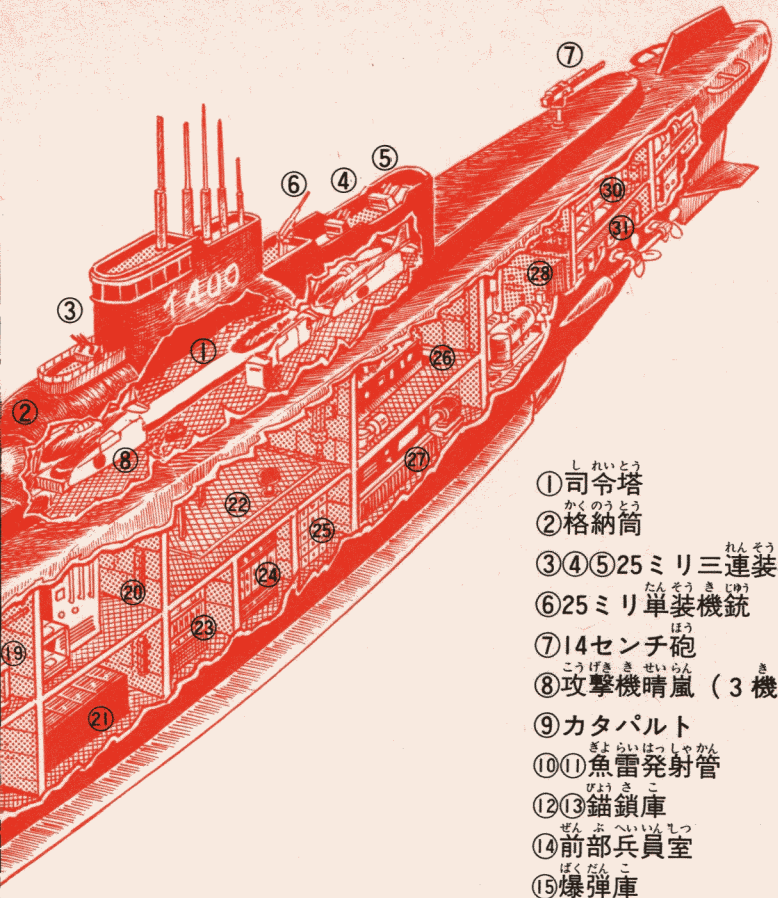
▶同上



▶イ四〇〇潜搭載機「晴嵐」

イ号四〇〇型潜水艦

潜水空母ともいうべき日本独特のマンモス潜



①司令塔
②格納筒
③④⑤25ミリ三連装機銃
⑥25ミリ単装機銃
⑦14センチ砲
⑧攻撃機晴嵐（3機）
⑨カタパルト
⑩⑪魚雷発射管
⑫⑬錨鎖庫
⑭前部兵員室
⑮爆弾庫

戦争中日本海軍は潜水空母ともいうべきマンモス潜水艦を3隻造りあげた。そしてこれでパナマ運河、アメリカ本土攻撃を計画したが、ときすでに遅く計画をはたせないまま終戦となった

基準排水量	3,530トン	14センチ砲	1門
潜水時排水量	6,560トン	25ミリ機銃	10丁
全長	122メートル	魚雷発射管	8門
最大幅	12メートル	飛行機	3機
水中速力	6,5ノット	行動期間	約4か月
潜航深度	100メートル	航続距離	53,000キロ

イ号400潜正面図

格納筒

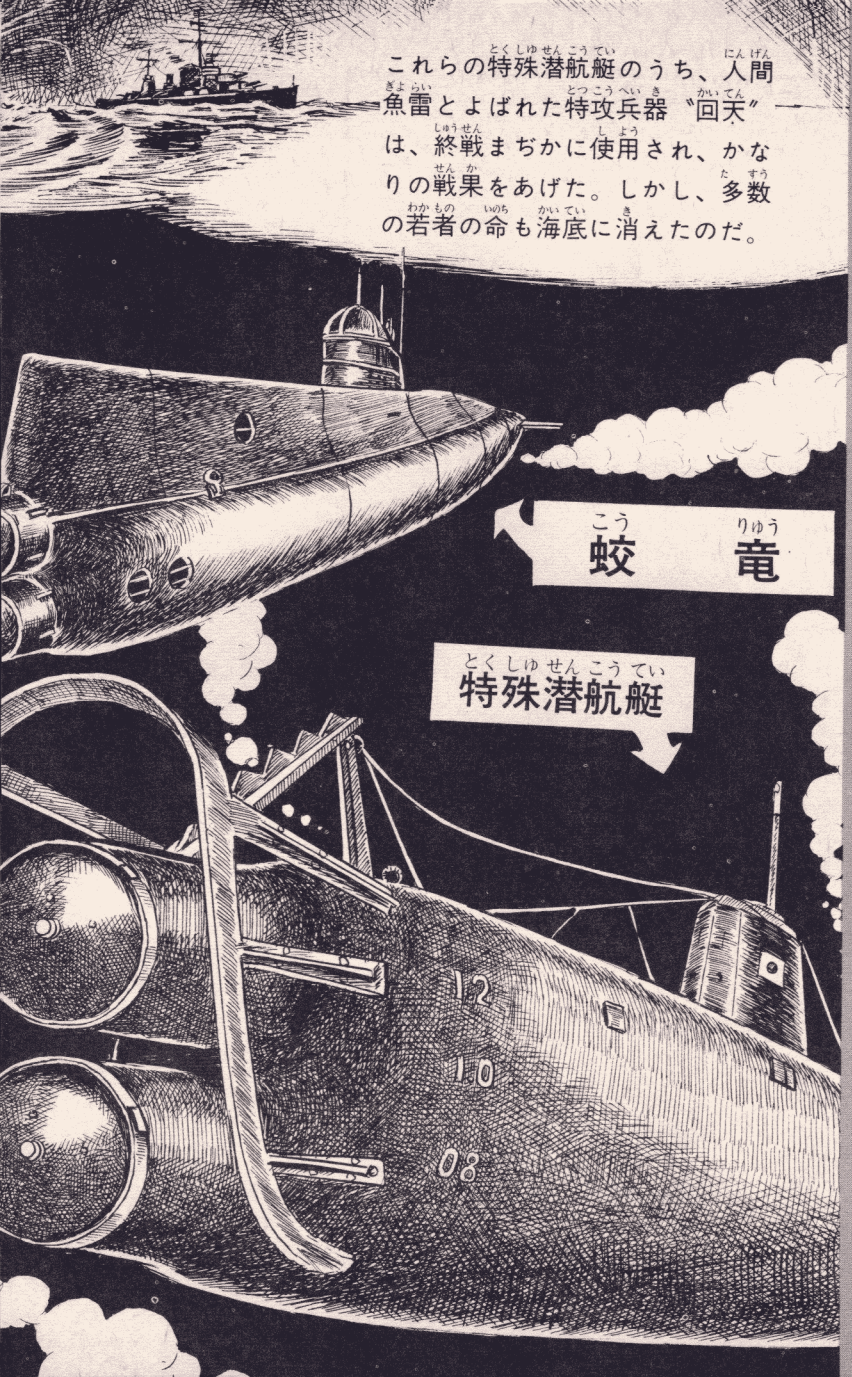
⑯重油タンク室
⑰蓄電池室
⑱兵員室
⑲前部士官室
⑳士官室
㉑蓄電池室
㉒発令所
㉓補機室

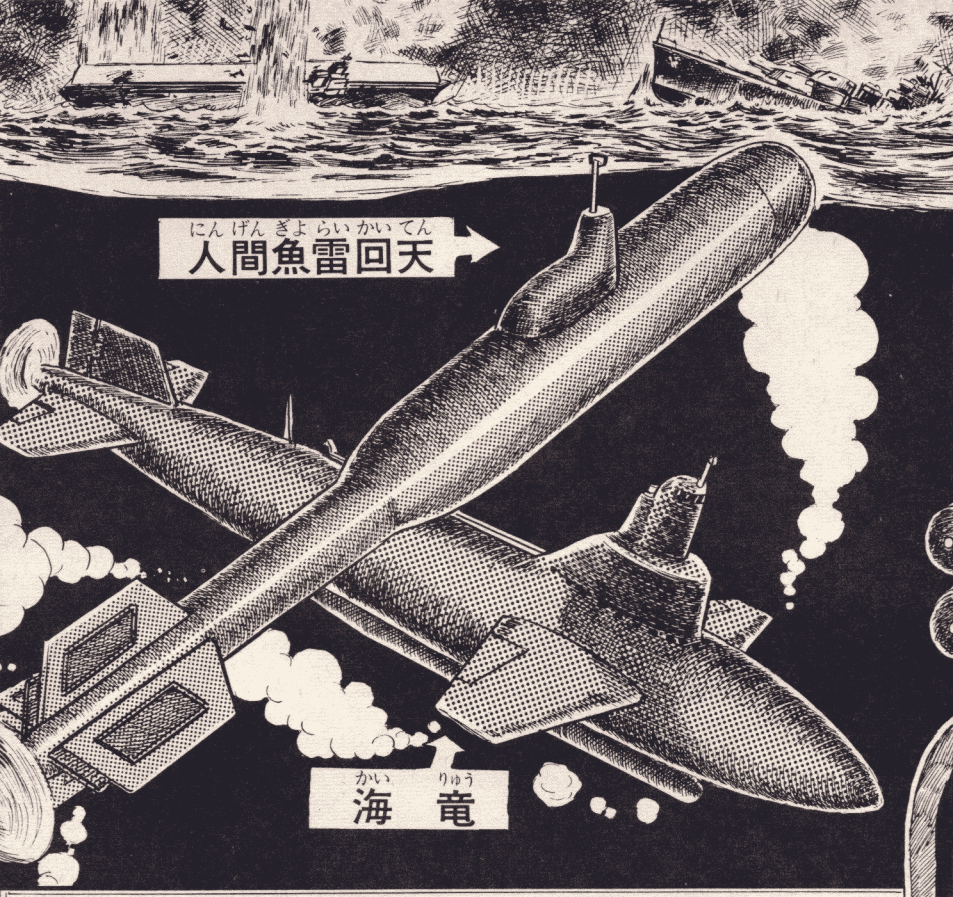
㉔重油タンク室
㉕弾薬庫
㉖㉗機械室
㉘主動機室
㉙後部兵員室
㉚重油タンク室
㉛スクリュー

特殊潜航艇

一発必中のねらいをひめた小型潜水艇艦

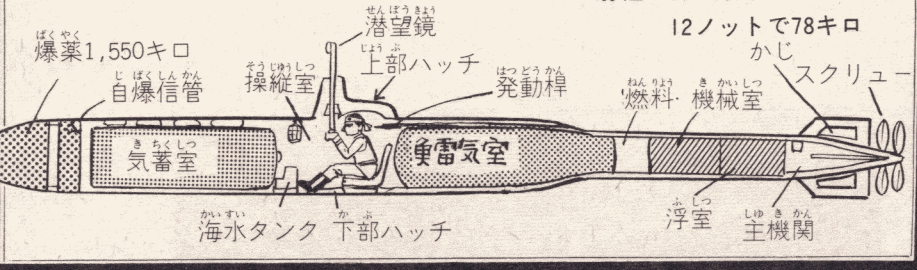
これらの特殊潜航艇のうち、人間魚雷とよばれた特攻兵器〝回天〟は、終戦まぢかに使用され、かなりの戦果をあげた。しかし、多数の若者の命も海底に消えたのだ。





回天のしくみ

全没排水量　8,3トン
全長　14,75メートル
直径　1,0メートル
最大速力　30ノット
射程　30ノットで30キロ
　　12ノットで78キロ



●潜水艦について

★世界水準をぬく二千トン級潜 ★驚異！独特の潜水空母

日本が第二次大戦中に保有していた潜水艦の全隻数は一九〇隻であった。

これらの潜水艦の種類は複雑で、用途や建造条件によってさまざまなタイプのものがつくり出された。

しかし大きく分けて、日本の潜水艦は三種類に分類することができる。

基準排水量が一〇〇〇トン以上の潜水艦はイ号と称し、六〇〇トンから一〇〇〇トンまでのものはロ号、五〇〇トン以下の小型潜水艦はハ号とよばれていた。

潜水艦という軍艦は、軍艦の中でもぶきみな存在である。海中に姿を没して、見えないところから突如として魚雷を放ち、一瞬のうちに相手艦を撃沈する驚異の艦である。

だが潜水艦の海中でのスピードが遅い。もし駆逐艦に潜航しているところを発見された

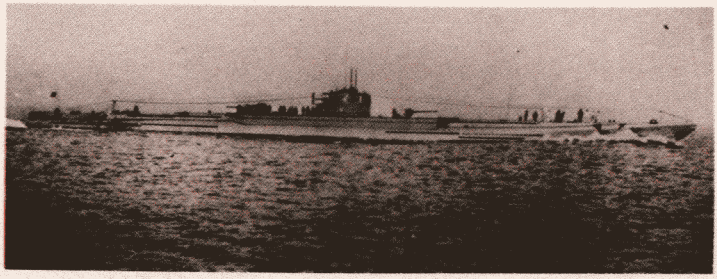
ら万事休すである。頭上から爆雷の雨を降らされ、生死の境をさまよいながらよろよろと海中を逃げまわるだけである。

したがって潜水艦は、敵艦隊を攻撃するよりも、反撃をくう心配のあまりない通商破壊戦の任務につくのがふつうであった。つまり海上補給戦の商船攻撃である。

あるいは敵艦隊の動行を偵察する索敵、哨戒の任務などがもっとも適していた。

ロ号、ハ号の小型潜水艦は、航続力が小さいことから、もっぱら沿岸警備用に用いられていた。

この中ではロ号の海中型（海軍中型）が優れており、とくにロ三五潜型の十八隻が、性能、実用性ともにきわめて優秀であった。基準排水量九七〇トン、水上速力二十ノット、水中速力は八ノットであるが、水上水中、ともにすばら



◀イ号一潜

しい運動性を示した。日本海軍が建造した潜水艦のうちで、最優秀であるとのよび声が出たほどであった。艦首に四射線の発射管をもち、五十三センチ魚雷十本を搭載していた。

日本の潜水艦について、さらに特筆すべきことは、大型潜水艦の優秀性である。

ことに基準排水量二〇〇〇トン以上の大型潜の建造になると、日本が断然他国を圧して数多くの優秀艦をつくったのである。

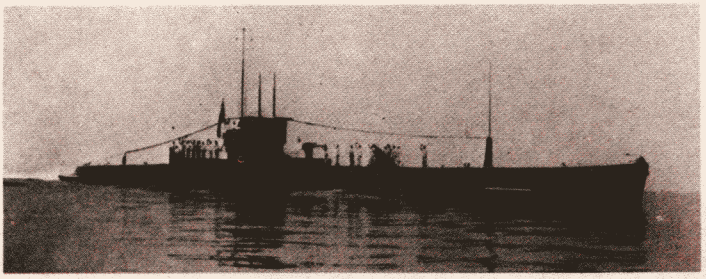
もともと大型潜の原型は、第一次大戦終末期にドイツが建造した巡洋潜水艦である。これは一九三〇トンもあり、当時としては世界に類を見ない驚異的な潜水艦であった。

第一次大戦後、アメリカはこれを戦利艦として本国へ持ってゆき、研究のうえ独自の設計による巡潜をつくった。

日本はドイツから設計図を買いとり、主任設計者を招いて建造、巡潜一型としてはじめて大型潜を持ったのである。この艦はイ号第一潜水艦とよばれ、一九七〇トン、全長九七・五メートル、水上速力十八ノット、水中速力八ノット、十四

▼主な潜水艦の性能

	常備排水量	水上速力	水中速力	安全潜航深度
イ号特潜	5,523トン	18.7ノット	6.5ノット	100メートル
イ号甲型	2,919トン	23.5ノット	8.0ノット	100メートル
イ号乙型	2,584トン	23.6ノット	8.0ノット	100メートル
イ号丙型	2,554トン	23.6ノット	8.0ノット	100メートル
イ号海大7型	1,833トン	23.1ノット	8.0ノット	80メートル
イ号海中6型	1,447トン	19.0ノット	8.2ノット	80メートル
ロ号小型	782トン	14.2ノット	8.0ノット	80メートル



◀ロ号六五潜

チン砲二門、五十三センチ魚雷発射管六門（首四、尾二）、安全潜航深度八十メートルというものであった。

このタイプの潜水艦は、後に海大型へと発達し、海大一型～六型、さらに巡潜二型、三型など、イ号の代表艦となり、また世界でもトップクラスを誇る二〇〇〇トン級の、甲型、乙型、丙型へと発展した。

これら大型潜は、もはや通商破壊戦でもはのたりなく、艦隊決戦時に、主力艦にしたがって、敵主力を海中から攻撃する潜水艦として計画されていったのである。

さらに日本海軍はアイデアに富んだ世界最大の潜水艦をつくった。「伊号四〇〇潜」が、それである。

全長一二二メートル、基準排水量三五三〇トン、主翼と尾翼を折りたたんだ特殊攻撃機「晴嵐」三機搭載という海底空母である。装備は十四センチ砲一門、二十五ミリ連装機銃一基、同三連装三基、発射管は艦着に八射線、五十三センチ魚雷二十本搭載という強力な潜水艦であった。

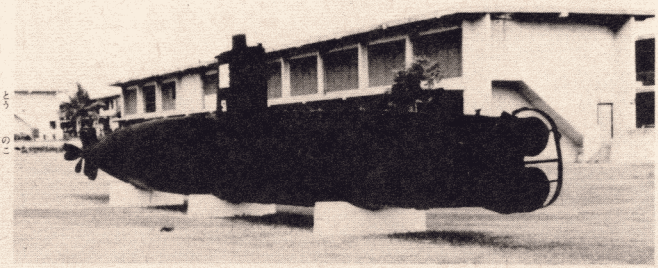
飛行機を搭載した潜水艦は、このほかに巡潜二・三型、甲・乙型があるが、これは世界で日本だけが実現しえたものであった。

（解説・佐藤和正）

▼第2次大戦の各国潜水艦数

	保有	喪失	残存
日本	190	131	59
ドイツ	1,158	※ 994	164
イタリア	138	※ 114	24
アメリカ	317	52	265
イギリス	242	72	170
フランス	86	58	28
オランダ	31	12	19
ソ連	182	7	175

※このうちドイツ217隻、イタリア17隻は、降伏後自沈したもの。

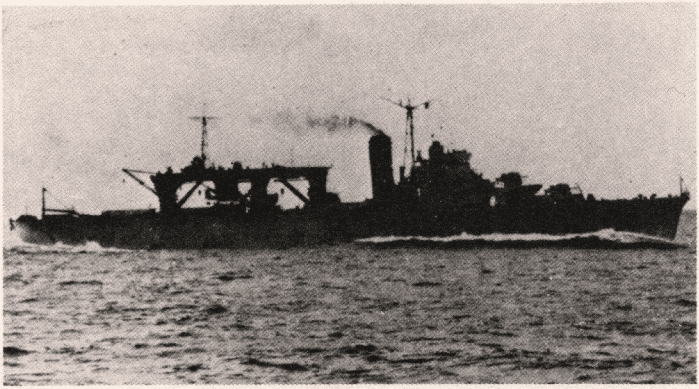


▶グァム島に残る特殊潜航艇。

その他の艦艇

戦艦や空母の華々しい活躍を支えた知られざる艦艇群

「軍艦」とは「軍務につく海軍所属のいっさいの艦艇」をさす言葉で，戦艦，空母，巡洋艦，駆逐艦等のほかにもさまざまの種類があった。これらは必死の奮闘にかかわらず，終戦までにほとんどが沈没・炎上してしまった。

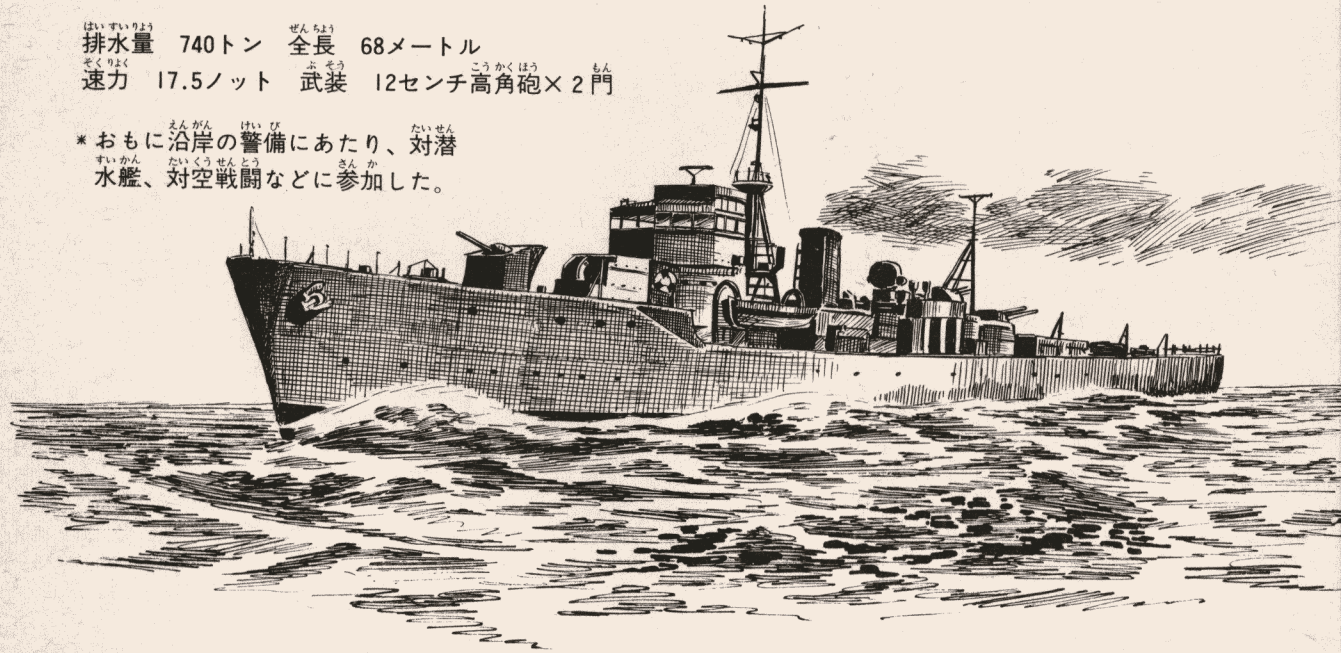


▲丁型海防艦・第8号

●海防艦（丁型）

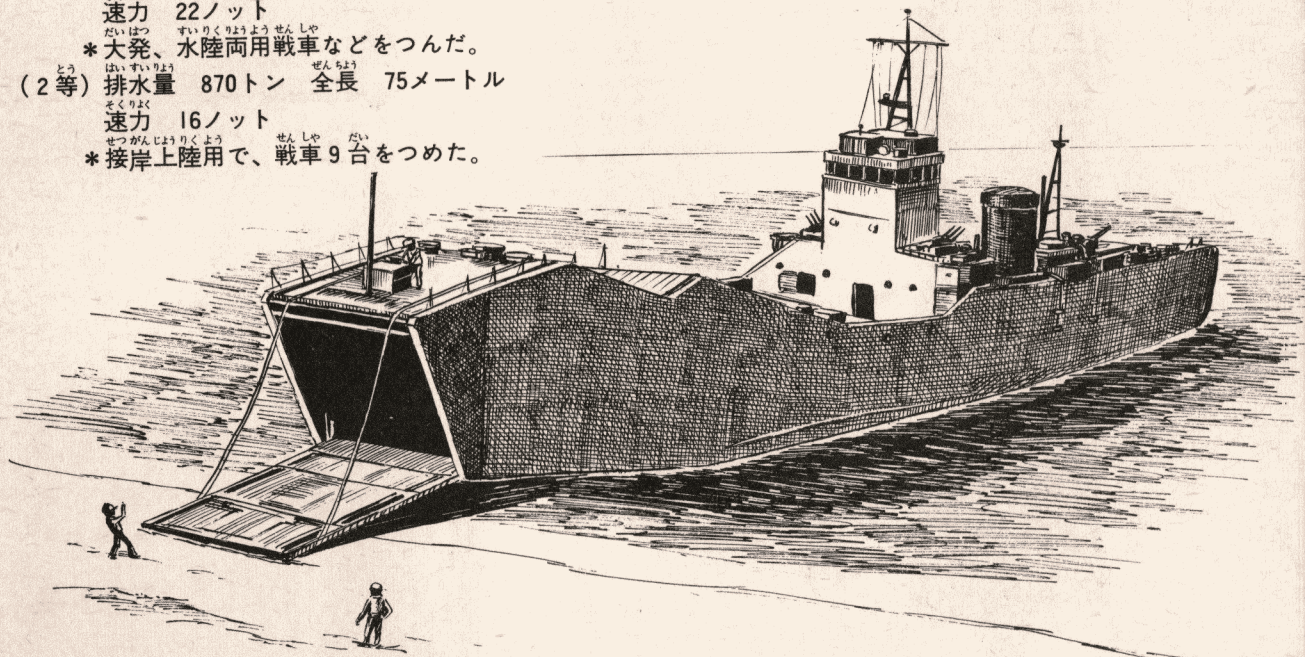
排水量　740トン　全長　68メートル
速力　17.5ノット　武装　12センチ高角砲×２門

＊おもに沿岸の警備にあたり、対潜水艦、対空戦闘などに参加した。



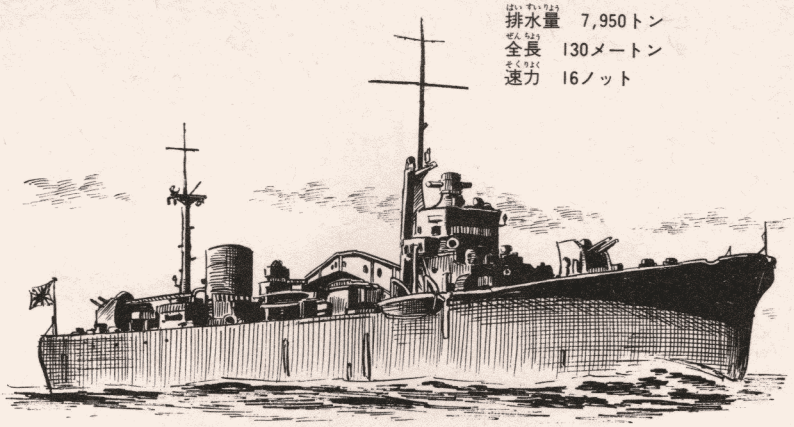
●輸送艦

（1等）排水量　1,500トン　全長　94メートル
速力　22ノット
＊大発、水陸両用戦車などをつんだ。
（2等）排水量　870トン　全長　75メートル
速力　16ノット
＊接岸上陸用で、戦車9台をつめた。



●給油艦 足摺

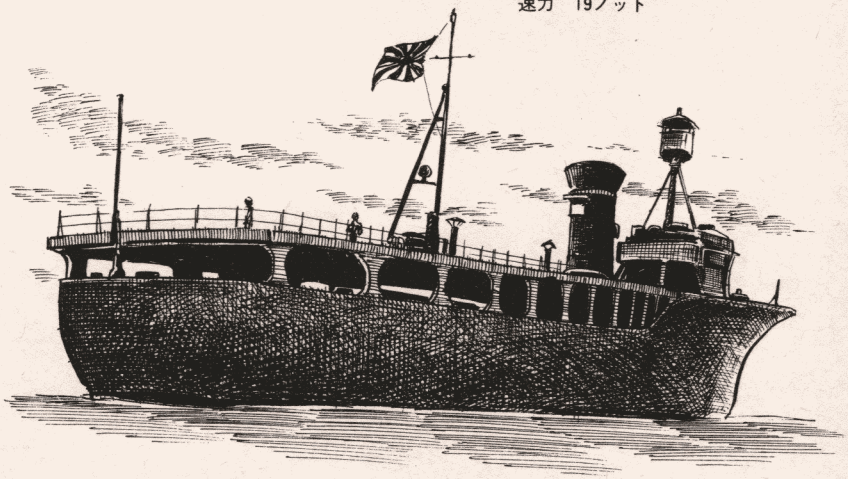
排水量　7,950トン
全長　130メートン
速力　16ノット



＊甲板は30キロ演習爆弾にたえることができる。マストや煙突にも防御がほどこされている。

●標的艦 波勝

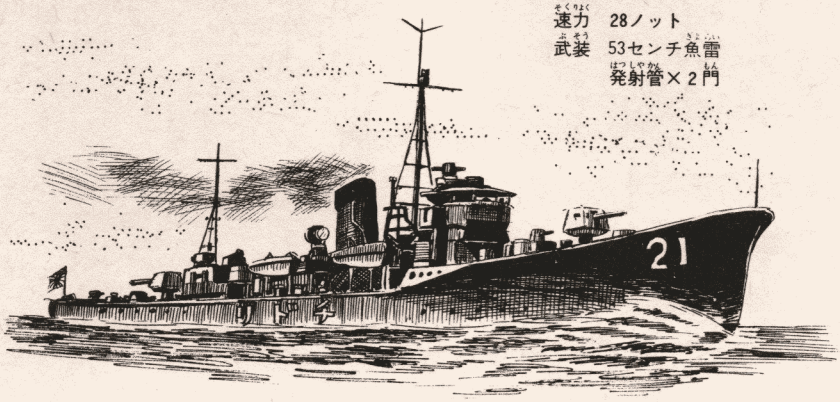
排水量　1,640トン
全長　92メートル
速力　19ノット



●水雷艇 千鳥

＊雷撃をもって敵艦を急襲する目的でつくられた。

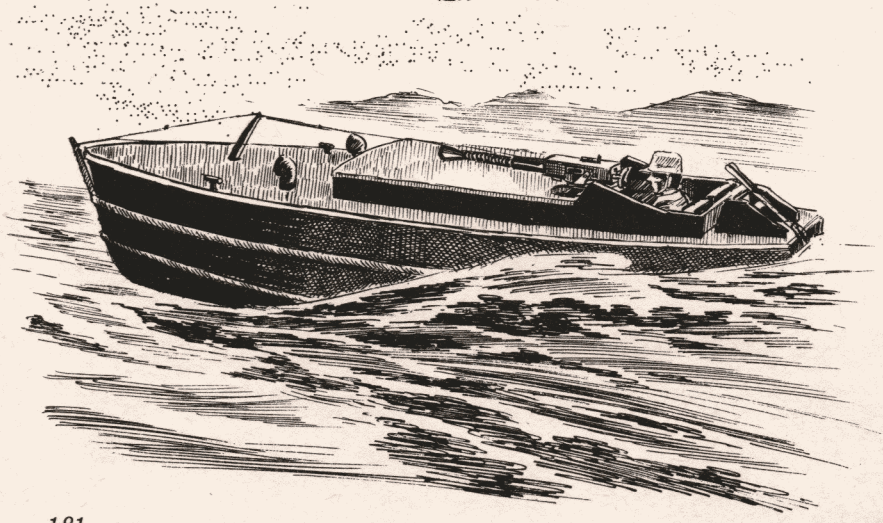
排水量　600トン
全長　79メートレ
速力　28ノット
武装　53センチ魚雷発射管×2門

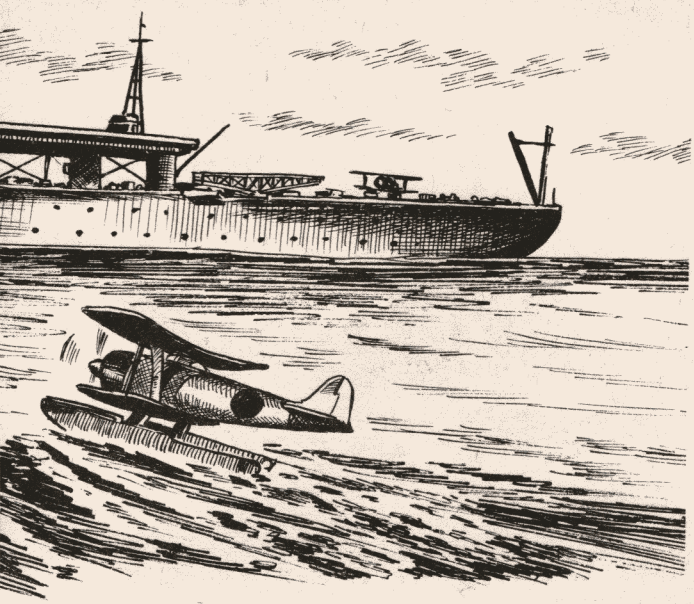


●小型高速爆破艇 震洋

＊炸薬250キロをもって，敵艦に体当りする特攻兵器。

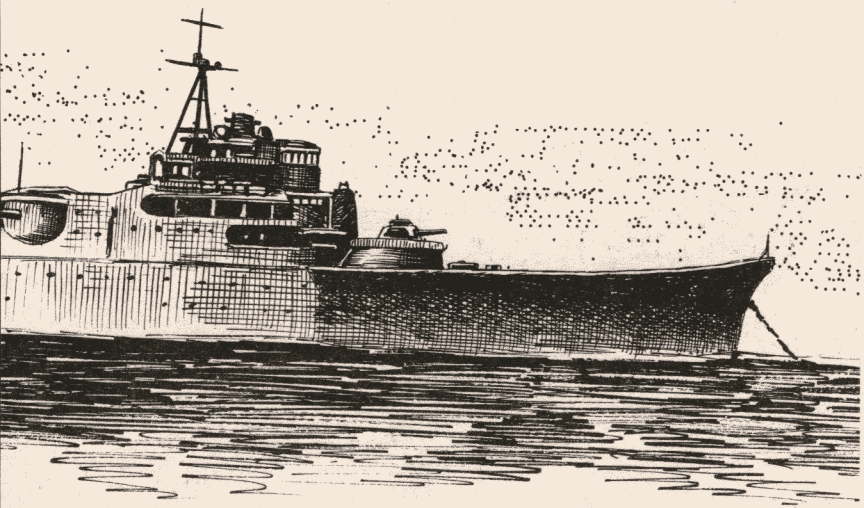
排水量　1,4トン
全長　5メートル
速力　26ノット

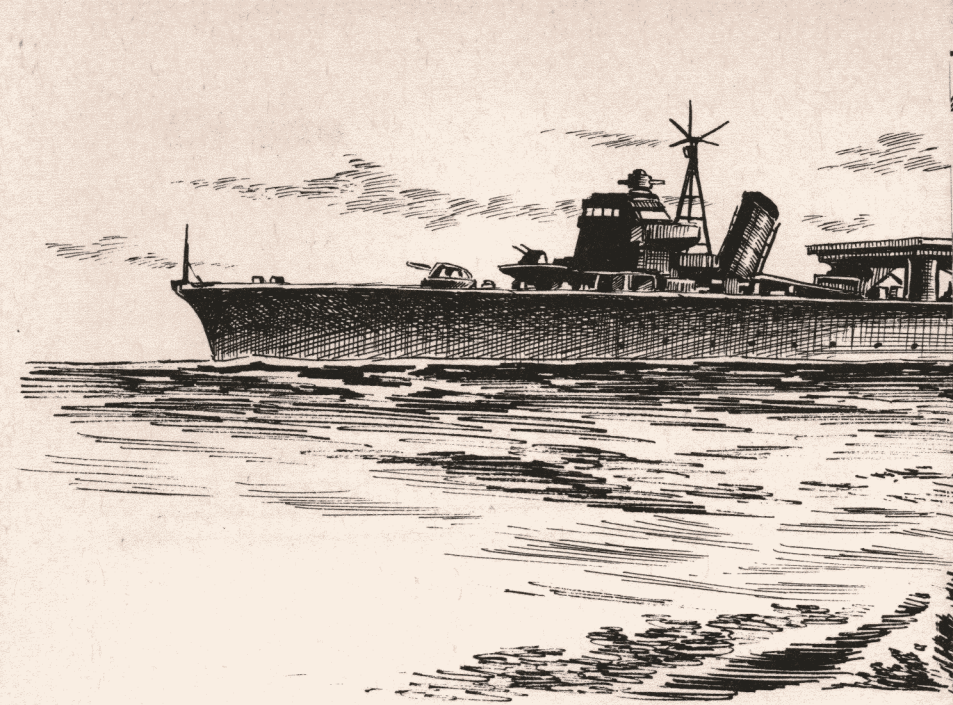




●水上機母艦　千歳

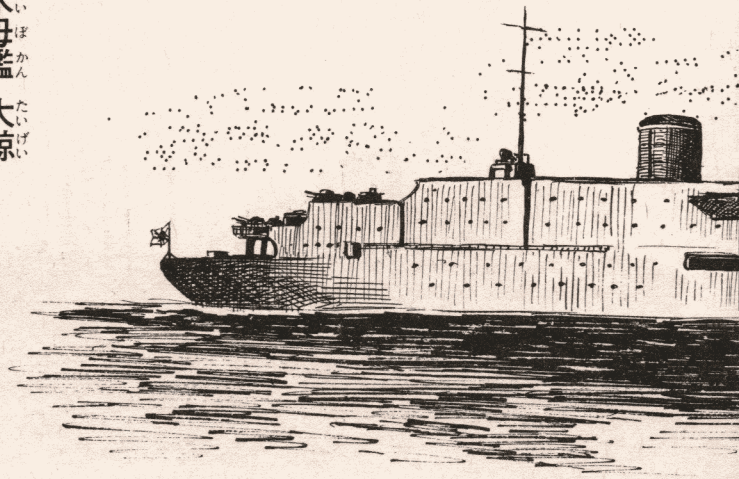
＊空母のように飛行甲板はなく、飛行機は、カタパルトか水上滑走で発艦した。





●潜水母艦　大鯨

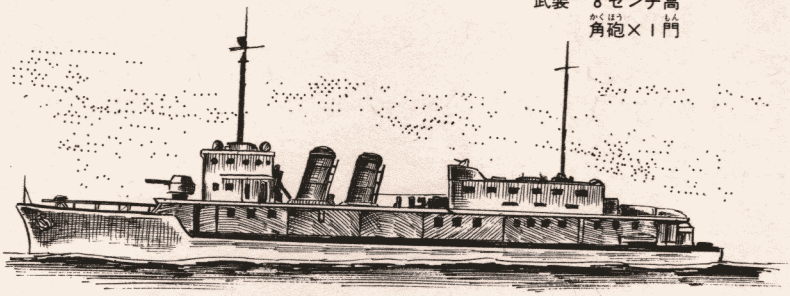
＊潜水艦を収容したら、修理する役目をもつ。後に空母「龍鳳」に改造された。



●砲艦 熱海

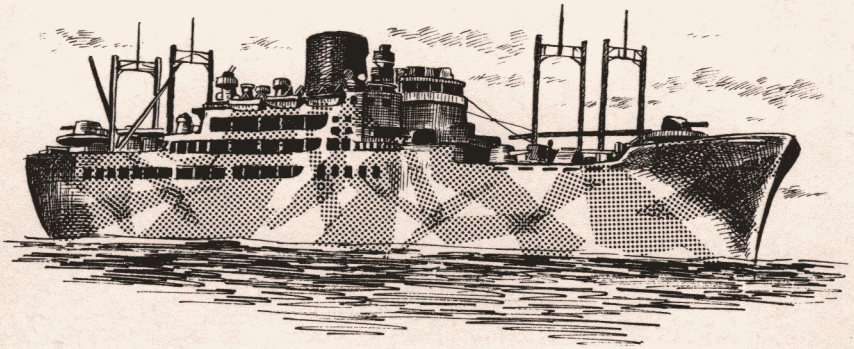
排水量　205トン
全長　45メートル
速力　16,8ノット
武装　8センチ高角砲×1門

＊大きな河をさかのぼって、河岸の敵を砲撃したりするので「河用砲盤」ともよばれた。



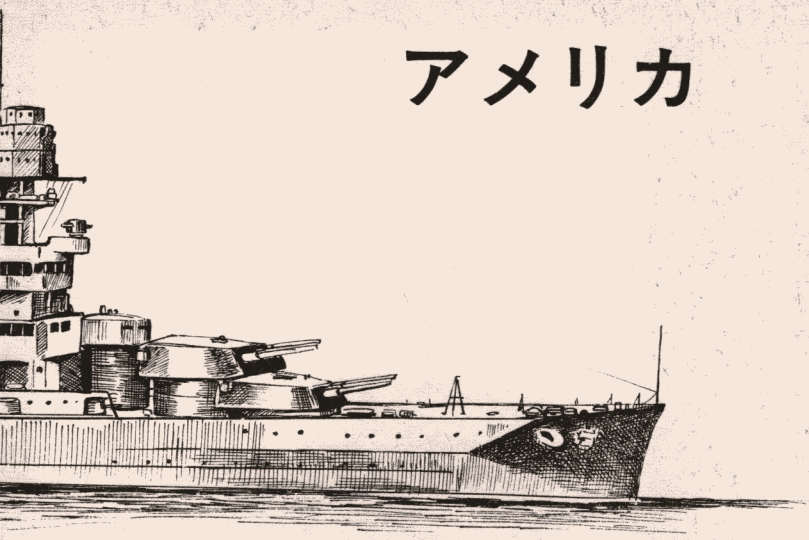
●特設巡洋艦 愛国丸

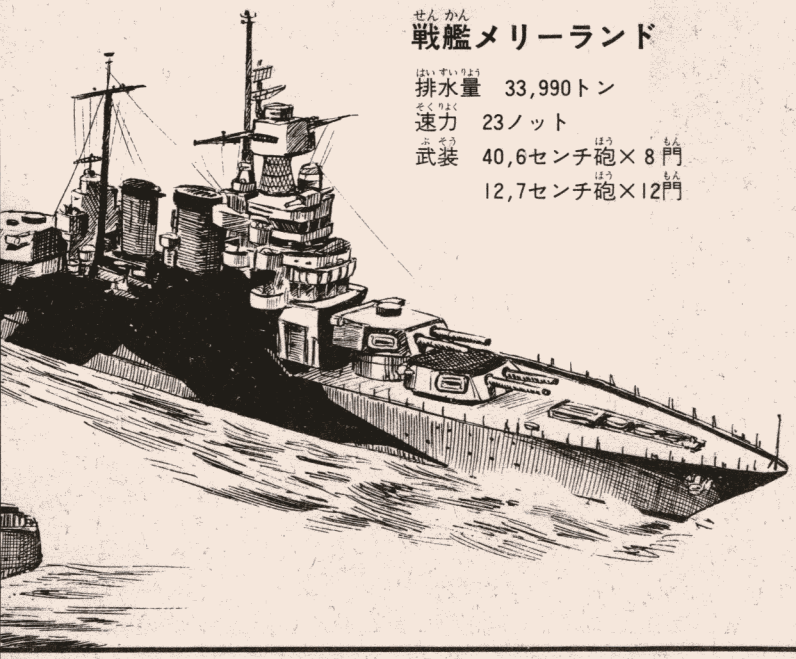
＊貨客船に武装をほどこしたもので、敵商船の破壊に活躍した。



海軍小事典（かいぐんしょうじてん）

アメリカ



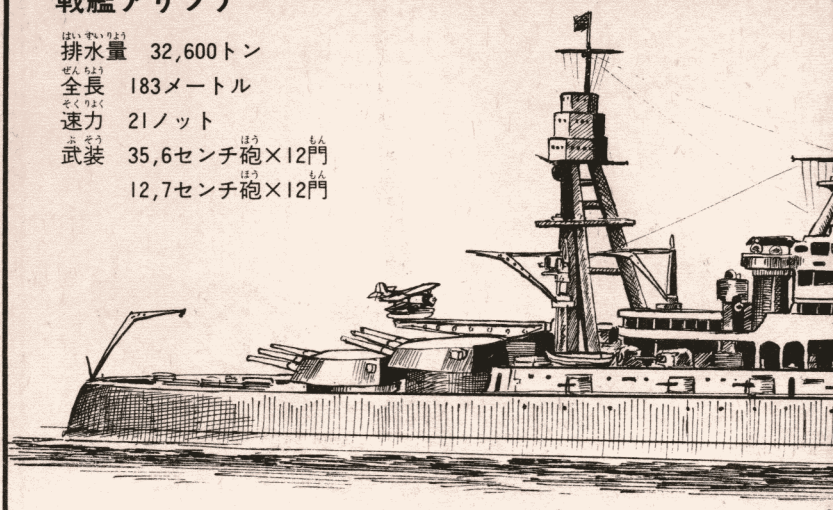


戦艦メリーランド

排水量　33,990トン
速力　23ノット
武装　40,6センチ砲×8門
　　12,7センチ砲×12門

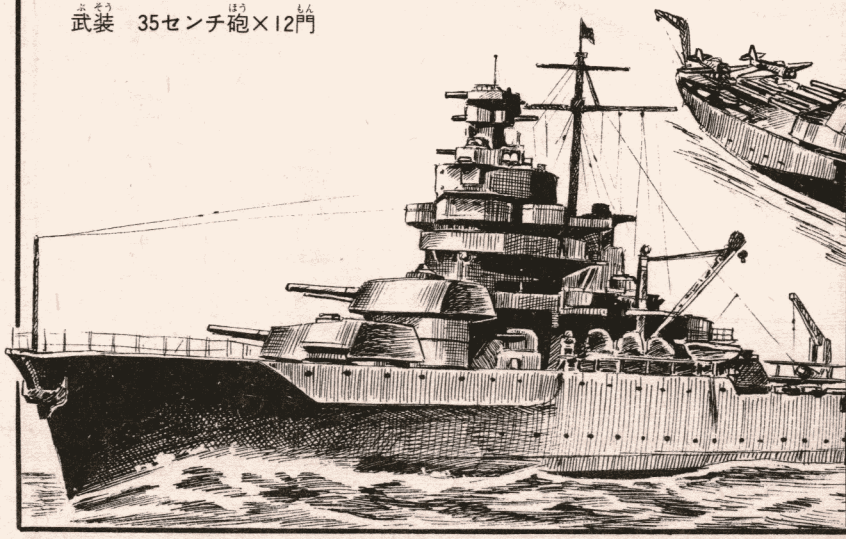
戦艦アリゾナ

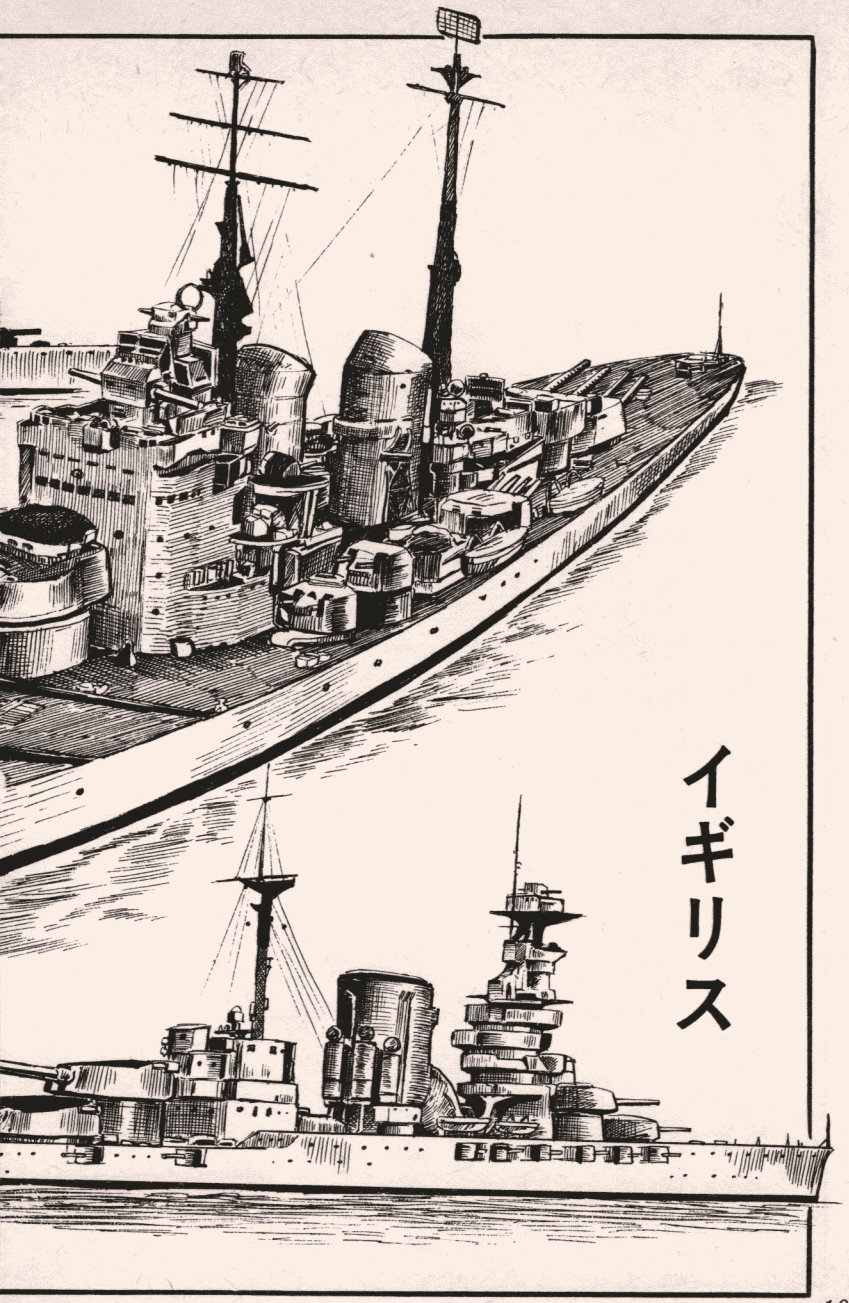
排水量　32,600トン
全長　183メートル
速力　21ノット
武装　35,6センチ砲×12門
　　12,7センチ砲×12門



戦艦アイダホ

排水量　32,600トン
速力　21ノット
武装　35センチ砲×12門

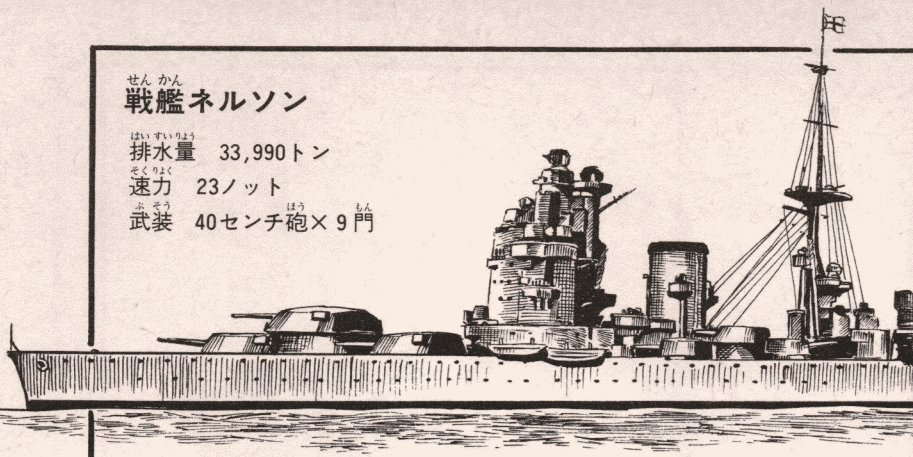




イギリス

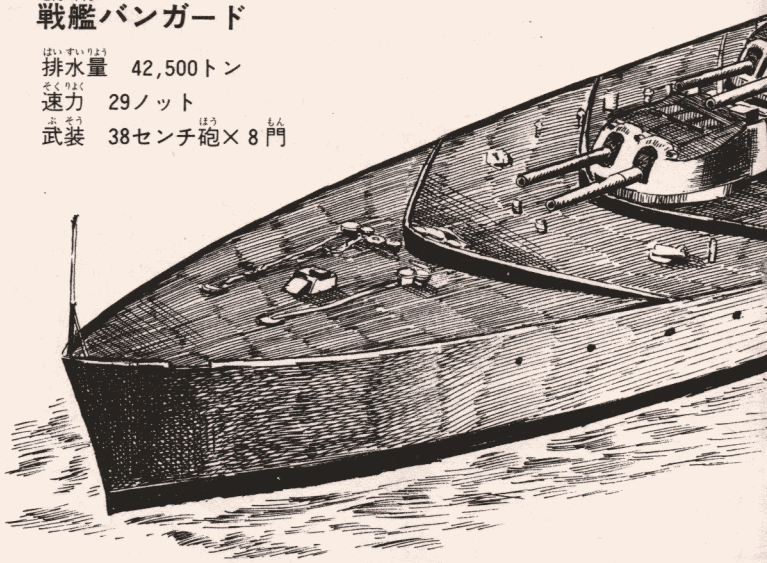
戦艦ネルソン

排水量　33,990トン
速力　23ノット
武装　40センチ砲×９門



戦艦バンガード

排水量　42,500トン
速力　29ノット
武装　38センチ砲×８門



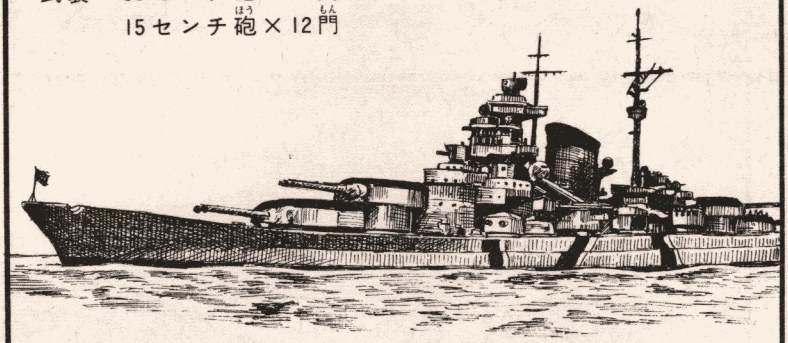
戦艦クィーン・エリザベス

排水量　32,700トン
速力　23ノット
（大改装前）

ドイツ

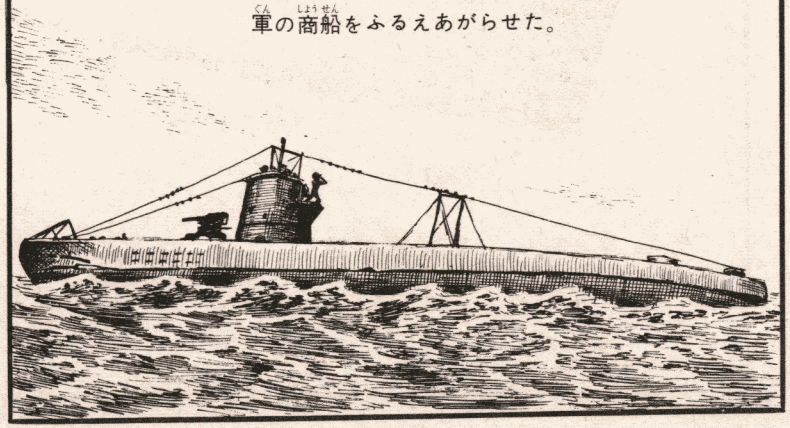
戦艦ビスマルク

排水量　42,000トン
速力　29ノット
武装　38センチ砲×8門
　　15センチ砲×12門

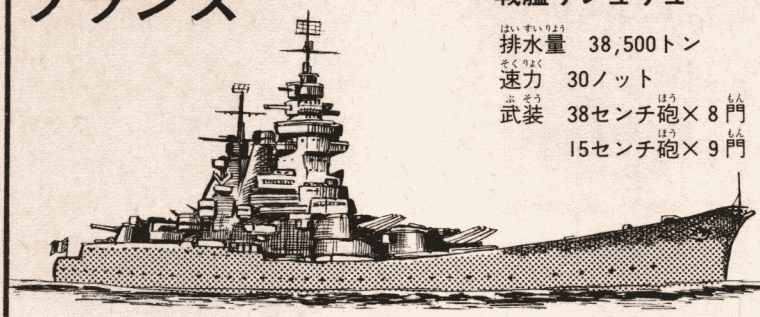


Uボート

＊Uボートとは「海の下のボート」つまり潜水艦の意味で、いろいろな型があったが、小型のものが多い。Uボートの活躍は連合軍の商船をふるえあがらせた。



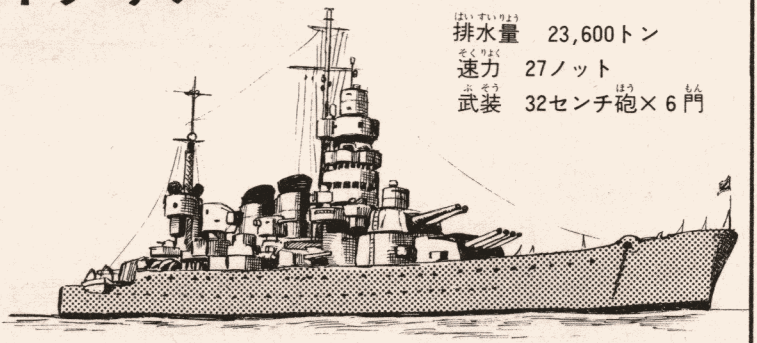
フランス



戦艦リシュリュ

排水量　38,500トン
速力　30ノット
武装　38センチ砲×8門
　　15センチ砲×9門

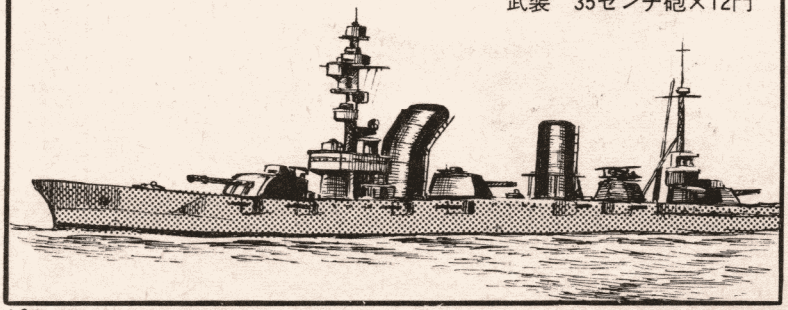
イタリア



戦艦カイオ・デュリオ

排水量　23,600トン
速力　27ノット
武装　32センチ砲×6門

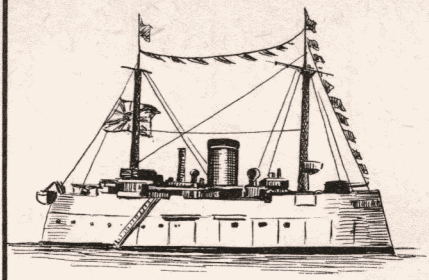
ソ連



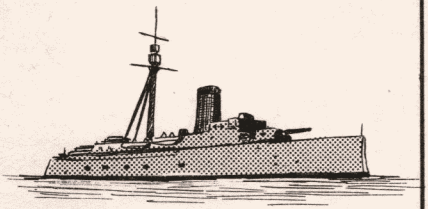
戦艦マラート

排水量　23,400トン
速力　23ノット
武装　35センチ砲×12門

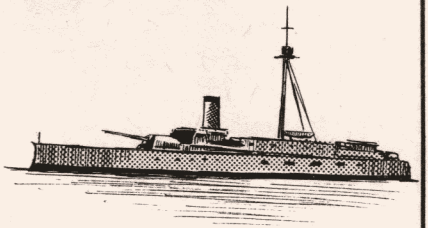
日本軍艦の夜明け



◀甲鉄フリゲート「扶桑」
明治の初め、イギリスから買った日本初の装甲艦。24センチ砲をそなえたと17センチ砲半帆船である。



▶巡洋艦「松島」
フランスでつくられた変則軍艦。排水量4,300トン、32センチ砲をそなえた一流艦だが舷側には装甲がなかった。



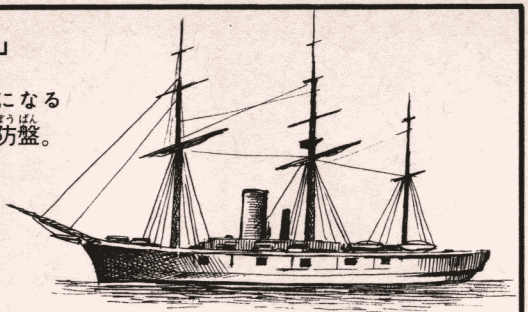
▶巡洋艦「橋立」
横須賀でつくられた純国産船で、「松島」「厳島」とともに三景船といわれ、明治27年の黄海海戦に活躍した。

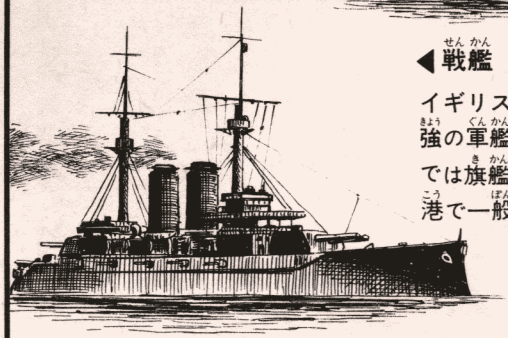
世界最初の鉄甲船

十六世紀の末、豊臣秀吉は朝鮮に出兵した。朝鮮の李舜臣提督は、鉄製の亀船をひきいて応戦、日本水軍を打ち破ったが、船の性能については、くわしくはわかっていない。

▶コルベット艦「金剛」

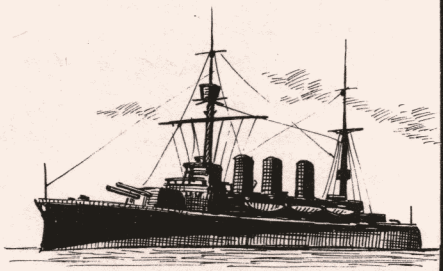
イギリス人リードの設計になる軽い装甲をほどこした海防盤。安くできたので、明治中期の日本海軍の主体をなした。





◀戦艦「三笠」

イギリスから買った、当時世界最強の軍艦。日露戦争の日本海海戦では旗艦として活躍。現在、横浜港で一般公開されている。



▶戦艦「安芸」

呉工廠でつくられた世界屈指の巨艦で、日本造船技術の進歩を世界中に知らせた。

恐怖の日本海賊船

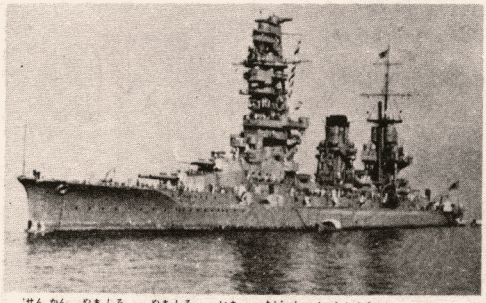
室町時代、倭冠とよばれた日本商人たちは、八幡船という船を使って、中国、朝鮮の沿岸をあらしまわり恐れられた。

日本軍艦の命名法

旧帝国海軍では、おおよそ次のような方法で、軍艦の名をつけていたのだ。

●戦艦

戦艦には、明治時代から、日本の昔の国（地方）の名が、つけられていた。「大和」「武蔵」の二大ド級艦は、昔の日本の中心地・大和（奈良）と明治以後の中心地・武蔵（東京）からとられている。また、「扶桑」は日本の国の別名だ。ほかに、「長門」は今の山口地方、「日向」は宮崎、「山城」は京都、「伊勢」は三重「陸奥」は、岩手・青森地方の名。



▲戦艦「山城」。山城は今の京都府南東部の地名。

なお、戦艦「金剛」「榛名」「霧島」「比叡」は、山の名だが、これはもともと巡洋戦艦としてつくられたからだ。

●巡洋艦

一等巡洋艦（重巡）には、山の名がつけられている。

「愛宕」「足柄」「鳥海」「羽黒」「妙高」「高雄」「那智」などは、いずれも有名な山の名前だ。そのほか、古いものでは、「笠置」「春日」「畝傍」（いずれも大和地方の神山・名山の名）といったものもある。

＊　＊　＊

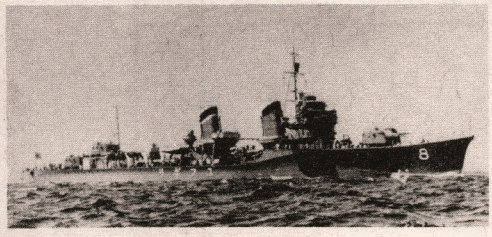
二等巡洋艦（軽巡）には川の名がつけられている。

「最上」「利根」「大井」「木曾」「五十鈴」「阿武隈」「矢矧」「大淀」「加古」「筑摩」「三隈」「天竜」などがそれである。この中には、後に改造されて、一等巡洋艦に

なったものである。

＊　＊　＊

●駆逐艦


▶駆逐艦「夕霧」

駆逐艦には、天文、気象、または植物の名がつけられている。

「秋月」「夕霧」「朝風」「吹雪」「春雨」「初霜」など、四季の風景からとったものが多く、また「陽炎」「朝潮」「綾波」なども、自然の風物に関係あるものだ。

また、小型の駆逐艦には、木、草、花などに関係した名がつけられている。

「松」「橘」「桃」「桜」などがそれだ。

駆逐艦には、武骨な軍艦とは思えないような、ずいぶんロマンチックな名がつけられていたわけだ。

＊　＊　＊

●空母

航空母艦の名前のつけ方には、あまりはっきりした基準がない。

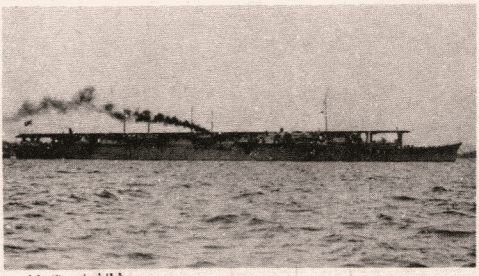
「赤城」「加賀」「信濃」は、はじめ戦艦としてつくられたために、山または国の名がつけられている。

「翔鶴」「鳳翔」「飛竜」「蒼竜」などは、明治以来の由緒ある船の名からとられている。

ただ、「海鷹」「雲竜」「祥鳳」などの名をみると、一般に、鳳凰（中国に古くからいいつたえられた霊鳥）、竜など想像上の動物と関係した名が多くつけられているようだ。

＊　＊　＊

●潜水艦

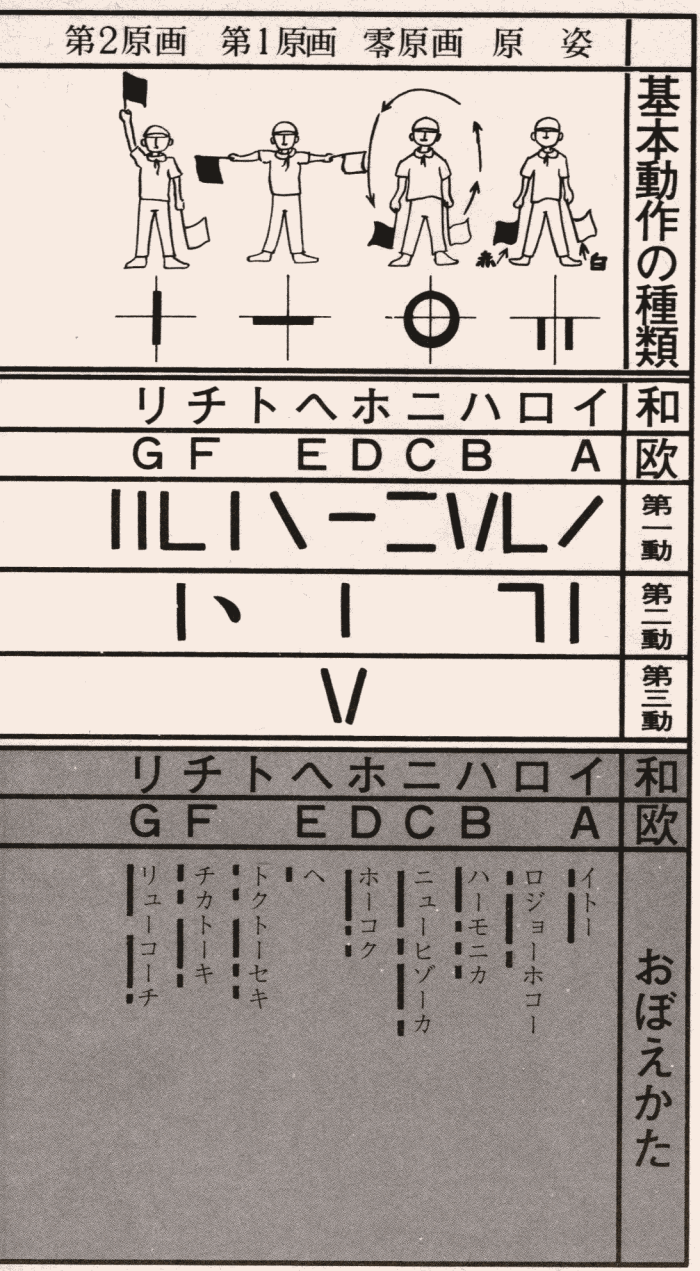

▲空母「祥鳳」

潜水艦は、伊、呂、波、という略号と番号の組み合せでよばれた。

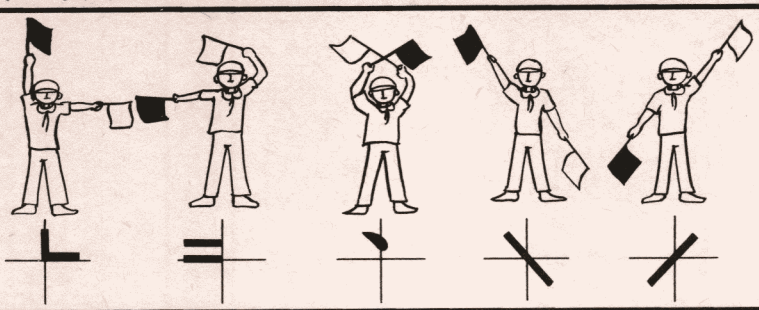
手旗信号とモールス信号

軍艦の大切な通信手段だ。

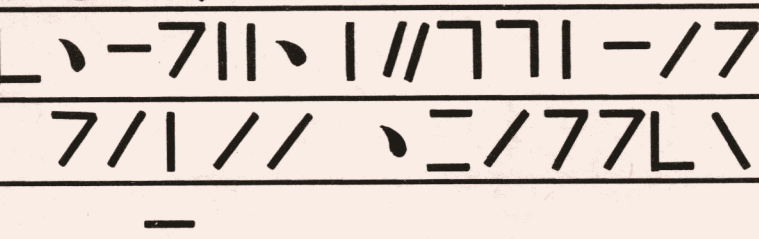
●モールス信号の方法



第7原画　第6原画　第5原画　第4原画　第3原画



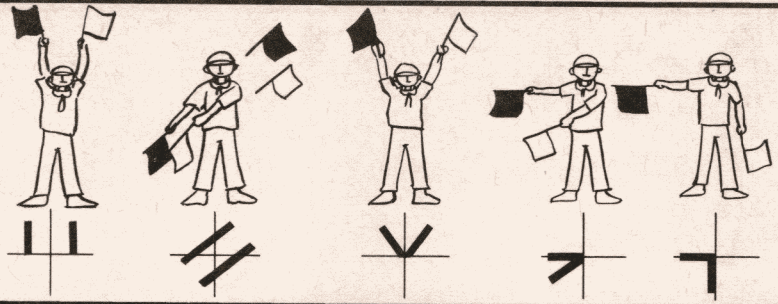
ムラナネツソレタヨカワヲルヌ
TSRQP ONMLKJIH



ムラナネツソレタヨカワヲルヌ
TSRQP ONMLKJIH

ヌリモノ
ルールシューセース
ヲショーショーコー
ワートユー
カトーセキ
ヨーコー
ターール
レーソーヨー
ソートーコーカ
ツゴードーカ
ネーソーダロー
ナローター
ラムネ
ムー

第12原画　第11原画　第10原画　第9原画　第8原画



ユキサアテエコフケマヤクオノヰウ

Z Y X W V U

ユキサアテエコフケマヤクオノヰウ

Z Y X W V U

ウタゴー

ノギトーゴー

オモーココロ

クルシソー

ヤキュージョー

マーマカソー

ケーカリョーコー

フートーハル

コートーコーギョー

エーゴエービーシー

テスーナホーホー

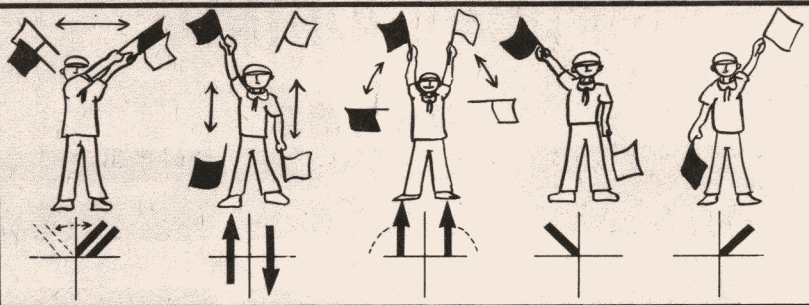
アーユートコーユー

サーイコーイコー

キーテホーコク

ユーコクユーソー

解信　応信　起信　第14原画　第13原画



〇〃ー（寸）スセモヒエシミメ

ヽノハ　ー　フニーフ丶ニノ

ー　ー　LLLノレーハ

丶　ー

（）「？ー〇〃ンスセモヒエシミメ

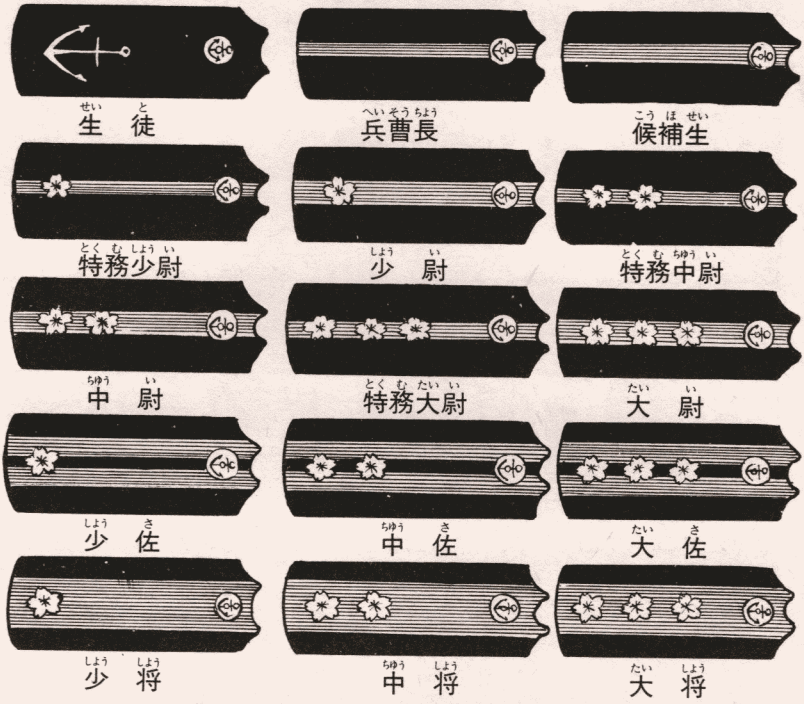
メーゲツダロー
ミセヨーミヨー
シュートーナチューイ
エコーメーフク
ヒョーローケツボー
モーシトコーシ
セヒョーリョーコーダ
スーリョーチョーサヒョー
ンメーンメーナ

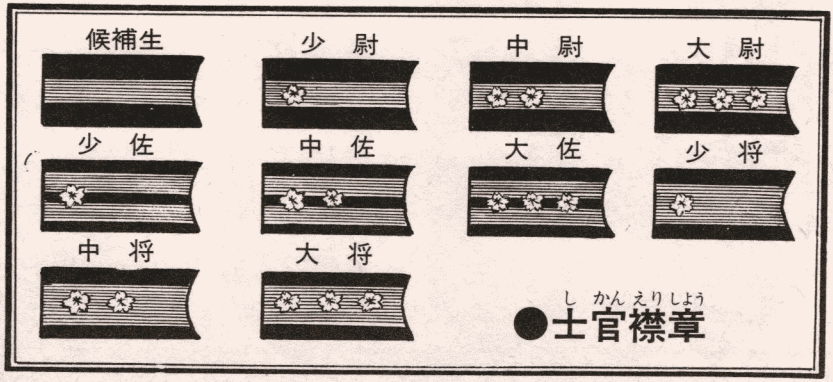
濁音　ダク
半濁音　パスツーヨーキ
長音　ナゴーボーカコー
疑問符（ぎもんふ）　ウタゴーヨータカ
段落　トメートメートメー

（）ホーイヨーホーキゴー
ウホーカラヘーサ

帝国海軍の階級章

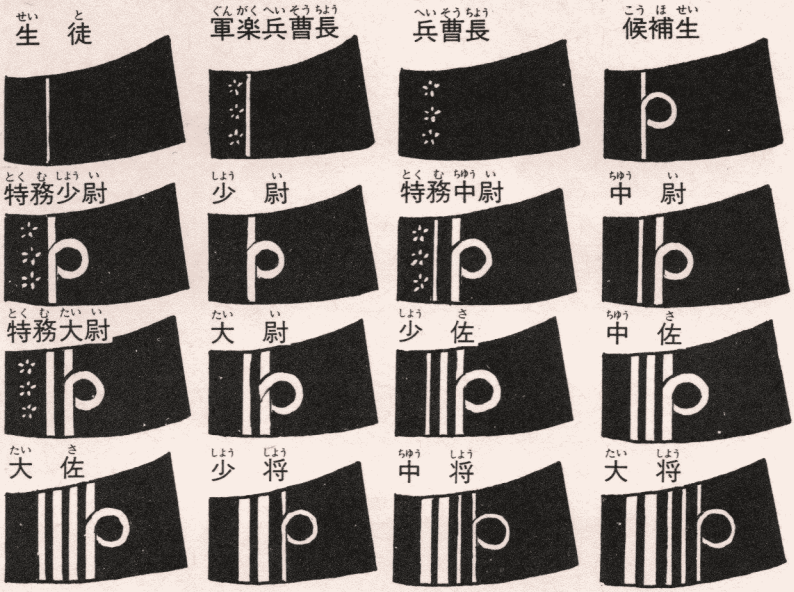
●士官肩章



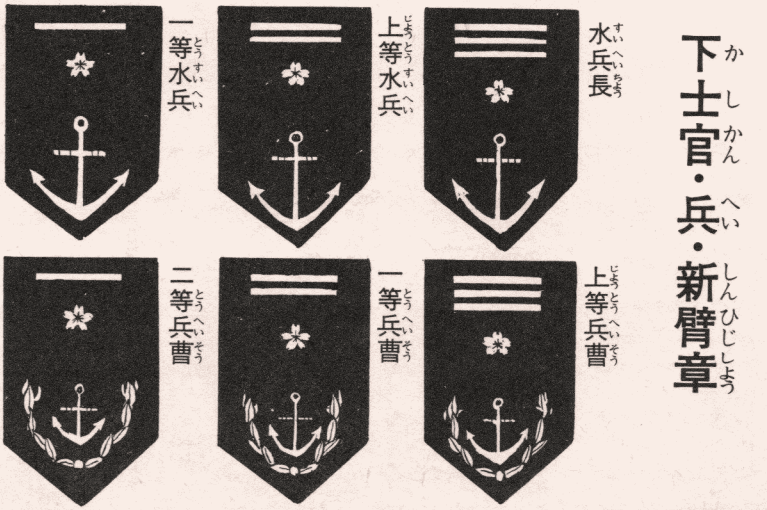


●士官襟章

●士官袖章



下士官・兵・新臂章



●太平洋戦争のおもな海戦

これほど数多い海戦が戦われた戦争は、かつてない。ここに、そのおもな戦いをかかげた。

	海戦名	年月日	日本側の損害	米英側の損害
①	ハワイ海戦	一九四一・一二・八	飛28	戦4・飛188
②	マレー沖海戦	〃・一二・一〇	飛3	戦2・駆1
③	スラバヤ沖海戦	一九四二・二・二七	飛20	巡2・駆3
④	バタビヤ沖海戦	〃・三・一		巡2・駆3
⑤	セイロン島沖海戦	〃・四・五		空1・巡2・駆1・飛90
⑥	珊瑚海海戦	〃・五・七～八	空1・駆1・飛80	空1・駆1・飛66
⑦	ミッドウェー海戦	〃・六・四～六	空4・巡1・飛235	空1・駆1・飛150
⑧	第一次ソロモン海戦	〃・八・九		巡4
⑨	第二次ソロモン海戦	〃・八・二三～二五	空1・駆1・飛90	飛20
⑩	サボ島沖夜戦	〃・一〇・二～一	巡1・駆2	駆1
⑪	南太平洋海戦	〃・一〇・二六～二	飛100	空1・駆1・飛74

第三次ソロモン海戦	⑫	〃	戦2・巡ー・駆3	巡2・駆7	
ルンガ沖夜戦	⑬	〃	駆ー	巡ー	
レンネル島沖海戦	⑭	一九四三・一・二九～三〇		巡ー	
ビスマルク海海戦	⑮	〃	駆4・飛20	飛5	
クラ湾夜戦	⑯	〃	駆2	巡ー	
コロンバンガラ島沖夜戦	⑰	〃	巡ー	駆ー	
ブーゲンビル島沖海戦	⑱	〃	巡ー・駆ー		
マリアナ沖海戦	⑲	一九四四・六・一九～二〇	空3・飛395	飛130	
シブヤン海海戦	⑳	〃	戦ー・駆ー		
スガリオ海峡海戦	㉑	〃	戦2・巡ー・駆4	巡ー	
サマール沖海戦	㉒	〃	巡4・駆2	空2・駆3	
エンガノ岬沖海戦	㉓	〃	空4・巡ー・駆2・飛600	飛200	
空母信濃沈没	㉔	〃	空ー	戦ー・巡ー・駆4	飛10
戦艦大和沈没	㉕	一九四五・四・七			

●海戦名の下の番号は、次ページの海戦図の番号に相当します。
●損害は沈没のみ。戦＝戦艦、空＝空母、巡＝巡洋艦、駆＝駆逐艦。なお、飛＝墜落した飛行機をあらわす。

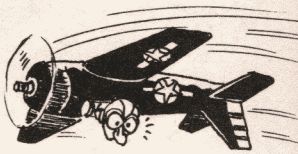
●太平洋戦争の主な海戦図

⑦ ミッドウェー島

⑲
マリアナ諸島

①
ハワイ諸島

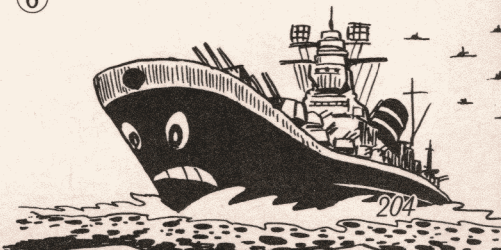
太平洋



⑮
ソロモン諸島

⑱ ⑯ ⑧ ⑨ ⑫ ⑬
⑩
⑰
⑪
⑥
⑭

リア



ソ連
中国
フィリピン
インド洋
ニューギニア
オーストラ
①
②
③
④
⑤
⑳
㉑
㉒
㉓
㉔
㉕

いちばんくわしい
ヒョウのマークの
ジャガーバックス

SF・恐怖シリーズ

空飛ぶ円盤

星野ひとし
五三〇円

UFOはどこからやってくるのか？ 多くの実例でその謎を解く！

宇宙人のなぞ

高坂剋魅
五三〇円

インベーダーか神か？ 謎の多い宇宙人の正体を地球遺跡から探る。

SFクイズ **名探偵宇宙に挑戦**

梶 龍雄
五三〇円

宇宙を舞台にした完全犯罪をあばけ!! 君を宇宙に招くSFクイズ。

大地震88のなぞ

飯田五郎
五五〇円

マクニチュードとは何か？ 地震予知の方法などを明かす地震百科。

恐竜図鑑

草川 昭
五三〇円

最強の恐竜はなにか？とくい技はなにか？巨大恐竜のすべてを公開

太平洋戦争　**日本の軍艦**

編　著	山梨賢一
装　幀	佐川　弘
イラスト	北沢しげる　あいかわ一誠
	梶田達二　前村教綱
協　力	佐藤和正　「丸」編集部

東京都品川区東五反田3—6—18 電話(03)447—1191

本書についてのご意見ご希望は「ジャガーバックス編集部」あてにおよせ下さい。

立風書房

©1974年

いちばんくわしい
ヒョウのマークの
ジャガーバックス

怪奇シリーズ

日本妖怪図鑑

おそろしいやつ、ゆかいなやつ300の妖怪が勢ぞろいする妖怪決定版。

佐藤有文
五八〇円

世界妖怪図鑑

世界中の妖怪をすべて集めた恐怖と怪奇の大パノラマ図鑑！

佐藤有文
五八〇円

幽霊大百科

幽霊やお化けがゾクゾク登場する大百科。幽霊の出身地もわかるよ。

佐藤幽斎
五八〇円

地獄大図鑑

死後の世界をてっていてきに解明し地獄の謎にせまる怪奇図鑑。

木谷恭介
五八〇円

魔術妖術大図鑑

悪魔や魔女をわかりやすく紹介。魔法・魔術のかけ方がわかる本!!

辰巳一彦
五三〇円

ヒョウのマークのジャガーバックス　小・中学生に大好評

世界の超能力者

念力やテレパシーなど超能力をもつエスパーたちを徹底的に解明！

佐藤有文
五三〇円

いちばんくわしい
ヒョウのマークの
ジャガーバックス

快記録・珍記録シリーズ

新びっくり日本一世界一

新記録・珍記録の世界一日本一をマンガと写真でバンバン紹介！

間羊太郎
五八〇円

へんな学校

学校では教えてくれない珍知識や珍情報でいっぱいのへんな本。

間羊太郎
五三〇円

びっくり知識0から100

数字にまつわるおかしな話や珍らしい知識を紹介したびっくり知識。

滝沢てるお
五三〇円

スポーツ日本一世界一

スポーツ記録の限界に挑戦した大記録と珍記録を満載した楽しい本。

大谷要三
五三〇円

いちばんくわしい
ヒョウのマークの
ジャガーバックス

メカニズムシリーズ

日本の軍艦

山梨賢一
五八〇円

太平洋戦争中のすべての軍艦の戦闘とそのメカニズムを完全紹介。

決戦！日本連合艦隊

滑 清紀
五五〇円

海軍のおいたち・海戦・秘密兵器のメカニズムを豊富な図説で紹介。

日本の飛行機

櫻井英樹
五三〇円

太平洋戦争中の空の戦闘とそのメカニズムを完全紹介した決定版。

世界の飛行機

三橋忠之
五三〇円

飛行機の色いろを、戦闘機から民間機まで写真とイラストで紹介！

ドイツ機甲軍団

中西立太
五八〇円

第二次大戦のドイツ戦車や機甲軍団のすべてのメカニックを紹介。

ヒョウのマークのジャガーバックス　小・中学生に大好評

大戦争図鑑

渡辺幸次郎
五五〇円

古今東西の大戦争を図解・イラストで紹介。兵器の変せんもある！

世界拳銃図鑑

山梨賢一
五五〇円

必殺のガンプレイとは？ ガンマンの決闘や世界の名銃を大公開。

スーパーカー

三本和彦
六八〇円

ランボルギーニ、フェラーリなどスーパーカー勢ぞろい大公開。

マシーン&レーシング

F1グランプリ

折口 透
六五〇円

F1ニューマシーン・カタログと世界のサーキット完全図解！

陸上 航空 海上

自衛隊図鑑

山梨賢一
六〇〇円

新型戦闘機・スーパー戦車・ミサイル艦などの自衛隊全装備を紹介。

名艦!!日本連合艦隊

滑 清紀
六〇〇円

戦艦・空母・巡洋艦・駆逐艦・潜水艦のメカ図解と参加海戦のすべて。

ジャガーバックス
には、たのしい本
が、そろいます！

●日本の飛行機

太平洋戦争中のすべての飛行機の戦い，メカニズムを完全紹介。

●日本の軍艦

太平洋戦争中のすべての軍艦の戦闘，そのメカニズムを紹介。

●決戦！日本連合艦隊

海軍のおいたち・海戦・秘密兵器・メカニズムを紹介。決定版！

●ドイツ機甲軍団

第二次大戦のドイツ戦車と機甲師団のすべてとそのメカニズム。

●世界拳銃図鑑

必殺のガンプレイとは？　ガンマンの決闘や世界の名銃を紹介。

●スーパーカー

ランボルギーニ，フェラーリなどスーパーカー勢ぞろい大公開。

ジャガーバックス
太平洋戦争 日本の軍艦　580円

1974年1月20日　第1刷発行
1979年1月15日　第18刷発行

編　者　©山梨賢一
発行者　下野　博
発行所　株式会社立風書房
東京都品川区東五反田3の6の18
〒141 電話・東京（447）1191代表
振替東京　5－74493
印　刷　廣済堂印刷株式会社

落丁．乱丁本はおとりかえいたします。
8376—R0506—8909

本書についてのご意見ご希望は「ジャガーバックス編集部」あてにおよせ下さい。

ジャガーバックス

★栄光と悲劇にいろどられた太平★
★洋戦争・日本海軍艦艇のすべて★

580円

立風書房